

京都薬科大学教育研究業績録

第 3 3 集

2 0 1 4

(2 0 1 4年1月～12月)

2 0 1 5

教員一覽表

2014年5月現在

	教授	准教授	講師	助教	助手
学長	乾 賢一			高尾 郁子	
副学長	後藤 直正				
薬化学	上西 潤一			星谷 尚亨	
薬品製造学	山下 正行		小島 直人	岩崎 宏樹	
薬品化学	赤路 健一			服部 恭尚	
				小林 数也	
生薬学	松田 久司	中村 誠宏			
薬品分析学	北出 達也	武上 茂彦			小西 敦子
代謝分析学	安井 裕之				内藤 行喜
薬品物理化学	小暮健太郎		濱 進	扇田 隆司	
衛生化学	長澤 一樹			西田健太郎	
公衆衛生学	渡辺 徹志			長谷井友尋	
微生物・感染制御学	(後藤 直正)			皆川 周	
				林 直樹	
細胞生物学	藤室 雅弘			賀川 裕貴	渡部 匡史
生化学	中山 祐治			齊藤 洋平	
				久家 貴寿	
病態生理学	芦原 英司	北村 佳久		高田 和幸	
病態生化学	秋葉 聡		石原 慶一		金井 志帆
薬物治療学	加藤 伸一		天ヶ瀬紀久子	松本 健次郎	
臨床薬理学	中田 徹男	小原 幸		鳥羽 裕恵	大東 誠
薬理学	大矢 進	藤井 正徳			
臨床腫瘍学	吉貴 達寛			飯居 宏美	
薬剤学	山本 昌	坂根 稔康		勝見 英正	
				草森 浩輔	
薬物動態学	栄田 敏之		伊藤由佳子		
臨床薬学	西口 工司		辻本 雅之		峯垣 哲也
健康科学		長澤 吉則	沼尾 成晴		
物理学	有本 收				
数学					
一般教育	鈴木 栄樹	今井 千壽	坂本 尚志		
	實川 眞理子	桑形 広司			
		野崎亜紀子			
薬学英语	フォン フー ワー				
薬学教育研究センター	細井 信造			開 章宏	吉村 典久
					高木 愛未
臨床薬学教育研究センター	高山 明	津島 美幸	中村 暢彦	松村千佳子	
	橋詰 勉		今西 孝至		
	矢野 義孝		本橋 秀之		
			河野 修治		
情報処理教育研究センター	(乾 賢一)	藤原 洋一	石川 誠司		
学生実習支援センター	(北出 達也)	木村 徹	竹島 繁雄	小関 稔	大谷 有佳
			若槻 徹	河野 享子	
				平山恵津子	
				(高尾 郁子)	
図書館	(赤路 健一)				
薬用植物園	(松田 久司)			月岡 淳子	
薬用植物園補助園	(松田 久司)				前田 晋作
放射性同位元素研究センター		山岸 伸行			
バイオサイエンス研究センター	(山本 昌)		西川 哲		
創薬科学フロンティア研究センター	(上西 潤一)				
共同利用機器センター	(赤路 健一)		小川俊次郎	寺田 俊二	照屋千香子
			織田佳代子		

目 次

学 長	1
薬 化 学	3
薬 品 製 造 学	7
薬 品 化 学	12
生 薬 学	17
薬 品 分 析 学	25
代 謝 分 析 学	27
薬 品 物 理 化 学	33
衛 生 化 学	40
公 衆 衛 生 学	44
微生物・感染制御学	47
細 胞 生 物 学	51
生 化 学	55
病 態 生 理 学	59
病 態 生 化 学	63
薬 物 治 療 学	65
臨 床 薬 理 学	71
薬 理 学	74
臨 床 腫 瘍 学	79
薬 剤 学	81
薬 物 動 態 学	88
臨 床 薬 学	91
健 康 科 学	95
物 理 学	98
一 般 教 育	99
薬 学 英 語	102
薬学教育研究センター	104
臨床薬学教育研究センター	106
情報処理教育研究センター	113
学生実習支援センター	114
薬 用 植 物 園	115
放射性同位元素研究センター	117
バイオサイエンス研究センター	120
共同利用機器センター	121
補 遺	125

学長

著書

- 1) 堀 了平、奥村勝彦、乾 賢一 監修： *医療薬学 第6版* 廣川書店 (2014).

論文

- 1) Koji Kato, Haruyuki Mori, Tomoko Kito, Miyu Yokochi, Sumito Ito, Katsuhisa Inoue, Atsushi Yonezawa, Toshiya Katsura, Yuji Kumagai, Hiroaki Yuasa, Yoshinori Moriyama, Ken-ichi Inui, Hiroyuki Kusuhara, and Yuichi Sugiyama: Investigation of Endogenous Compounds for Assessing the Drug Interactions in the Urinary Excretion Involving Multidrug and Toxin Extrusion Proteins. *Pharm Res* **31**, 136-147 (2014).
- 2) Keiko Hosohata, Miwa Uesugi, Sachiyo Hashi, Mio Hosokawa, Ken-ichi Inui, Kazuo Matsubara, Kohei Ogawa, Yasuhiro Fujimoto, Toshimi Kaido, Shinji Uemoto and Satohiro Masuda: Association between CYP3A5 Genotypes in Graft Liver and Increase in Tacrolimus Biotransformation from Steroid Treatment in Living-donor Liver Transplant Patients. *Drug Metab. Pharmacokinet* **29(1)**, 83-89 (2014).
- 3) Tomohisa Nakada, Tomoko Kito, Katsuhisa Inoue, Satohiro Masuda, Ken-ichi Inui, Kazuo Matsubara, Yoshinori Moriyama, Noriko Hisanaga, Yasuhisa Adachi, Masayuki Suzuki, Ichimaro Yamada and Hiroyuki Kusuhara: Evaluation of the Potency of Telaprevir and Its Metabolites as Inhibitors of Renal Organic Cation Transporters, a Potential Mechanism for the Elevation of Serum Creatinine. *Drug Metab. Pharmacokinet* **29(3)**, 266-271 (2014).
- 4) Tomoyuki Mizuno, Masahide Fukudo, Tsuyoshi Fukuda, Tomohiro Terada, Min Dong, Tomomi Kamba, Toshinari Yamasaki, Osamu Ogawa, Toshiya Katsura, Ken-ichi Inui, Alexander A. Vinks, and Kazuo Matsubara: The Effect of ABCG2 Genotype on the Population Pharmacokinetics of Sunitinib in Patients With Renal Cell Carcinoma. *Ther Drug Monit* **36(3)**, 310-316 (2014).
- 5) Tomoyuki Mizuno, Tsuyoshi Fukuda, Satohiro Masuda, Shinji Uemoto, Kazuo Matsubara, Ken-ichi Inui, and Alexander A. Vinks: Developmental trajectory of intestinal MDR1/ABCB1 mRNA expression in children. *Br J Clin Pharmacol* **77(5)**, 910-912 (2013) published online: 22 APR 2014.

講演等

- 1) 乾 賢一: 講演「輝ける薬学・薬剤師の未来に向けて、今、求められるもの」第7回日本在宅薬学会学術大会 シンポジウム IV「6年制薬学教育と薬剤師 3.0」～6年制卒薬剤師が示す薬剤師のパラダイムシフト～ (大阪), 2014.7.
- 2) 乾 賢一: 特別講演「医療薬学の回顧と展望 ～医療現場とアカデミアの立場から～」第24回日本医療薬学会 (名古屋), 2014.9.

その他

- 1) 乾 賢一: 「6年制薬剤師の輩出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」平成25年度 厚生労働科学研究費補助金報告書 研究代表者 乾賢一

論文

- 1) Mingjuan Su, Naoyuki Hoshiya, Stephen L Buchwald. Palladium-Catalyzed Amination of Unprotected Five-Membered Heterocyclic Bromides. *Organic Letters* **16**, 832-835 (2014).
- 2) Mitsuhiro Arisawa, Takatoshi Sato, Naoyuki Hoshiya, Mohammad Al-Amin, Yuji Kogami, Satoshi Shuto. Ligand-Free Suzuki-Miyaura Coupling with Sulfur-Modified Gold-Supported Palladium in the Synthesis of a Conformationally-Restricted Cyclopropane Compound Library with Three-Dimensional Diversity. *ACS Combinatorial Science* **16**, 215-220 (2014).
- 3) Koji Takagi, Mohammad Al-Amin, Naoyuki Hoshiya, Johan Wouters, Hiroshi Sugimoto, Yoshitsugu Shiro, Hayato Fukuda, Satoshi Shuto, Mitsuhiro Arisawa. Palladium-Nanoparticle-Catalyzed 1,7-Palladium Migration Involving C-H Activation, Followed by Intramolecular Amination: Regioselective Synthesis of N1-Arylbenzotriazoles and an Evaluation of Their Inhibitory Activity toward Indoleamine 2,3-Dioxygenase. *Journal of Organic Chemistry* **79**, 6366-6371 (2014).

プロシーディングス

- 1) 野田健太、倉田薫子、三原裕二、西村和晃、河井伸之、星谷尚亨、上西潤一：光学活性 1-アルケニルテトラヒドロイソキノリンから有用アミノ化合物への分子変換．第 44 回複素環化学討論会(札幌), 2014.9.
- 2) 鈴木 愛、佐々木舞、上田 毅、星谷尚亨、上西潤一：テトラヒドロフラン環2位置換ホルミル基に対する求核付加反応とその立体化学. 第40回反応と合成の進歩シンポジウム(仙台), 2014.11.
- 3) 星谷尚亨、四辻慶佑、小林嵩明、福田 隼、阿部 洋、有澤光弘、周東 智：PdおよびNi触媒によるシクロプロパン第三級炭素上への芳香環導入反応 —効率的化学空間探索型創薬ライブラリーの構築を目指して— . 第40回反応と合成の進歩シンポジウム(仙台), 2014.11.

解説、報告書等

- 1) 有澤光弘、星谷尚亨、周東 智：自己組織的多層状Pdナノパーティクル触媒 (SAPd Catalyst) リガンドフリーで進行するPdクロスカップリング. 和光純薬時報 **82**, 7-9 (2014).

特許

- 1) ①特許公開番号：WO2014/157677A2 ②公開日(年.月.日)：2014年10月2日 ③発明の名称：触媒金属ナノ粒子含有複合体及びその利用 ④特許権者又は出願人：独立行政法人 科学技術振興機構、株式会社 フルヤ金属 ⑤発明者：有澤光弘、周東 智、星谷尚亨、新井聡史

学会発表等

学会発表

- 1) 井田安紀子、上西潤一：Hydropalladationと β -hydride eliminationにおける新規zipper現象. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都) 2014.2.
- 2) 鈴木 愛、上田 毅、加藤夕佳、上西潤一：トランス5位置換tetrahydrofuran-2-carbaldehydeへの付加反応の立体制御. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都) 2014.2.
- 3) 曾田祐民、上西潤一、植村元一：金(I)触媒を用いた不斉環化反応による面不斉アレーンクロム錯体の合成. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都) 2014.2.
- 4) 村田裕基、上西潤一：塩化パラジウムを用いる触媒的THF環形成反応の立体化学. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 5) 佐々木舞、石橋洗一、河井伸之、上西潤一：スルホン酸を用いる1位アルケニル置換光学活性テトラヒドロイソキノリンの触媒的合成. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 山本正明、上西潤一、植村元一：キラル金(I)触媒を用いたアルケニル基を有するメソ-ジオールの非対称化およびDL-ジオールの速度論的分割. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.

- 7) 川崎敬太、佐々木豊、飯居宏美、吉貴達寛、日高興士、河井伸之、上西潤一： β -アミノグルタリル-L-アラニンをリード骨格とする新規GGCT阻害剤の開発. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 8) 倉田薫子、西村和晃、河井伸之、上西潤一：1,3-不斉転写を介した光学活性テトラヒドロイソキノリン-1-カルボン酸の合成. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 9) 井田安紀子、上西潤一：Heck反応における異常zipper現象とそのメカニズム. 第105回有機合成シンポジウム2014年(東京), 2014.6.
- 10) Naoyuki Hoshiya：Palladium-Catalyzed Intermolecular Direct Arylation of Tertiary Carbon on Cyclopropanes. Post-International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC2014)(大阪), 2014.7.
- 11) 佐々木舞、鈴木愛、上田毅、加藤夕佳、星谷尚亨、上西潤一：THF環に隣接したホルミル基への立体選択的求核付加. 第34回有機合成若手セミナー(大阪), 2014.8.
- 12) 猪ノ上久美子、倉田薫子、星谷尚亨、上西潤一：Tetrahydroisoquinoline-1-および3-carboxylic acidの合成. 第34回有機合成若手セミナー(大阪), 2014.8.
- 13) 野田健太、倉田薫子、三原裕二、西村和晃、河井伸之、星谷尚亨、上西潤一：光学活性1-アルケニルテトラヒドロイソキノリンから有用アミノ化合物への分子変換. 第44回複素環化学討論会(札幌), 2014.9.
- 14) 鈴木 愛、佐々木舞、上田 毅、星谷尚亨、上西潤一：テトラヒドロフラン環2位置換ホルミル基に対する求核付加反応とその立体化学. 第40回反応と合成の進歩シンポジウム(仙台), 2014.11.
- 15) 星谷尚亨、四辻慶佑、小林嵩明、福田 隼、阿部 洋、有澤光弘、周東 智：PdおよびNi触媒によるシクロプロパン第三級炭素上への芳香環導入反応—効率的化学空間探索型創薬ライブラリーの構築を目指して—. 第40回反応と合成の進歩シンポジウム(仙台), 2014.11.
- 16) 星谷尚亨：シクロプロパン第三級炭素上への芳香環導入反応の開発. 第3回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.11.

- 17) 野田健太、河井伸之、星谷尚亨、上西潤一：グリコシダーゼ阻害活性天然物 Schulzeine Bの骨格合成. 第3回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.11.
- 18) 佐々木舞、鈴木 愛、上田 毅、加藤夕佳、星谷尚亨、上西潤一：THF環に隣接したホルミル基へのGrignard試薬による求核付加の立体化学. 第3回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.11.
- 19) 倉田薫子、猪ノ上久美子、星谷尚亨、上西潤一：D-およびL-環状アミノ酸の合成；テトラヒドロイソキノリン-1-および3-カルボン酸の不斉合成. 第3回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.11.

講演等

- 1) 上西潤一：講演「天然物合成から小分子医薬品へ」. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.2.
- 2) 上西潤一：講演「trisTHF環を有する抗がん活性天然物Goniocinの全合成」. 第3回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.11.

論文

- 1) Takuya Miura, Saki Fujioka, Naoto Takemura, Hiroki Iwasaki, Minoru Ozeki, Naoto Kojima, Masayuki Yamashita: Synthesis of 6-substituted 3-(alkoxycarbonyl)-5-aryl- α -pyrones. *Synthesis*, **46**, 496-502 (2014).
- 2) Takuya Miura, Saki Fujioka, Hiroki Iwasaki, Minoru Ozeki, Naoto Kojima, Masayuki Yamashita: Skeleton transformation of α -pyrone induced by 5-aryl substituent into ring-fused dihydrofuran. *Tetrahedron Lett.*, **55**, 1536-1539 (2014).
- 3) Naoto Kojima, Tetsuya Fushimi, Takahiro Tatsukawa, Tetsuaki Tanaka, Mutsumi Okamura, Akinobu Akatsuka, Takao Yamori, Shingo Dan, Hiroki Iwasaki, Masayuki Yamashita: Thiophene-3-carboxamide analogue of annonaceous acetogenins as antitumor drug lead. *Eur. J. Med. Chem.*, **86**, 684-689 (2014).
- 4) Hiroki Iwasaki, Kenji Suzuki, Mitsunari Yamane, Shohei Yoshida, Naoto Kojima, Minoru Ozeki, Masayuki Yamashita: Indole synthesis from *N*-allenyl-2-iodoanilines under mild conditions mediated by samarium(II) diiodide. *Org. Biomol. Chem.*, **12**, 6812-6815 (2014).
- 5) Hiroyuki Kawashima, Tomomi Kuruma, Masayuki Yamashita, Youhei Sohma, Kenichi Akaji: Synthesis of an *O*-acyl isopeptide by using native chemical ligation in an aqueous solvent system. *J. Pep. Sci.*, **20**, 361-365 (2014).

プロシーディングス

- 1) 鈴木健司、岩崎宏樹、土増麗華、脇阪友香、小関 稔、小島直人、山下正行：SmI₂ を用いた phenanthridinone 骨格の構築と天然物合成への応用。第44回複素環化学討論会講演要旨集, 81-82 (2014).
- 2) 田中 徹、三浦拓也、藤岡 咲、竹村直人、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔、山下正行：2*H*-ピラン-2-オン体からジヒドロ-4*H*-シクロペンタ[*b*]フラン体への骨格変換反応における5位アリール置換基の効果。第40回反応と合成の進歩シンポジウム—ライフサイエンスを志向した理論、反応および合成—講演要旨集, 57 (2014).

- 3) 小島直人、須賀友規、松本卓也、田中徹明、且 慎吾、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行：チオフエン導入アセトゲニン誘導体の蛍光標識化プローブ分子の合成とヒトがん細胞増殖抑制活性。第32回メディシナルケミストリーシンポジウム講演要旨集, 115 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 山下正行、三浦拓也、藤岡 咲、竹村直人、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔：5位アリアル基により誘起される α -ピロン体から縮環型ジヒドロピラン体への骨格変換反応。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 2) 鈴木健司、吉田翔平、藏下敦士、土増麗華、岩崎宏樹、小島直人、山下正行：ヨウ化サマリウムを用いた緩和な条件下における新規インドール合成法の開発。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 3) 松本卓也、小島直人、伏見哲也、立川貴啓、戸田雄也、大槻一文、田中徹明、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行：バンレイシ科アセトゲニン類チオフエンアナログの構造活性相関研究。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 4) 平田翔也、小島直人、里見純一郎、嘉納将文、大槻一文、田中徹明、矢守隆夫、安部真人、三芳秀人、岩崎宏樹、山下正行：C35位を改変したバンレイシ科アセトゲニン誘導体のヒトがん細胞増殖抑制活性。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 5) 内本ひとみ、川崎郁勇、三浦千明、山下正行、西出喜代治：イミダゾリウム構造を持つ新規キラリリガンドに関する研究。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 6) 山本 卓、伊藤健史、原川牧子、宮上康德、齋藤興輝、松井優子、有光健治、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔、山下正行：Cyclopenta[*b*]benzofuran-3-one体のtetrahydrodibenzofuran体への環拡大反応。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 7) 三浦拓也、藤岡 咲、竹村直人、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔、山下正行：非対称ベンジルケトン体から5-アリアル- α -ピロン体の改良合成法。日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.

- 8) 安藤尚意、川島浩之、相馬洋平、中西智哉、北村仁美、向井秀仁、山下正行、赤路健一、木曾良明：O-アシルイソペプチド構造に基づいたアミロイド- β 凝集阻害剤の探索研究．日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 9) 江川ほのか、泉谷すみれ、中嶋大地、久世亜希子、高野稔来、小関 稔、岩崎宏樹、小島直人、細井信造、野出 學、山下正行：リサイクル型キラルアミンの α -置換- α , β -不飽和エステルへの不斉Michael付加反応による二連続不斉炭素の構築．日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 10) 齋藤興輝、山本 卓、伊藤健史、原川牧子、宮上康徳、松井優子、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔、山下正行：3*H*-Cyclopenta[*b*]benzofuran-3-one体の環拡大反応．第34回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために (大阪), 2014. 8.
- 11) 松本卓也、小島直人、伏見哲也、立川貴啓、田中徹明、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行：複素環を導入したアセトゲニン誘導体におけるチオフェン環上の置換基効果．第34回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために (大阪), 2014. 8.
- 12) 脇阪友香、土増麗華、岩崎宏樹、鈴木健司、小関 稔、小島直人、山下正行：SmI₂を用いたphenanthridinone骨格の新規構築法の開発．第34回有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために (大阪), 2014. 8.
- 13) 鈴木健司、岩崎宏樹、土増麗華、脇阪友香、小関 稔、小島直人、山下正行：SmI₂を用いたphenanthridinone骨格の構築と天然物合成への応用．第44回複素環化学討論会 (札幌), 2014. 9.
- 14) 鈴木健司、岩崎宏樹、土増麗華、一柳奈穂、小長井英恵、脇阪友香、小関 稔、小島直人、山下正行：SmI₂を用いたphenanthridinone誘導体の合成法の開発—緩和な条件下、短時間、高収率で合成可能な手法の開発—．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 15) 岡本恭輔、本光由佳梨、山下正行、小島直人、岩崎宏樹、細井信造：誘起 CD 励起子法によるステロール類の3位水酸基の絶対配置決定．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 16) 岩井佑未南、安達未稀、田中 徹、小島直人、岩崎宏樹、山下正行：テトラヒドロクマリン-3-カルボン酸エステルとスチレンの光[2+2]環化付加反応．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京

都), 2014. 10.

- 17) 松本卓也、小島直人、須賀友規、田中徹明、岩崎宏樹、山下正行：チオフエン導入アセトゲニン誘導体の作用機序解明を指向した蛍光標識化プローブ分子の合成研究．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 18) 平田翔也、小島直人、里見純一郎、嘉納将文、須賀友規、大槻一文、田中徹明、矢守隆夫、安部真人、三芳秀人、岩崎宏樹、山下正行：C35位を改変したバンレイシ科アセトゲニン誘導体の構造活性相関研究．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 19) 田中 徹、三浦拓也、藤岡 咲、竹村直人、小島直人、岩崎宏樹、小関 稔、山下正行：2H-ピラン-2-オン体からジヒドロ-4H-シクロペンタ[b]フラン体への骨格変換反応における5位アリアル置換基の効果．第40回反応と合成の進歩シンポジウム (仙台), 2014. 11.
- 20) 小島直人、須賀友規、松本卓也、田中徹明、且 慎吾、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行：チオフエン導入アセトゲニン誘導体の蛍光標識化プローブ分子の合成とヒトがん細胞増殖抑制活性．第32回 メディシナルケミストリーシンポジウム (神戸), 2014. 11.

その他

- 1) 岩崎宏樹、中村麻紀子、雲 望美、北尾純子、小島直人、山下正行：Methylinderachalcone類の全合成研究．創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 2) 竹村直人、三浦拓也、藤岡 咲、小島直人、岩崎宏樹、山下正行：3位に電子求引性基を有する5-アリアル-2-オキソ-2H-ピラン誘導体の合成．創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 3) 松本卓也、小島直人、伏見哲也、立川貴啓、戸田雄也、大槻一文、田中徹明、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行：様々な置換基を有するチオフエン導入アセトゲニン誘導体の合成とヒトがん細胞増殖抑制効果．創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 4) 平田翔也、小島直人、里見純一郎、嘉納将文、矢守隆夫、安部真人、三芳秀人、岩崎宏樹、山下正行：C35位を改変したバンレイシ科アセトゲニン誘導体の合成と生物活性評価．創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.

- 5) 山下正行, 岩崎宏樹, 小島直人: 体験実習「1. サリチル酸メチル (シップ薬) の合成 2. ルミノール反応」. 洛北サイエンス「アナリストへの第一歩」 (京都), 2014. 7.
- 6) 山下正行, 岩崎宏樹, 小島直人: 体験実習「～シップ薬を合成しよう～」. 京都薬科大学オープンキャンパス (京都), 2014. 8.
- 7) 山下正行: 2*H*-pyran-2-one誘導体の合成とアルケンとの[2+2]環化付加反応. 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.
- 8) 松本卓也, 小島直人, 須賀友規, 田中徹明, 且 慎吾, 矢守隆夫, 岩崎宏樹, 山下正行: 抗腫瘍活性を有するアセトゲニン誘導体の細胞内動態解明を目指す蛍光標識化プローブの合成研究. 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.
- 9) 岡本恭輔, 本光由佳梨, 山下正行, 小島直人, 岩崎宏樹, 細井信造: ステロール類の3位水酸基の絶対配置決定における誘起CD励起子法の有用性について. 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.
- 10) 山下正行: 評価者. 大阪薬科大学 薬学共用試験 OSCE (大阪), 2014. 12.
- 11) 小島直人: 評価者. 摂南大学 薬学共用試験 OSCE (大阪), 2014. 12.
- 12) 小島直人: 模擬講義「医薬品が世に出るまで ―有機化学者の視点から―」. 大阪府立大手前高校 (京都), 2014. 12.
- 13) 山下正行: 応急手当普及員講習会 (再講習) (京都), 2014. 12.

薬品化学

著書

- 1) 赤路健一: 遺伝子医学MOOK別冊 次世代ペプチド医薬創製, 赤路健一編集, 株式会社メディカルドゥ (2014).
- 2) 小林数也: ペプチド由来阻害剤への展開. 遺伝子医学MOOK別冊 次世代ペプチド医薬創製, 赤路健一編集, pp.122-127, 株式会社メディカルドゥ (2014).

論文

- 1) *Mykhailo Girych, Galyna Gorbenko, Valeriya Trusova, Emi Adachi, Chiharu Mizuguchi, Kohjiro Nagao, Hiroyuki Kawashima, Kenichi Akaji, Sissel Lund-Katz, Michael C. Phillips, Hiroyuki Saito. Interaction of Thioflavin T with amyloid fibrils of apolipoprotein A-I N-terminal fragment: Resonance energy transfer study. *J. Struct. Biol.* **185**, 116-124 (2014).
- 2) Emi Adachi, Asako Kosaka, Kohei Tsuji, Chiharu Mizuguchi, Hiroyuki Kawashima, Akira Shigenaga, Kohjiro Nagao, Kenichi Akaji, Akira Otaka, *Hiroyuki Saito. The extreme N-terminal region of human apolipoprotein A-I has a strong propensity to form amyloid fibrils. *FEBS Lett.* **588**, 389-394 (2014).
- 3) *Hiroyuki Konno, Hitoshi Endo, Satomi Ise, Keiki Miyazaki, Hideo Aoki, Akira Sanjoh, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, *Kenichi Akaji. Synthesis and evaluation of curcumin derivatives toward an inhibitor of beta-site amyloid precursor protein cleaving enzyme 1. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* **24**, 685-690 (2014).
- 4) Maria Hayashi, Kazuya Kobayashi, Hiroyoshi Esaki, Hiroyuki Konno, Kenichi Akaji, Keiko Tazuya, Kazuko Yamada, Toshikatsu Nakabayashi, *Kazuto Nosaka. Enzymatic and structural characterization of an archaeal thiamin phosphate synthase. *Biochim. Biophys. Acta.* **1844**, 803-809 (2014).
- 5) Hiroyuki Kawashima, Tomomi Kuruma, Masayuki Yamashita, *Youhei Sohma, *Kenichi Akaji. Synthesis of an *O*-acyl isopeptide by using native chemical ligation in an aqueous solvent system. *J. Pept. Sci.* **20**, 361-365 (2014).
- 6) Chiyuki Awahara, Tadashi Tatsumi, Saki Furuta, Gen Shinjoh, Hiroyuki Konno, Kazuto Nosaka, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, *Kenichi Akaji. Effect of prime-site sequence of retro-inverso-modified HTLV-1 protease inhibitor. *Bioorg. Med. Chem.* **22**, 2482-2488 (2014).

- 7) Yuji Kurogome, Yasunao Hattori, *Hidefumi Makabe. Synthesis of (+)-boronolide and (+)-deacetylboronolide using Pd-catalyzed carbonylation and lactonization. *Tetrahedron Lett.* **55**, 2822-2824 (2014).
- 8) Maki Tokuda, Yuji Kurogome, Rieko Katoh, Yukie Nohara, Yasunao Hattori, *Hidefumi Makabe. Synthesis of four diastereomers and structural revision of tetradenolide. *Tetrahedron Lett.* **55**, 4189-4192 (2014).
- 9) Manato Suda, Wataru Fujii, Kohki Takanashi, Yasunao Hattori, *Hidefumi Makabe. Selective Synthesis of Epicatechin Dimers By Zinc(II) Triflate Mediated Self-Condensation. *Synthesis* **46**, 3351-3355 (2014).
- 10) Gen Hikosaka, Yasunao Hattori, *Hidefumi Makabe. Synthesis of both enantiomers of akolactone B and (+)-ancepsenolide. *Tetrahedron: Asymmetry* **25**, 1367-1371 (2014).
- 11) Ryosuke Takeda, Akie Kawamura, Aki Kawashima, Tatsunori Sato, Hiroki Moriwaki, Kunisuke Izawa, Kenichi Akaji, Shuni Wang, Hong Liu, José Luis Aceña, Vadim A. Soloshonok. Chemical Dynamic Kinetic Resolution and *S/R* Interconversion of Unprotected α -Amino Acids. *Angew. Chem. Int. Ed.* **53**, 12214-12217 (2014).

プロシーディングス

- 1) Hiroyuki Kawashima, Youhei Sohma, Tomoya Nakanishi, Hitomi Kitamura, Hidehito Mukai, Masayuki Yamashita, Kenichi Akaji, Yoshiaki Kiso. Aggregation Inhibitor of Amyloid- β Peptide Based on *O*-Acyl Isopeptide. *Peptide Science 2013* 101-104 (2014).
- 2) Yuka Kobayashi, Shinya Oishi, Kazuya Kobayashi, Hiroaki Ohno, Hiroko Tsutsumi, Yoji Hata, Nobutaka Fujii. Synthesis and Investigation of Ferrichrysin Derivatives. *Peptide Science 2013* 133-134 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 大西康司、櫻井春華、葛山昌伴、古田善宏、真壁秀文、小林数也、服部恭尚、赤路健一: バンレイシア科アセトゲニン類誘導体、aza-cis-solamin の基本骨格構築法開発. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 2) 川崎友紀、松原弘樹、井尻 咲、宮城崇滉、出口綾香、小林数也、服部恭尚、赤路健一: ヒドロキシエチルアミン型 BACE1 阻害剤の立体選択的合成によるプライムサイト構造活性相関研究, 日本

薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.

- 3) 二宮龍之介、水口貴章、大原菜穂、飯田美佳、山崎由香子、大江保奈美、小林数也、赤路健一: EGF レセプター二量化阻害ペプチドのアミノ酸配列の評価, 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 4) 戸田侑紀、高田和幸、中川由布子、川上 光、藤岡周助、小林数也、服部恭尚、北村佳久、赤路健一、芦原英司: がん細胞へ効率的に取り込まれる神経膠芽腫由来エクソソームとその膜脂質組成, 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 安藤尚意、川島浩之、相馬洋平、中西智哉、北村仁美、向井秀仁、山下正行、赤路健一、木曾良明: *O*-アシルイソペプチド構造に基づいたアミロイド- β 凝集阻害剤の探索研究, 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 足立愛美、辻 耕平、川島浩之、重永章、長尾耕治郎、赤路健一、大高 章、齋藤博幸: フラグメントペプチドを用いたアポ A-I アミロイド繊維形成領域の同定, 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 7) 服部恭尚、葛山昌伴、古田善宏、大西康司、櫻井春華、真壁秀文、廣田 満、小林数也、赤路健一: パラジウム触媒による立体選択的環化反応を用いたピペリジナルカロイド(+)-spectaline と *ent*-iso-6-spectaline の合成研究, 日本農芸化学会 2014 年度大会 (東京), 2014.3.
- 8) 徳田真樹、黒米雄次、加藤理恵子、野原由江、服部恭尚、真壁秀文: 4 つのジアステレオマーの合成と構造訂正, 日本農芸化学会 2014 年度大会 (東京), 2014.3.
- 9) 黒米雄次、徳田真樹、服部恭尚、真壁秀文: Deacetylboronolide の合成研究, 日本農芸化学会 2014 年度大会 (東京), 2014.3.
- 10) 若林雅貴、高沼大樹、似内郁美、赤路健一、今野博行: フェニルプロパン酸骨格を有する SARS 3CL protease 阻害剤の合成と構造活性相関研究, 日本農芸化学会 2014 年度大会 (東京), 2014.3.
- 11) Yuki Toda, Kazuyuki Takata, Yuko Nakagawa, Hikaru Kawashima, Shusuke Fujioka, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, Yoshihisa Kitamura, Kenichi Akaji, Eishi Ashihara: Cancer cell tropism of glioblastoma-derived exosomes regulated by their lipid components. FEBS-EMBO (Paris, France), 2014.8-9.
- 12) 戸田侑紀、高田和幸、小林数也、服部恭尚、赤路健一、芦原英司: がん細胞へ効率的に取り込まれる神経膠芽腫由来エクソソームの脂質組成, 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜), 2014.9.

- 13) 大西康司、櫻井春華、葛山昌伴、古田善宏、小林数也、服部恭尚、真壁秀文、赤路健一: バンレイシア科アセトゲニン類アナログ *aza-cis-solamin* の全合成, 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 14) 安藤尚意、前田育子、川島浩之、相馬洋平、赤路健一: アラニン置換型 10 残基環状ペプチドにおけるアミロイド β 凝集阻害活性の評価, 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 15) 古田早紀、栗原千如、辰巳 正、新城 源、今野博行、野坂和人、小林数也、服部恭尚、照屋健太、赤路健一: レトロインベルソ型 HTLV-1 プロテアーゼ阻害剤の合成と構造活性相関研究, 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 16) 戸田侑紀、高田和幸、中川由布子、川上 光、藤岡周助、小林数也、服部恭尚、北村佳久、赤路健一、芦原英司: 由来がん細胞へホーミングする glioblastoma 由来エクソソームの解析—がん標的化技術応用のための指向性決定因子の探索—, 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 17) 林 麻利亜、小林数也、今野博行、赤路健一、山田和子、野坂和人: チアミンリン酸合成酵素 *thiN* の酵素学的性質と立体構造モデリング, 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 18) Yasunao Hattori, Yasuhiro Shimamoto, Kazuya Kobayashi, Kenta Teruya, Atsushi Nakagawa, Eiki Yamashita, Akira Sanjoh, Kenichi Akaji: A Novel Scaffold Designed from Peptide-based SARS 3CL Protease Inhibitors, 第 51 回ペプチド討論会 (徳島), 2014.10.
- 19) Takaaki Mizuguchi, Yukako Yamazaki, Kazuya Kobayashi, Honami Ooe, Mika Iida, Ryunosuke Ninomiya, Kazuki Saito, Kenichi Akaji, Hirokazu Tamamura: Studies on Identification of Active Sites of an Inhibitory Cyclic Peptide against EGF Receptor Dimerization, 第 51 回ペプチド討論会 (徳島), 2014.10.
- 20) Hiroyuki Konno, Yuri Nikaido, Mamiko Nakadate, Hitoshi Endo, Satomi Ise, Akira Sanjoh, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji: Design, Synthesis and Evaluation of Water Soluble Crucumin Analogs for BACE1 Inhibitors, 第 51 回ペプチド討論会 (徳島), 2014.10.
- 21) Kenta Teruya, Yasuhiro Shimamoto, Yasunao Hattori, Kazuya Kobayashi, Akira Sanjoh, Eiki Yamashita, Atsushi Nakagawa, Kenichi Akaji: Structural Analysis of SARS 3CL Protease Complexed with Inhibitors Containing *aza-Decalin* Isomer, 第 51 回ペプチド討論会 (徳島), 2014.10.
- 22) 服部恭尚、嶋本康広、大西康司、葛山昌伴、櫻井春華、古田善宏、照屋健太、真壁秀文、小林数也、赤路健一: パラジウム触媒を用いたジアステレオ選択的環化反応によるピペリジン環構築法の開

発と SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤への応用, 第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム (仙台), 2014.11.

- 23) 嶋本康広、服部恭尚、小林数也、照屋健太、三城 明、中川敦史、山下栄樹、赤路健一: アザ-デカリン骨格を有する新規 SARS-3CL プロテアーゼ阻害剤の合成と評価, 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム (神戸), 2014.11.

講演等

その他

- 1) 赤路健一: 蛋白質化学と機能性分子創製. 2013年度 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.2.
- 2) 服部恭尚: 毒物劇物取扱者試験講習会講師. 京都商工会議所 (京都), 2014.8.
- 3) 赤路健一: D アミノ酸を利用した阻害剤設計. 2014 年度 創薬化学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.

著書

- 1) 松田久司: 第 5 章 薬用植物の機能性成分解析—薬用植物から抗アレルギー作用物質の開拓—. *薬用植物・生薬の最前線 ～国内栽培技術から品質評価, 製品開発まで～*, 川原信夫監修, pp. 102–113, シーエムシー出版 (2014).

論文

- 1) Itadaki Yamaguchi, Hisashi Matsuda, Hailong Zhang, Makoto Hamao, Chihiro Yamashita, Yuichiro Kogami, Haruka Kon'I, Megumi Murata, Seikou Nakamura, Masayuki Yoshikawa: Adipogenic effects of piperlonguminine in 3T3-L1 cells and plasma concentrations of several amide constituents from *Piper chaba* extracts after treatment of mice. *J. Nat. Med.*, **68**, 74–82 (2014).
- 2) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Katsuyoshi Fujimoto, Masayuki Yoshikawa, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Hisashi Matsuda: Lignan dicarboxylates and terpenoids from the flower buds of *Cananga odorata* and their inhibitory effects on melanogenesis. *J. Nat. Prod.*, **77**, 990–999 (2014).
- 3) Mohamed-Elamir F. Hegazy, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura, Taha A. Hussein, Masayuki Yoshikawa, Paul W. Pare: Chemical constituents and their antibacterial and antifungal activity from the Egyptian herbal medicine *Chiliadenus montanus*. *Phytochemistry*, **103**, 154–161 (2014).
- 4) Katsuyoshi Fujimoto, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Tomoe Ohta, Masayuki Yoshikawa, Keiko Ogawa, Eri Kashiwazaki, Hisashi Matsuda: Structures of acylated sucroses from the flower buds of *Prunus mume*. *J. Nat. Med.*, **68**, 481–487 (2014).
- 5) Toshio Morikawa, Yusuke Nakanishi, Kiyofumi Ninomiya, Hisashi Matsuda, Souichi Nakashima, Hisako Miki, Yu Miyashita, Masayuki Yoshikawa, Takao Hayakawa, Osamu Muraoka: Dimeric pyrrolidinoindoline-type alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in flower buds of *Chimonanthus praecox*. *J. Nat. Med.*, **68**, 539–549 (2014).
- 6) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Katsuyoshi Fujimoto, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Matsuda: Structure of constituents isolated from the flower buds of *Cananga odorata* and their inhibitory effects on aldose reductase. *J. Nat. Med.*, **68**, 709–716 (2014).

- 7) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Tomoe Ohta, Katsuyoshi Fujimoto, Masayuki Yoshikawa, Keiko Ogawa, Hisashi Matsuda: A rare glutamine derivative from the flower buds of daylily. *Org. Lett.*, **16**, 3076–3078 (2014).
- 8) Hiroshi Shimoda, Seikou Nakamura, Shoketsu Hitoe, Shuko Terazawa, Junji Tanaka, Takahiro Matsumoto, Hisashi Matsuda: Anti-adipogenic polyphenols of water shield suppress TNF- α -induced cell damage and enhance expression of HAS2 and HAPB2 in adiponectin-treated dermal fibroblasts. *Nat. Prod. Chem. Res.*, **2**, 1000146 (2014).
- 9) Seikou Nakamura, Fengming Xu, Kiyofumi Ninomiya, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Toshio Morikawa, Osamu Muraoka, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Matsuda; Chemical Structures and Hepatoprotective Effects of Constituents from *Cassia auriculata* Leaves. *Chem. Pharm. Bull.*, **62**, 1026–1031 (2014).

総説

- 1) Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura, Masayuki Yoshikawa: Search for new type of PPAR γ agonist-like anti-diabetic compounds from medicinal plants. *Biol. Pharm. Bull.*, **37**, 884–891 (2014).

プロシーディングス

- 1) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 藤本勝好, 吉川雅之, 太田智絵, 小川慶子, 松田久司: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部のメラニン生成抑制活性成分. 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会講演要旨集, pp. 108-111 (2014).
- 2) 太田智絵, 中村誠宏, 松本崇宏, 吉川雅之, 小川慶子, 深谷 匡, 松田久司: インド産アッサム種茶花 (*Camellia sinensis* var. *assamica*) の新規トリテルペン配糖体成分. 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会講演要旨集, pp. 310-313 (2014).
- 3) 中村誠宏, 中嶋聡一, 越智理蓉子, 宮下 優, 横田奈美, 松本崇宏, 太田智絵, 小川慶子, 吉川雅之, 松田久司: カレーリーフ (*Murraya koenigii*) のアルカロイド成分とメラニン生成抑制作用. 第 20 回天然薬物の開発と応用シンポジウム講演要旨集, pp. 178-180 (2014).

特許

- 1) ①特許公開番号 2014-31361. ②公開日: 2014 年 2 月 20 日. ③発明の名称: 新規化合物及びその用途. ④出願人: オリザ油化株式会社. ⑤発明者: 田中潤司, 単 少傑, 下田博司, 村井弘道, 吉川 雅之, 松田久司, 中村誠宏.

学会発表等

学会発表

- 1) 松田久司, 加藤さつき, 松元佑里子, 岡本あずさ, 早川祥平, 南出年輝, 吉川雅之, 中村誠宏, 坂内慎, 栗林かんな: シスプラチン誘発食欲減退ラットに及ぼす *Kaempferia parviflora* 根茎含有メトキシシフラボノール類の効果. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 2) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 藤本勝好, 吉川雅之, 太田智絵, 小川慶子, 松田久司: メディシナルフラワー研究: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部のメラニン生成抑制活性成分. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 3) Ahmed Aboul-Fotouh MOURAD, 小松諒子, 中村誠宏, 上野 翼, 南 貴大, 八木貴成, 安江春香, 吉川雅之, Ashraf Mohamed TAYE, Mohamed Ahmed EL-MOSELHY, Mohamed Montaser KHALIFA, 松田久司: 3T3-L1 細胞におけるジャワナガコショウ由来 retrofractamide A 誘導体の PPAR γ アゴニスト様活性(1): 構造活性相関. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 4) 中嶋聡一, 矢野真実子, 尾田好美, 今井佳代, 中田晶子, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (*Lawsonia inermis*) の生体機能解明-4: 一花部の新規神経分化促進様成分-. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 5) 久保祥子, 中嶋聡一, 氷室友吾, 尾田好美, 三浦雅人, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (*Lawsonia inermis*) の生体機能解明-3: 一花部のがん細胞転移抑制作用-. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 6) 中嶋聡一, 太田智絵, 今井佳代, 秋田凌吾, 中嶋弘幸, 中村誠宏, 松田久司: 兵庫県産ブルーベリー (*Vaccinium virgatum*) の機能性研究. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 7) Ahmed Aboul-Fotouh MOURAD, 中村誠宏, 安江春香, 小松諒子, 吉川雅之, Ashraf Mohamed TAYE, Mohamed Ahmed EL-MOSELHY, Mohamed Montaser KHALIFA, 松田久司: 3T3-L1 細胞におけるジ

ヤワナガコシヨウ由来 retrofractamide A 誘導体の PPAR γ アゴニスト様活性 (2): TNF- α 誘発インスリン抵抗性への効果. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.

- 8) 太田智絵, 中村誠宏, 劉 江, 小川慶子, 松本崇宏, 吉川雅之, 松田久司: メディシナルフラワー研究: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部の含有成分(1). 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 9) 中村誠宏, 小川慶子, 劉 江, 一川怜史, 三宅史織, 黒岡希和子, 太田智絵, 松本崇宏, 吉川雅之, 松田久司: メディシナルフラワー研究: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部の含有成分 (2). 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 10) NAKAMURA S, YOSHIKAWA M, MATSUDA H: MEDICINAL FLOWER: ANTI-OBESE EFFECTS OF SAPONIN CONSTITUENTS FROM THE FLOWER BUDS OF *CAMELLIA SINENSIS*. 9th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON CHROMATOGRAPHY OF NATURAL PRODUCTS. (Poland), 2014. 5.
- 11) 氷室友吾, 中嶋聡一, 久保祥子, 半田 愛, 三浦雅人, 尾田好美, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (ヘナ, 指甲花, *Lawsonia inermis*) の生体機能解明-4: 花部のがん細胞転移抑制作用. 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (千葉), 2014. 8.
- 12) 矢野真実子, 中嶋聡一, 谷美由紀, 尾田好美, 越智理蓉子, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (ヘナ, 指甲花, *Lawsonia inermis*) の生体機能解明-3: 花部の PC12 神経細胞分化促進作用成分. 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (千葉), 2014. 8.
- 13) 越智理蓉子, 中嶋聡一, 中村誠宏, 宮下 優, 横田奈美, 吉川雅之, 松田久司: オオバゲッキツ (*Murraya koenigii*) 含有成分のメラニン生成抑制作用. 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (千葉), 2014. 8.
- 14) 今野拓哉, 二宮清文, 松田久司, 吉川雅之, 森川敏生: 柴胡の機能性成分-含有サポニン成分の肝障害抑制作用-. 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (千葉), 2014. 8.
- 15) 奥川修平, 森川敏生, 北川仁一朗, 二宮清文, 松本 拓, 吉川雅之, 中村誠宏, 松田久司, 李 宣融, 村岡 修: ハス (*Nelumbo nucifera*) のメラニン産生抑制作用成分の定量分析. 第 31 回和漢医薬学会学術大会 (千葉), 2014. 8.
- 16) Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Genzoh Tanabe, Yoshimi Oda, Takahiro Matsumoto, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Osamu Muraoka, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Mastuda: Medicinal Flowers: Alkaloid

Constituents from Flower Buds of *Nelumbo nucifera* with Melanogenesis Inhibitory Activity in B16 Melanoma Cells. The 8th JSP-CCTCNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (Fukuoka), 2014. 9.

- 17) Toshio Morikawa, Niichiro Kitagawa, Shuhei Okugawa, Taku Matsumoto, Kiyofumi Ninomiya, Iyori Kamei, I-Jung Lee, Seikou Nakamura, Hisashi Matsuda, Masayuki Yoshikawa, Osamu Muraoka: Simultaneous quantitative analysis of alkaloids with melanogenesis inhibitory activity in “lotus flower”, the flower buds of *Nelumbo nucifera*. The 8th JSP-CCTCNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (Fukuoka), 2014. 9.
- 18) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 吉川雅之, 藤本勝好, 太田智絵, 谷本哲也, 奈良美波, 松田久司: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部のアルドース還元酵素阻害活性成分. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 19) 中嶋聡一, 矢野真実子, 尾田好美, 中村誠宏, 吉川雅之, 松田久司: インド関連植物の生体機能解明-3: ヘンナ (ヘナ, *Lawsonia inermis*) 花部の PC12 細胞分化促進作用. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 20) 中村誠宏, 太田智絵, 藤本勝好, 中嶋聡一, 松本崇宏, 吉川雅之, 宮下 優, 深谷 匡, 柏崎絵李, 松田久司: メディシナルフラワー研究: 中国産白梅花の新規生体機能成分. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 21) 中村誠宏, 松本崇宏, 安井理絵, 吉川雅之, 南出年輝, 早川祥平, 岡本あずさ, 松田久司: 中国産マイマイカ (*Rosa rugosa*, 花部) からの DPP-IV 阻害活性成分の探索. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 22) 半田 愛, 中嶋聡一, 久保祥子, 氷室友吾, 尾田好美, 三浦雅人, 中尾悠里, 小川裕樹, 前川友希, 中村誠宏, 松田久司: インド関連植物の生体機能解明-4: *Lawsonia inermis* 花部のがん細胞転移抑制作用. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 23) 小川慶子, 松本崇宏, 中村誠宏, 吉川雅之, 坂田侑里, 大西絵梨, 松田久司: タイ産 *Curcuma comosa* 根茎の新規ジアリールヘプタノイド成分と抗炎症活性. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 24) 許 斌, 中村誠宏, 劉 江, 王 巍程, 深谷 匡, 吉川雅之, 松田久司: メディシナルフラワー研究: キンモクセイ花部の抗炎症作用成分. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 25) 二宮清文, 甕 千明, 北川仁一朗, 吉原和弥, 中村誠宏, 松田久司, 吉川雅之, 村岡 修, 森川敏生:

茶花由来サポニンの胃癌細胞 MKN-45 増殖抑制活性. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.

- 26) 森川敏生, 二宮清文, 倉本博行, 松本友里恵, 中村誠宏, 松田久司, 王立波, 呉立軍, 早川堯夫, 吉川雅之, 村岡修: エバーラスティングフラワーの機能性成分 (7) —新規カルコン 2 量体成分の化学構造—. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 27) 下田博司, 単少傑, 田中潤司, 中村誠宏, 松田久司: ケニア産紫茶エキスの抗肥満作用検討. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014. 9.
- 28) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 藤本勝好, 吉川雅之, 太田智絵, 小川慶子, 松田久司: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部のメラニン生成抑制活性成分. 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (和歌山), 2014. 9.
- 29) 太田智絵, 中村誠宏, 松本崇宏, 吉川雅之, 小川慶子, 深谷匡, 松田久司: インド産アッサム種茶花 (*Camellia sinensis* var. *assamica*) の新規トリテルペン配糖体成分. 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 (和歌山), 2014. 9.
- 30) 矢野真実子, 中嶋聡一, 谷美有紀, 尾田好美, 中田晶子, 今井佳代, 中村誠宏, 松田久司: インド・アーユルヴェーダ関連植物の機能解明—4—ヘンナ (*Lawsonia inermis*) 花部の PC12 細胞分化促進作用成分と糖化アルブミンの分化抑制作用—. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 31) 奥埜祥平, 中嶋聡一, 中村誠宏, 宮下優, 松田久司: ナチュラルヘナ (*Cassia auriculata*) のメラニン生成抑制作用成分. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 32) 中尾悠里, 中嶋聡一, 半田愛, 三浦雅人, 尾田好美, 小川裕樹, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (*Lawsonia inermis*) 花部のがん細胞転移抑制作用と浸潤抑制作用. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 33) 小川裕樹, 中嶋聡一, 中嶋弘幸, 中村誠宏, 松田久司: 兵庫県産ブルーベリー (*Vaccinium virgatum*) の部位別機能性評価. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 34) 松本崇宏, 安井理絵, 中村誠宏, 中嶋聡一, 吉川雅之, 松田久司: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部の生体機能性成分. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 35) 太田智絵, 深谷匡, 中村誠宏, 劉江, 許斌, 吉川雅之, 松田久司: メディシナルフラワー研究: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部の含有成分. 第 64 回日本薬学会近畿支

部総会・大会 (京都), 2014.10.

- 36) 中村誠宏, 中嶋聡一, 越智理蓉子, 宮下 優, 横田奈美, 松本崇宏, 太田智絵, 小川慶子, 吉川雅之, 松田久司: カレーリーフ (*Murraya koenigii*) のアルカロイド成分とメラニン生成抑制作用. 第 20 回天然薬物の開発と応用シンポジウム (東京), 2014.11.

講演等

- 1) 松田久司: 世界の伝承薬物に抗糖尿病薬を求めて. 第 61 回北海道薬学大会 (北海道), 2014. 5.24.
- 2) Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura, Masayuki Yoshikawa: BIOFUNCTIONAL MOLECULES FROM TRADITIONAL THAI MEDICINES. JSPS Core-to-Core Program Seminar on Asian Insect Biomedical Research. (Kyoto), 2014. 8. 6.
- 3) 松田久司: 伝承薬物から生体機能性成分の探索. 日本ハーブ療法研究会第 2 回学術集会 (京都), 2014.10.19.
- 4) 伊藤 謙: Construction of “Links” between Museums and Other Fields. 2014 University Museums Symposium on Museum in Everyday Life (台湾), 2014.11.24.

その他

- 1) 松田久司: 伝承薬物から抗糖尿病薬の開発に挑む. 2013 年度第 2 回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 2) 中村誠宏, 中嶋聡一, 尾田好美, 横田奈美, 藤本勝好, 松本崇宏, 太田智絵, 吉川雅之, 松田久司: 蓮 (*Nelumbo nucifera*) アルカロイド成分のメラニン生成抑制作用. 2013 年度第 2 回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 3) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 吉川雅之, 太田智絵, 松田久司: タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部の生体機能性成分. 2013 年度第 2 回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 4) 太田智絵, 中村誠宏, 劉 江, 松本崇宏, 吉川雅之, 松田久司: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部の生体機能性成分. 2013 年度第 2 回創薬科学フロンティアシンポジウム (京

- 都), 2014. 2.
- 5) Mourad Ahmed Aboul-Fotouh, 小松諒子, 中村誠宏, 吉川雅之, 松田久司: ナガコショウ由来アミド類の TNF- α 誘発インスリン抵抗性への効果. 2013 年度第 2 回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
 - 6) 松田久司: 薬用花. 京都漢方研究会第 24 期講座 (京都), 2014. 5.
 - 7) 太田智絵, 中村誠宏, 濱尾 誠, 松本崇宏, 吉川雅之, 松田久司: 茶花 (*Camellia sinensis*, 花部) の食欲抑制作用成分. 日本ハーブ療法研究会第 2 回学術集会 (京都), 2014.10.
 - 8) 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 太田智絵, 吉川雅之, 松田久司: タイ伝承薬物を素材としたメラニン生成抑制活性成分の探索. 日本ハーブ療法研究会第 2 回学術集会 (京都), 2014.10.
 - 9) 松田久司: 天然薬物を素材とした抗アレルギー成分の探索研究. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.
 - 10) 許 斌, 太田智絵, 中村誠宏, 深谷 匡, 劉 江, 吉川雅之, 松田久司: メディシナルフラワー研究: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部の生体機能性成分. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
 - 11) 太田智絵, 中村誠宏, 藤本勝好, 中嶋聡一, 松本崇宏, 吉川雅之, 宮下 優, 柏崎絵李, 松田久司: メディシナルフラワー研究: 白梅花 (*Prunus mume*, 花部) の生体機能性成分. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
 - 12) 小川慶子, 松本崇宏, 中村誠宏, 中嶋聡一, 坂田侑里, 大西絵梨, 吉川雅之, 松田久司: タイ産 *Curcuma comosa* 根茎の生体機能性ジアリールヘプタノイド成分. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.

論文

- 1) Keisuke Kitamura, Shigehiko Takegami, Rumi Tanaka, Ahmed Ahmed Omran, and Tatsuya Kitade: Effect of long-chain fatty acids on the binding of triflupromazine to human serum albumin: A spectrophotometric study. *Sci. Pharm.*, **82**, 233-245 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 小西敦子、武上茂彦、後藤真史、片岡賢太郎、住吉 綾、田村真唯、行方紗代、米村麻子、北出達也: 分子インプリントポリマーを感応素子としたヒスタミン認識電位検出型人工免疫センサーに及ぼす鋳型分子/モノマー配合比の影響の検討. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 2) 杉田紫帆、川上 遥、武上茂彦、小西敦子、池田育世、辰己友里、北出達也: ^{19}F -NMR を用いた脂質ナノエマルジョンの血中滞留性に及ぼす *n*-decyl- β -D-maltoside の影響の検討. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 3) 山本涼子、武上茂彦、小西敦子、栩野有輝、北出達也: ポリジアセチレンリポソーム型発光デバイスを用いたメキシレチンの定量分析に関する基礎的検討. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 4) 池田育世、川上 遥、武上茂彦、小西敦子、杉田紫帆、辰己友里、北出達也: ^{19}F -NMR を用いた脂質ナノエマルジョンの血中滞留性に及ぼす糖性界面活性剤 (decyl-4- O - β -D-lactopyranosyl- β -D-lactopyranoside 等) の影響の検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 5) 川原真理、山本涼子、武上茂彦、小西敦子、上川祥平、島田華苗、中野祐里、北出達也: ポリジアセチレンリポソームを用いた蛍光回復法によるメキシレチンの新規定量分析法に関する基礎的検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 6) 北田咲月、嶋田有里子、小西敦子、武上茂彦、北出達也: 4-ビニルピリジンを機能性モノマーとしたテオフィリンインプリントポリマーの構成要素配合比が鋳型分子の吸着量に及ぼす影響の検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.

講演等

- 1) 北出達也: 茨木高校「卒業生講座」. 大阪府立茨木高等学校 (大阪), 2014. 7.

その他

- 1) 川上 遥、小西敦子、武上茂彦、北出達也: $^{19}\text{F-NMR}$ によるデキサメタゾンの $\text{NF-}\kappa\text{B}$ 測定プローブへの応用に関する研究. 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」2013 年度 成果発表会 (京都), 2014. 3.
- 2) 武上茂彦: 薬物乱用防止活動功績者感謝状贈呈式 薬物乱用防止指導員研修会 (参加) (京都), 2014. 3.
- 3) 小西敦子、足尾大樹、池田美由紀、成 健秀、田中有紗、中川茉奈実、武上茂彦、北出達也: $^{19}\text{F-NMR}$ を用いた温度応答性脂質ナノエマルジョンの開発に関する基礎的検討. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 4) 山本涼子、小西敦子、武上茂彦、北出達也: ポリジアセチレンリポソーム型発光デバイスを用いたメキシレチンの定量分析に関する基礎的検討. 第4回 4大学連携研究フォーラム (京都), 2014. 12.
- 5) 北出達也: 評価者. 大阪薬科大学 薬学共用試験 OSCE (大阪), 2014. 12.

代謝分析学

著 書

- 1) 安井裕之：第1章基礎編 紫外線と酸化ストレス. *酸化ストレスの医学*, pp.197-207, 診断と治療社 (2014).
- 2) 安井裕之：第3章 ペプチドの応用 コラーゲン3重らせんペプチドの応用：体内動態特性と薬物担体としての可能性. *次世代ペプチド医薬創製*, pp.98-106, メディカルドゥ (2014).

論 文

- 1) Miyu Zenda, Hiroyuki Yasui, Shinya Oishi, Ryo Masuda, Nobutaka Fujii and Takaki Koide: A cisplatin derivative that inhibits collagen fibril-formation in vitro. *Chem. Biol. and Drug Design.*, doi: 10.1111/cbdd.12450 (2014).
- 2) Shoji Kawauchi, Tsutomu Nakamura, Hiroyuki Yasui, Chikako Nishikawa, Ikuya Miki, Jun Inoue, Sayo Horibe, Tsuneo Hamaguchi, Toshihito Tanahashi and Shigeto Mizuno: Intestinal and hepatic expression of cytochrome P450s and mdr1a in rats with indomethacin-induced small intestinal ulcers. *Int. J. Med. Sci.*, **11**, 1208-1217 (2014).
- 3) Péter Hegedűs, Sevil Korkmaz, Tamás Radovits, Harald Schmidt, Shiliang Li, Yutaka Yoshikawa, Hiroyuki Yasui, Béla Merkely, Matthias Karck and Gábor Szabó: Bis(aspirinato)zinc(II) complex successfully inhibits carotid arterial neointima formation after balloon-injury in rats. *Cardiovasc. Drugs Ther.*, **28**, 533-539 (2014).
- 4) Yuki Naito, Naoko Ikuta, Daisuke Nakata, Keiji Terao, Kinuyo Matsumoto, Naemi Kajiwara, Ayaka Okano, Hiroyuki Yasui and Yutaka Yoshikawa: Antidiabetic effect of the α -lipoic acid γ -cyclodextrin complex. *J. Clin. Biochem. Nutr.*, **55**, 97-102 (2014).
- 5) Takayasu Moroki, Yutaka Yoshikawa, Katsuhiko Yoshizawa, Airo Tsubura and Hiroyuki Yasui: Morphological analysis of the pancreas and liver in diabetic KK-A^y mice treated with zinc and oxovanadium complexes. *Metallomics*, **6**, 1632-1638 (2014).
- 6) Takayasu Moroki, Hiroyuki Yasui, Yusuke Adachi, Katsuhiko Yoshizawa, Airo Tsubura, Kazuhiko Ozutsumi, Misaki Katayama and Yutaka Yoshikawa: New insulin-Mimetic and hypoglycemic hetero-binuclear zinc(II)/oxovanadium(IV) complex. *Curr. Inorg. Chem.*, **4**, 54-58 (2014).

- 7) Hidemasa Katsumi, Makiya Nishikawa, Kazushi Nishiyama, Rikiya Hirosaki, Narumi Nagamine, Haruka Okamoto, Hironori Mizuguchi, Kosuke Kusamori, Hiroyuki Yasui, Fumiyoshi Yamashita, Mitsuru Hashida, Toshiyasu Sakane and Akira Yamamoto: Development of PEGylated serum albumin with multiple reduced thiols as a long-circulating scavenger of reactive oxygen species for the treatment of fulminant hepatic failure in mice. *Free Rad. Biol. Med.*, **69**, 318-323 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) Hiroyuki Yasui, Chisato M Yamazaki, Hiroshi Nose, Chihiro Awada, Toshifumi Takao, Takaki Koide: Potential of collagen-like triple helical peptides as spin probe-peptide conjugates: their application of evaluating redox status of living animals. 17th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International(京都), 2014.3.
- 2) 安井裕之、中村未歩、諸木孝泰、吉川 豊：亜鉛の量的かつ質的な恒常性維持が2型糖尿病を治療する-定量的な組織形態計測によるアプローチ-。日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 3) 河内正二、中村 任、安井裕之、西川千香子、加藤愛梨、中島左起、金 祥平、山岡玲菜、山本彩乃、堀部紗世、棚橋俊仁、濱口常男、水野成人：インドメタシン誘発小腸炎モデルの小腸および肝臓におけるCYPsおよびmdr1aのmRNA発現変動。日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 4) 北岡 侑、住田基樹、安井裕之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：リチウムの体内動態と消化管吸収特性。日本薬剤学会第29年会(埼玉), 2014.5.
- 5) 岡野綾華、内藤行喜、生田直子、中田大介、寺尾啓二、松本衣代、梶原苗美、吉川 豊、安井裕之： α リポ酸 γ -CD包接体摂取による2型糖尿病予防効果の検討。第68回日本栄養・食糧学会大会(北海道), 2014.5-6.
- 6) 塩見紗和子、瀬田尚子、吉川 豊、安井裕之：フルクトース負荷高血圧ラットにおけるNiの降圧作用に関する研究。第68回日本栄養・食糧学会大会(北海道), 2014.5-6.
- 7) 直江佳貴、道上加奈子、吉川 豊、梶原苗美、安井裕之：糖尿病性骨代謝異常に対する亜鉛錯体の影響。第68回日本栄養・食糧学会大会(北海道), 2014.5-6.

- 8) 中村未歩、吉岡里実、吉川 豊、安井裕之：低亜鉛食飼育動物における生体内微量元素の変動. 第 68 回日本栄養・食糧学会大会(北海道), 2014.5-6.
- 9) 増田 亮、山崎ちさと、中瀬生彦、山本和宏、能勢博、二木史朗、安井裕之、小出隆規：コラーゲン様 3 重らせん構造を持つペプチドのバイオツールとしての応用. 第 61 回マトリックス研究会大会(愛知), 2014.6.
- 10) Miho Nakamura, Satomi Yoshioka, Naemi Kajiwara, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: The effects of feeding zinc-deficient diets on rats behavior and its relations with the hematopoietic function. 第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(京都), 2014.6.
- 11) Yoshiki Naoe, Kanako Michigami, Yutaka Yoshikawa, Naemi Kajiwara, and Hiroyuki Yasui: Enhancement of the bone strength in STZ-induced diabetic mice by supplementation of the Zn^{2+} and first transition metal ions with anti-saccharification action against the collagen. 第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(京都), 2014.6.
- 12) Takayasu Moroki, Yutaka Yoshikawa, Katsuhiko Yoshizawa, Airo Tsubura, and Hiroyuki Yasui: Morphological analysis of the pancreas and liver in diabetic KK- A^y mice treated with zinc or oxovanadium complexes. 第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(京都), 2014.6.
- 13) Yutaka Yoshikawa, Chihiro Ando, Chiaki Kanaoka, Yoshiki Kuriyama, Sawako Shiomi, Naoko Seta, and Hiroyuki Yasui: Metallomic study of Zn and first transition metals with anti life-style related diseases properties. 第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(京都), 2014.6.
- 14) 小出隆規、全田未悠、大石真也、増田 亮、藤井信孝、安井裕之：コラーゲンの細線維化を阻害するプラチナ錯体. 第 25 回日本微量元素学会学術集会(岡山), 2014.7.
- 15) 中根香織、吉川 豊、安井裕之：トロポロン誘導体-2 価金属錯体のエラストラーゼ阻害活性評価. 第 25 回日本微量元素学会学術集会(岡山), 2014.7.
- 16) 徳田 循、吉川 豊、安井裕之：臓器特異的なメタロデリバリーを目指したバナジウム錯体の設計と体内動態解析. 第 25 回日本微量元素学会学術集会(岡山), 2014.7.
- 17) 安井裕之、傳寶和佳子、吉川 豊：高脂肪食摂取により惹起される糖尿病状態に影響を及ぼす生体微量金属の変動. 第 25 回日本微量元素学会学術集会(岡山), 2014.7.
- 18) Rie Nagura, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: Pharmacokinetic analysis of [meso-tetrakis(4-

sulfonatophenyl)porphyrinato]zinc(II) complex as a strong anti-diabetic agent by spectroscopic measurement. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.

- 19) Chisae Kan, Tetsuro Fujita, Masanori Fujii, Shinya Akatsuka, Shinya Toyokuni, and Hiroyuki Yasui: Topical effects of a novel immunomodulator, fingolimod, on barrier functions in the stratum corneum and epidermis of hairless mice skin. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 20) Ayaka Okano, Yuki Naito, Naoko Ikuta, Daisuke Nakata, Keiji Terao, Kinuyo Matsumoto, Naemi Kajiwara, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: Therapeutic and preventive effects of α -lipoic acid/ γ CD complex on type 2 diabetes in KKA^y mice. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 21) Yuzuho Kashiwazaki, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: ROS scavenging activity and anti-aging action of lactoferrin in mice skin treated with transdermal application. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 22) Sawako Shiomi, Naoko Seta, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: Normalization effect of nickel ion intake on the blood pressure in fructose induced hypertension rats based on inhibition of ACE activity. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 23) Yuki Naito, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: Zn(hinokitiol)₂ complex, as a potent anti-diabetic candidate, activates the insulin signaling pathway in 3T3-L1 adipocytes through an insulin-independent stimulation. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 24) Yutaka Yoshikawa, Hiroki Murakami, Shigeyuki Fujimoto, Takayuki Nishiguchi, and Hiroyuki Yasui: Study of zinc compounds with lifestyle-related disease therapeutic effect. International Joint Symposium 8th Bali Geriatric Update Symposium-21st Annual Scientific Meeting Japan Society of Haemorheology-Kobe Women's University (Bali, Indonesia), 2014.8.
- 25) 前島敬一、安井裕之：ルテインおよびアスタキサンチン可溶化製剤のラット遊離脂肪細胞を用い

たインスリン様作用の評価. 平成 26 年度カロテノイド若手の会(石川), 2014.9.

- 26) 安井裕之、北川江利子、眞岡孝至：銅イオンと高脂肪食により誘導した酸化ストレス状態において経口摂取させたアスタキサンチンの抗酸化作用. 第 28 回カロテノイド研究談話会(石川), 2014.9.
- 27) 岡本陽菜子、古根隆広、中田大介、大城 恵、安井裕之、寺尾啓二、吉川 豊：スクロース摂取時の血糖値変化に対する α シクロデキストリンとアラビノースの併用効果. 第 31 回シクロデキストリンシンポジウム(島根), 2014.9.
- 28) 米川結実子、吉川 豊、安井裕之：アルミニウム/マルトール錯体の曝露による生体機能への影響. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 29) 波多野菖梧、吉川 豊、安井裕之：ヒドロキサム酸誘導体-亜鉛錯体の合成とインスリン様作用の評価. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 30) 安堂千尋、吉川 豊、安井裕之： α -アミラーゼ阻害作用を有する第一遷移系列金属および亜鉛のメタロミクス研究. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 31) 香川美紀、安井裕之：光誘導一活性酸素種によるコラーゲン分子のクロスリンク発生とコラーゲン線維化抑制物質の探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 32) 内藤行喜、岡野綾華、生田直子、中田大介、寺尾啓二、松本衣代、梶原苗美、吉川 豊、安井裕之： α リポ酸- γ CD 包接体はインスリン作用を維持し 2 型糖尿病の発症を予防する. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 33) 小澤奈央実、三上優依、安井裕之、吉川 豊：糖質制限下および高糖質条件下での生体内微量元素の変動と生体への影響. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014.10.
- 34) Hiroyuki Yasui: Pharmacokinetic model analysis of penetration of linezolid into rat bone marrow and approach to regimen of osteomyelitis therapy. 19th North American ISSX Meeting/29th JSSX Meeting (San Francisco, USA), 2014.10.
- 35) 宮菜美華、川崎朝子、藤田佳那、眞壁明里、仲垂紀子、松本衣代、安井裕之、吉川 豊、梶原苗美：ラットの生体内微量元素の変動に及ぼす運動の影響. 第 53 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会(京都), 2014.10.

- 36) 宗兼将之、本村信治、神野伸一郎、上田真史、羽場宏光、吉川 豊、安井裕之、廣村 信、榎本秀一:新規核医学イメージング装置 GREI を用いた配位様式の異なる亜鉛錯体の体内動態解析. 第4回メタロミクス研究フォーラム(東京), 2014.11.
- 37) 安井裕之、傳寶和佳子、諸木孝泰、吉川 豊:高脂肪食摂取により変動する生体微量金属の体内分布-レーザーアブレーション ICP-MS による分析-. 第4回メタロミクス研究フォーラム(東京), 2014.11.
- 38) 内藤行喜、吉川 豊、安井裕之:「若手シンポジウム」3T3-L1 細胞における亜鉛錯体のインスリン様作用. 第4回メタロミクス研究フォーラム(東京),2014.11.

講演等

- 1) 内藤行喜:「特別講演」研究に対していま思うこと. 第2回メタロミクスサマースクール(京都), 2014.9.

薬品物理化学

著書

- 1) 小暮健太郎、気賀澤郁、濱 進、梶本和昭. 第2章第1節イオントフォレシスによる経皮デリバリー技術. *注射剤・経口製剤に代わる新しい薬剤投与デバイスの開発*, pp.49-52, (株) 技術情報協会(2014).

論文(*corresponding author)

- 1) Ibuki Nakamura, *Susumu Hama, Shoko Itakura, Ichiro Takasaki, Takayuki Nishi, Yoshiaki Tabuchi, Kentaro Kogure. Lipocalin2 as a plasma marker for tumors with hypoxic regions. *Sci. Rep.* **4**, 7235 (2014).
- 2) Shoko Itakura, Susumu Hama, Takashi Ohgita,*Kentaro Kogure. Development of nanoparticles incorporating a novel liposomal membrane destabilization peptide for efficient release of cargos into cancer cells. *PLOS One* **9**, e111181 (2014).
- 3) Yoshito Ikeda, Hiroyuki Tsuchiya, Susumu Hama, Kazuaki Kajimoto, *Kentaro Kogure. Resistin regulates the expression of plasminogen activator inhibitor-1 in 3T3-L1 adipocytes. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **448**, 129-133 (2014).
- 4) Susumu Hama, Yuki Kimura, Aya Mikami, Kanako Shiota, Mao Toyoda, Atsushi Tamura, Yukio Nagasaki, Kiyoshi Kanamura, Kazuaki Kajimoto, *Kentaro Kogure. Electric stimulus opens intercellular spaces in skin. *J. Biol. Chem.* **289**, 2450-2456 (2014).
- 5) Takashi Nakamura, Kouhei Ono, Yoshiteru Suzuki, Rumiko Moriguchi, Kentaro Kogure, *Hideyoshi Harashima. Octaarginine-modified liposomes enhance cross-presentation by promoting the C-terminal trimming of antigen peptide. *Mol. Pharm.* **11**, 2787-2795 (2014).

総説

- 1) Susumu Hama, Kentaro Kogure. Nanoparticles consisting of tocopheryl succinate are a novel drug-delivery system with multifaceted antitumor activity. *Biol. Pharm. Bull.* **37**, 196-200 (2014).

- 2) 濱 進：抗がん剤の物性に着目したがん治療用新規ナノキャリアーの創製. *YAKUGAKU ZASSHI* **134**, 1049-1054 (2014).
- 3) 濱 進, 小暮健太郎：腫瘍環境応答性素子と脂質膜との相互作用を利用した DDS の創製.*MEMBRANE*. **39**, 277-282 (2014).
- 4) 濱 進, 福澤健治, 小暮健太郎：ビタミン E 誘導体によるがん細胞特異的作用とがん治療への展開. *ビタミン* **88**, 82-90 (2014).
- 5) 池田義人, 小暮健太郎. 脂肪細胞に対する siRNA 導入によるアディポカイン “レジスチン” の機能解析とメタボリックシンドローム治療への展望. *Antisense* **18**, 21-34 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 下井雄太, 濱 進, 中村伊吹, 大石利一, 福澤健治, 小暮健太郎：オートファジー阻害によるトコフェロールコハク酸誘導アポトーシスの増強. 第 25 回ビタミン E 研究会(鳥取),2014.1.
- 2) 濱 進, 下井雄太, 北尾哲也, 福澤健治, 小暮健太郎：トコフェロールリン酸の抗リウマチ効果. 第 25 回ビタミン E 研究会(鳥取),2014.1.
- 3) 鈴木智子, 濱 進, 内海 達, 福田友紀, 福澤健治, 小暮健太郎：トコフェロールコハク酸ナノベシクルの細胞死増強機構へのミトコンドリア機能障害の関与. 第 25 回ビタミン E 研究会(鳥取),2014.1.
- 4) Susumu Hama, Shoko Itakura, Mayumi Nakai, Kayoko Nakayama, Satoshi Morimoto, Kentaro Kogure : Tumoral pH-sensitive nanoparticles for delivery of cargos into cells under tumor microenvironment. Institute for Chemical Research International Symposium 2014 (Kyoto), 2014.3.
- 5) Kentaro Kogure, Satoru Utsumi, Yuki Fukuda, Kayoko Nakayama, Yuriko Okamura, Susumu Hama, Kenji Fukuzawa : A novel drug delivery system consisting of an antitumor agent tocopheryl succinate. 17th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (Kyoto), 2014.3.

- 6) Susumu Hama, Toshikazu Oishi, Ibuki Nakamura, Yuki Fukuda, Yoshikazu Kuwahara, Li Li, Kenji Fukuzawa, Manabu Fukumoto, Kentaro Kogure : Tocopheryl succinate-induced cytotoxicity depends on the balance between production and elimination of superoxide in radioresistant cancer cells. 17th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (Kyoto), 2014.3.
- 7) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎 : ペン毛との類似性に基づいた緑膿菌 3 型分泌装置の機能メカニズムの解析. 第 87 回日本細菌学会総会(東京),2014.3.
- 8) 原口直子、植田奈都美、土谷博之、濱 進、小暮健太郎 : カンナビノイド受容体 1 アンタゴニストによる脂肪蓄積抑制機構の解明. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 9) 濱 進、荒田美帆子、中村伊吹、板倉祥子、吉貴達寛、小暮健太郎 : 抗 C7orf24 siRNA のジェットインジェクションによる腫瘍成長抑制. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 10) 山田朝子、光枝亜佐子、濱 進、中村孝司、原島秀吉、小暮健太郎 : 遺伝子送達率の向上を目的とした 3 枚膜被覆ナノ粒子の構築. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 11) 高木敬太、扇田隆司、濱 進、山本武範、篠原康雄、小暮健太郎 : チャネルタンパク質 VDAC を利用した新規環境応答性薬物放出リポソームの開発. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 12) 坂井美香、濱 進、板倉祥子、三橋尚登、真島英司、小暮健太郎 : 標的化癌治療のために簡便に抗体を表面結合可能なプロテイン A 修飾ナノ粒子の開発. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 13) 板倉祥子、濱 進、扇田隆司、小暮健太郎 : 癌細胞膜内プロテアーゼに応答して細胞内への薬物放出が可能な新規 DDS の開発. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 14) 豊田真央、濱 進、池田 豊、長崎幸夫、小暮健太郎 : 非侵襲的ながんワクチンを目指した微弱電流刺激による抗原経皮送達システムの開発. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 15) 中村伊吹、濱 進、板倉祥子、小暮健太郎 : Lipocalin2 による Hypoxia Inducible Factor-1 α の安定化を介した低酸素シグナルの活性化. 日本薬学会第 134 年会(熊本),2014.3.
- 16) Susumu Hama, Ibuki Nakamura, Shoko Itakura, Ichiro Takasaki, Yoshiaki Tabuchi, Kentaro Kogure : Lipocalin2 as a plasma marker for tumors with hypoxic regions. EMBO|EMBL Symposium Tumour Microenvironment and Signalling (Heidelberg, Germany), 2014.5.

- 17) Ibuki Nakamura, Susumu Hama, Shoko Itakura, Kentaro Kogure : Stabilization of Hypoxia Inducible Factor-1a by Lipocalin2-mediated Fe³⁺ influx into normoxic tumor cells. EMBO|EMBL Symposium Tumour Microenvironment and Signalling (Heidelberg, Germany), 2014.5.
- 18) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎：細菌Ⅲ型分泌装置の回転運動 - エフェクター分泌相関に対する高粘性環境の物理化学的影響. 日本膜学会第 36 年会(東京),2014.5.
- 19) 中村伊吹、濱 進、板倉祥子、小暮健太郎：癌微小環境制御による癌治療戦略. 日本薬剤学会第 29 年会(埼玉),2014.5.
- 20) 豊田真央、濱 進、池田 豊、長崎幸夫、小暮健太郎：がん治療を目的とした非侵襲的なペプチド抗原皮内送達法の開発. 日本薬剤学会第 29 年会(埼玉),2014.5.
- 21) 亀崎ちひろ、山田晋一、原島秀吉、濱 進、小暮健太郎：ナノキャリアーの経皮投与による 1 型糖尿病新規遺伝子治療法の確立. 日本薬剤学会第 29 年会(埼玉),2014.5.
- 22) 下井雄太、濱 進、福澤健治、小暮健太郎：作用メカニズム解析情報に基づくトコフェロールコハク酸の抗癌効果の増強. 日本ビタミン学会第 66 回大会(姫路),2014.6.
- 23) 濱 進、下井雄太、桐村直子、北尾哲也、福澤健治、小暮健太郎：ビタミン E によるリウマチ進展遺伝子発現抑制を介した抗リウマチ効果. 日本ビタミン学会第 66 回大会(姫路),2014.6.
- 24) 高木敬太、扇田隆司、濱 進、山本武範、篠原康雄、小暮健太郎：高分子/薬物複合体を封入した新規環境応答性薬物放出型リポソームの開発. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会(東京),2014.7.
- 25) 坂井美香、濱 進、板倉祥子、三橋尚登、真島英司、小暮健太郎：抗体 Fc 領域に高い親和性を有する proteinA-R28 を利用した標的化ナノ粒子の開発. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会(東京),2014.7.
- 26) 山田朝子、光枝亜佐子、濱 進、原島秀吉、小暮健太郎：新規遺伝子デリバリーシステム開発を目的としたパッチワーク法の確立と 3 枚膜被覆ナノ粒子の構築. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会(東京),2014.7.
- 27) 濱 進、板倉祥子、鈴木智子、中山佳代子、森本智士、小暮健太郎：腫瘍内動態制御可能な低 pH 応答性ペプチド修飾薬物キャリアーの開発. 第 33 回分子病理研究会(宮城),2014.7.

- 28) Takashi Ohgita : Analysis of bacterial Type III effector secretion mechanism based on the observation of rotation of type III secretion apparatus. IUPAB INTERNATIONAL BIOPHYSICS CONGRESS(Brisbane, Australia), 2014.8.
- 29) Kentaro Kogure : Mechanism of electricity-mediated change of cellular uptake and intracellular trafficking. IUPAB INTERNATIONAL BIOPHYSICS CONGRESS (Brisbane, Australia), 2014.8.
- 30) 西本明功、初山京子、扇田隆司、濱 進、小暮健太郎：細胞内輸送に対する微弱電流刺激の影響評価。遺伝子・デリバリー研究会第14回夏期セミナー(熊本),2014.8.
- 31) 濱 進、下井雄太、福澤健治、小暮健太郎：スーパーオキシド介在性オートファジーの抑制によるトコフェロールコハク酸誘導アポトーシスの増強。第67回日本酸化ストレス学会学術集会(京都),2014.9.
- 32) 小暮健太郎、高橋加奈子、植西左千子、塩田佳菜子、山下栄次、濱 進：アスタキサンチン含有リポソームによる紫外線皮膚傷害からの保護効果。第67回日本酸化ストレス学会学術集会(京都),2014.9.
- 33) 小暮健太郎、豊田真央、濱 進、池田 豊、長崎幸夫：微弱電流とペプチド抗原担持ナノゲルを組み合わせた経皮癌ワクチンの開発。第63回高分子討論会(長崎),2014.9.
- 34) 濱 進、小暮健太郎：腫瘍微小環境に応答する新規ペプチドを修飾したナノ粒子はポリエチレングリコールのジレンマを克服する。第73回日本癌学会学術総会(横浜),2014.9.
- 35) Takashi Ohgita, Naoki Hayashi, Naomasa Gotoh, Kentaro Kogure : Evaluation of physicochemical effect of viscous polymers toward rotation and effector secretion of bacterial type III secretion apparatus . 第52回日本生物物理学会(札幌),2014.9.
- 36) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎：高粘性環境が細菌III型分泌装置の回転運動ーエフェクター分泌相関に及ぼす影響の検討。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 37) 初山京子、西本明功、扇田隆司、濱 進、小暮健太郎：微弱電流処理による *in vitro* トランスフェクション活性への影響。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.

- 38) 鄭 賢卿、宇野晃平、島谷悠里、濱 進、小暮健太郎：細胞間隙間裂ペプチドを表面修飾した柔軟構造ナノ構造体の開発 siRNA キャリアーの積極的な細胞間隙侵入。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 39) Mao Toyoda, Susumu Hama, Yutaka Ikeda, Yukio Nagasaki, Kentaro Kogure : Anti-Cancer vaccine by transderma delivery of antige peptides-loaded nanogel by faint electric treatment. 7th International Workshop on Advanced Materials Science and Nanotechnology(Halong city Vietnam),2014.11.
- 40) 濱 進、大石利一、板倉祥子、小暮健太郎：腫瘍内底 pH 応答性ペプチドを利用した薬物放出キャリアーの開発。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 41) 西本明功、初山京子、扇田隆司、濱 進、小暮健太郎：微弱電流刺激による外来物質の細胞内膜輸送への影響評価。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 42) 鄭 賢卿、宇野晃平、島谷悠里、濱 進、小暮健太郎：積極的な細胞間隙侵入を狙った柔軟構造を有する siRNA キャリアーの開発。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 43) 桐村直子、濱 進、北尾哲也、福澤健治、小暮健太郎：有機アニオントランスポーターを介して取り込まれるビタミン E 誘導体の抗リウマチ効果。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 44) 板倉祥子、濱 進、扇田隆司、小暮健太郎：リポソーム膜不安定化ペプチドを利用した新規 DDS の開発。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 45) 鈴木智子、濱 進、板倉祥子、中井麻由美、中山佳代子、森本智士、小暮健太郎：微弱低 pH 応答性ペプチド SAPSp 修飾ナノ粒子の腫瘍内透過メカニズムの解析。第 36 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(徳島),2014.11.
- 46) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎：細胞膜を足場とする細胞Ⅲ型分泌装置の回転運動の観察とこれに基づいたエフェクター分泌機構の検討。膜シンポジウム 2014(神戸),2014.11.
- 47) 山田朝子、光枝亜左子、濱 進、原島秀吉、小暮健太郎：バイセルを用いたパッチワーク法による 3 枚膜被覆ナノ粒子の構築。膜シンポジウム 2014(神戸),2014.11.

講演等

- 1) 小暮健太郎：招待講演「ナノゲルと微弱電流の組合わせによる癌ワクチン開発」。筑波大学数理物質科学研究科長崎研究室(茨城),2014.4.
- 2) 濱 進、小暮健太郎：「腫瘍環境応答性素子と脂質膜との相互作用を利用した DDS の創製」。日本膜学会第 36 年会(東京),2014.5.
- 3) 濱 進、小暮健太郎：「標的に応じた構造特性を有する癌治療 DDS」。日本薬剤学会第 29 年会(埼玉),2014.5.
- 4) 濱 進：「ビタミン E コハク酸の *in vitro* メカニズム解析から *in vivo* 癌治療システムへの展開」。日本ビタミン学会第 66 回大会(姫路),2014.6.
- 5) 濱 進：「ビタミン E 誘導体によるリウマチ進展遺伝子発現抑制を介した抗リウマチ効果」。第 17 回 Vitamin E Update Forum(東京),2014.8.
- 6) 濱 進：「抗癌剤の物性に着目した癌治療用新規ナノキャリアーの創製」。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 7) 小暮健太郎：特別講演「イオントフォoresisによる抗酸化成分の皮内送達」。第 6 回経皮投与製剤 F G シンポジウム(東京),2014.11.
- 8) 濱 進：「がん微小環境を利用した治療・診断法の開発と DDS」。技術情報協会セミナーがん微小環境を標的とした新しい診断・治療薬の開発の留意点(東京),2014.12.

その他

- 1) 濱 進：参加。第75回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿(滋賀), 2014.11.
- 2) 小暮健太郎：評価者。摂南大学OSCE (大阪),2014.12.
- 3) 濱 進、下井雄太、福澤健治、小暮健太郎：トコフェロールコハク酸誘導アポトーシスにおけるオートファジーの関与。 *ビタミンE研究の進歩 XVI*,pp.50-55, (2014).

論文

- 1) Shohei Segawa, Takeshi Nishiura, Takahiro Furuta, Yuki Ohsato, Misaki Tani, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: Zinc is released by cultured astrocytes as a gliotransmitter under hypoosmotic stress-loaded conditions and regulates microglial activity. *Life Sci.*, **94**, 137-144 (2014).
- 2) Kentaro Nishida, Yukari Dohi, Yuri Yamanaka, Ai Miyata, Katsunobu Tsukamoto, Miharu Yabu, Akihiro Ohishi, Kazuki Nagasawa: Expression of adenosine A2b receptor in rat type II and III taste cells. *Histochem. Cell Biol.*, **141**, 499-506 (2014).
- 3) Yuuka Kido, Chiyo Kawahara, Yasuko Terai, Akihiro Ohishi, Satoshi Kobayashi, Miki Hayakawa, Yosuke Kamatsuka, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: Regulation of activity of P2X7 receptor by its splice variants in cultured mouse astrocytes. *GLIA*, **62**, 440-451 (2014).
- 4) Kentaro Nishida, Yuka Nomura, Kanako Kawamori, Yoshinori Moriyama, Kazuki Nagasawa: Expression profile of vesicular nucleotide transporter (VNUT, SLC17A9) in subpopulations of rat dorsal root ganglion neurons. *Neurosci. Lett.*, **579**, 75-79 (2014).
- 5) Shohei Segawa, Makiko Shibamoto, Mikayo Ogawa, Saori Miyake, Kaho Mizumoto, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: The effect of divalent metal cations on zinc uptake by mouse Zrt/Irt-like protein 1 (ZIP1). *Life Sci.*, **113**, 40-44 (2014).
- 6) Yosuke Kamatsuka, Manami Fukagawa, Takahiro Furuta, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: Astrocytes, but not neurons, exhibit constitutive activation of P2X7 receptors in mouse acute cortical slices under non-stimulated resting conditions. *Biol. Pharm. Bull.*, **37**, 1958-1962 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 大石晃弘、久保田晃代、松本沙希、加藤淳貴、土肥由香里、西田健太郎、長澤一樹：ラット味蕾におけ

- る adenine nucleotide / nucleoside 味覚情報伝達機構の解明. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 2) 番匠咲帆、宮田麻依、山中優里、宮本花凜、小西一誠、藪 美晴、大石晃弘、西田健太郎、長澤一樹 : Oxaliplatin 投与ラットにおける味覚機能の変化. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
 - 3) 細田綾美、竹内和也、森崎恵理、菅野昇平、原田弘毅、横田康介、西田健太郎、長澤一樹 : Oxaliplatin 投与ラットの脊髄後根神経節における白金蓄積への organic cation / carnitine transporters (OCTN) 1 及び 2 の関与について. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
 - 4) 鎌塚洋祐、小林 哲、大堀健史、藤原麻紀子、西田健太郎、長澤一樹 : マウス及びヒト P2X7 受容体活性に対する二価金属カオチンの影響の比較検討. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
 - 5) Kazuki Nagasawa, Mina Yamamoto, Yosuke Kamatsuka, Takahiro Furuta, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida: P2X7 receptors regulate engulfing activity of non-stimulated resting astrocytes. Purines2014 (Bonn), 2014. 7.
 - 6) 古田能裕、須藤崇史、向井あゆみ、山本美菜、西田健太郎、長澤一樹 : 活性化アストロサイトにおける P2X7 受容体の機能的発現変動について. 第 57 回日本神経化学会(奈良)大会・第 36 回日本生物学的精神医学会 合同年会 (奈良), 2014. 9.
 - 7) 大石晃弘、宮本花凜、今井瑞香、中西椋子、小西一誠、西田健太郎、長澤一樹 : ボルテゾミブ投与マウスにおける味覚感受性の変化. 日本味と匂学会第 48 回大会 (静岡), 2014. 10.
 - 8) 宮本花凜、大石晃弘、番匠咲帆、今井瑞香、中西椋子、小西一誠、西田健太郎、長澤一樹 : ボルテゾミブ投与はマウスの味覚感受性に影響を与える. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
 - 9) 丸宮彩香、毛野祐花、須藤悠悟、宇田裕香子、松田衣代、森田由樹、古田能裕、西田健太郎、長澤一樹 : SJL 系及び ddY 系マウス大脳皮質神経細胞における P2X7 受容体の機能的発現の比較. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
 - 10) 竹内和也、細田綾美、森崎恵理、原田弘毅、横田康介、室木 究、柴 俊輔、池田理紗、西田健太郎、長澤一樹 : オキサリプラチン投与ラットの神経毒性に対するエルゴチオネインの影響. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.

- 11) 山本美菜、古田能裕、向井あゆみ、西田健太郎、長澤一樹：酸化ストレス負荷されたアストロサイトに おける engulfment 活性の低下は P2X7 受容体の局在変化に起因する。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 12) 西田健太郎、山中優里、宮田麻依、番匠咲帆、宮本花凜、大石晃弘、長澤一樹：Oxaliplatin 誘発性味覚 障害発症メカニズムの解析 一味覚感受性、味受容体の発現及び味細胞数の統合的解析。第 64 回日本 薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 13) Kentaro Nishida, Akihiro Ohishi, Kazuki Nagasawa: Expression profile of ectonucleotidases and equilibrative nucleoside transporter in the rat circumvallate papillae. NEUROSCIENCE 2014 (Washington, DC), 2014. 11.

講演等

- 1) 西田健太郎：抗がん剤オキサリプラチンによる末梢神経障害発症機序の解明。第 5 回 KPU シンポジウ ム (京都), 2014. 4.

その他

- 1) 長澤一樹：参加。薬学教育評価機構 第 6 回 (平成 25 年度第 2 回) 評価者研修会 (東京), 2014. 1.
- 2) 西田健太郎、森崎恵理、菅野昇平、原田弘毅、横田康介、細田綾美、竹内和也、室木 究、柴 俊輔、池田理沙、長澤一樹：オキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対するエルゴチオネインの効果 ～知覚神 経細胞へのオキサリプラチンの蓄積抑制～。私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2013 年度成果発表 会 (京都), 2014. 3.
- 3) 小川未佳代、三宅沙央莉、瀬川将平、西田健太郎、長澤一樹：亜鉛トランスポータ Zrt / Irt-like protein (ZIP) 1 を介した亜鉛輸送に対する二価金属カチオンの阻害活性の比較。ナノライフサイエンス・オープンセ ミナー2014 (徳島), 2014. 8.
- 4) 大嶋千晶、古田能裕、竹林直人、松村真裕、須藤嵩史、向井あゆみ、西田健太郎、長澤一樹：酸化スト レス負荷アストロサイトにおける亜鉛輸送機構の機能的発現について。ナノライフサイエンス・オーブ ンセミナー2014 (徳島), 2014. 8.

- 5) 藪 美晴、小西一誠、塚本勝信、西田健太郎、長澤一樹 : Oxaliplatin 投与によるラット味覚機能の変化 ～有郭乳頭における味蕾の組織形態、味細胞数及び細胞周期の解析～. ナノライフサイエンス・オープンセミナー2014 (徳島), 2014. 8.
- 6) 早川美紀、鎌塚洋祐、小林 哲、大石晃弘、西田健太郎、長澤一樹 : マウスアストロサイトにおける P2X7 受容体はその splice variant 3 及び 4 によって制御される. ナノライフサイエンス・オープンセミナー2014 (徳島), 2014. 8.
- 7) 丸宮彩香、毛野祐花、須藤悠悟、宇田裕香子、松田衣代、森田由樹、古田能裕、西田健太郎、長澤一樹 : SJL 及び ddY 系マウス大脳皮質神経細胞における P2X7 受容体の機能的発現の比較. ナノライフサイエンス・オープンセミナー2014 (徳島), 2014. 8.
- 8) 長澤一樹 : 参加. 日本薬学会 第 4 回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ (大阪), 2014. 11.
- 9) 瀬川将平、古田能裕、西浦武志、大里侑希、谷 美咲、西田健太郎、長澤一樹 : 低浸透圧処理アストロサイトから放出された亜鉛はミクログリアを活性化するグリオトランスミッターである. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 10) 西田健太郎、山中優里、宮田麻依、藪 美晴、宮本花凜、番匠咲帆、大石晃弘、長澤一樹 : Oxaliplatin 誘発性味覚障害発症メカニズムの解析 ～甘味感受性及びその味受容体発現への影響～. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 11) 小池晃広、瀬川将平、芝本真紀子、小川未佳代、三宅沙央莉、水本果歩、大石晃弘、西田健太郎、長澤一樹 : 亜鉛トランスポーター Zrt / Irt-like protein 1 (ZIP1) による亜鉛取り込みに対する二価金属カチオンの阻害特性. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 12) 竹内和也、細田綾美、森崎恵理、菅野昇平、西田健太郎、長澤一樹 : Oxaliplatin 投与ラットの脊髄後根神経節における白金蓄積へのエルゴチオネインの影響について. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 13) 須藤悠悟、毛野祐花、丸宮彩香、西田健太郎、長澤一樹 : SJL 及び ddY 系マウス大脳皮質神経細胞における P2X7 受容体の機能的発現の比較. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム (京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都薬科大学) (京都), 2014. 12.

公衆衛生学

著書

- 1) 渡辺徹志：第3章 環境衛生. *パザン衛生薬学演習第2版*, pp. 155-230, 廣川書店(2014).
- 2) 渡辺徹志:第8章 生活環境と健康. *考える衛生薬学第4版7刷*, pp. 633-792, 廣川書店(2014).

論文

- 1) *Yukari Totsuka, Tetsushi Watanabe, Souleymane Coulibaly, Sae Kobayashi, Marina Nishizaki, Miho Okazaki, Tomohiro Hasei, Keiji Wakabayashi, Hitoshi Nakagama. *In vivo* genotoxicity of a novel heterocyclic amine, aminobenzoazepinoquinolinone-derivative (ABAQ), produced by the Maillard reaction between glucose and L-tryptohan. *Mutation Research* **760**, 48-55 (2014).
- 2) *Tetsushi Watanabe, Tomohiro Hasei, Osamu Kokunai, Souleymane Coulibaly, Sachi Nishimura, Moe Fukasawa, Ryohei Takahashi, Yasuko Mori, Kosuke Fujita, Yuri Yoshihara, Yumi Miyake, Akane Kishi, Motoki Matsui, Fumikazu Ikemori, Kunihiro Funasaka, Akira Toriba, Kazuichi Hayakawa, Kei-ichi Arashidani, Yohei Inaba, Nobuyuki Sera, Yuya Deguchi, Tetsurou Seiyama, Takako Yamaguchi, Masanari Watanabe, Naoko Honda, Keiji Wakabayashi and Yukari Totsuka. Air Pollution with Particulate Matter and Mutagens: Relevance of Asian Dust to Mutagenicity of Airborne Particles in Japan. *Genes and Environment* **36**, 120-136 (2014).
- 3) Takahiro Kochi, *Masahito Shimizu, Yukari Totsuka, Yohei Shirakami, Takayuki Nakanishi, Tetsushi Watanabe, Takuji Tanaka, Hitoshi Nakagama, Keiji Wakabayashi, Hisataka Moriwaki. A novel aromatic mutagen, 5-amino-6-hydroxy-8H-benzo[6,7]azepino[5,4,3-de]quinolin-7-one (ABAQ), induces colonic preneoplastic lesions in mice. *Toxicology Reports* **1**, 69-73 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 長谷井友尋、クウリバリ・スレイマン、戸塚ゆ加里、若林敬二、渡辺徹志：メイラード反応によって生成する新規化合物 ABAQ の *in vivo* 遺伝毒性. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム(京都), 2014.2.

- 2) 長谷井友尋、阪口真臣、米田真希、和田光弘、池盛文数、渡辺徹志：表層土壤中の強変異・がん原性 3,9-dinitrofluoranthene 及び dinitropyrene 異性体の分析並びに大気粉塵中の粒径分布. 日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 3) クウリバリ・スレイマン、坂本みずほ、貴志茜衣、松井元希、小野遼、南嘉輝、山田真裕、長谷井友尋、趙利霞、唐寧、鳥羽陽、早川和一、盛山哲郎、木戸瑞佳、世良暢之、船坂邦弘、浅川大地、渡部仁成、若林敬二、渡辺徹志：北京及び日本海沿岸地域における大気粉塵中の成分の比較及び中国大陸からの越境輸送の影響. 日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 4) 松井元希、クウリバリ・スレイマン、藤田浩祐、貴志茜衣、坂本みずほ、小野遼、南嘉輝、山田真裕、長谷井友尋、盛山哲郎、木戸瑞佳、世良暢之、渡部仁成、若林敬二、渡辺徹志：日本海沿岸地域における大気環境の季節変動及びその比較. 日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 5) Keiji Wakabayashi, Yukari Totsuka, Tetsushi Watanabe, Takahiro Kochi, Masahito Shimizu, Takuji Tanaka : A Novel Maillard Reaction Product, Aminobenzoazepinoquinolinone-Derivative, Induces Genotoxicity and Preneoplastic Lesions in Mice. The Environmental Mutagenesis and Genomics Society 45th Annual Meeting (Orlando, FL, U.S.A.), 2014.9.
- 6) 長谷井友尋、藤橋愛、新開史崇、河合佑季、渡辺徹志：変異・がん原性物質 1-nitropyrene に対する緑茶中の抗遺伝毒性物質の検索.フォーラム 2014 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば), 2014.9.
- 7) クウリバリ・スレイマン、山田真裕、小野遼、南嘉輝、阿部真帆、貴志茜衣、松井元希、長谷井友尋、世良暢之、大呂忠司、木戸瑞佳、船坂邦弘、浅川大地、渡部仁成、若林敬二、渡辺徹志：日本海沿岸 3 県における冬季及び春季の越境大気汚染の解析. フォーラム 2014 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば), 2014.9.
- 8) 新開史崇、藤橋愛、河合佑季、長谷井友尋、渡辺徹志：1-Nitropyrene に対する緑茶中の抗変異原性物質の探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会. (京都), 2014.10.
- 9) 阿部真帆、クウリバリ・スレイマン、松井元希、貴志茜衣、坂本みずほ、小野遼、南嘉輝、山田真裕、長谷井友尋、世良暢之、大呂忠司、木戸瑞佳、船坂邦弘、浅川大地、渡辺徹志：2011 年 12 月から 2012 年 5 月の日本海沿岸地域における越境大気汚染の解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会. (京都), 2014.10.

- 10) 長谷井友尋、川久保慶一、河内麻由美、渡辺徹志：メイラード反応によって生成する新規遺伝毒性物質 ABAQ のヒト尿中からの検出. 第 3 回創薬科学フロンティアシンポジウム. (京都), 2014.11.
- 11) 新開史崇、長谷井友尋、渡辺徹志：変異・がん原性ニトロアレーンに対する緑茶中の抗変異原性物質の探索. 4 大学連携研究フォーラム(京都), 2014.12.
- 12) クゥリバリ・スレイマン、長谷井友尋、世良暢之、大呂忠司、木戸瑞佳、船坂邦弘、浅川大地、若林敬二、渡辺徹志：日本海沿岸 3 県における冬季及び春季の大気粉塵の変異原性及び越境輸送の影響. 日本環境変異原学会第 43 回大会(東京), 2014.12.
- 13) 長谷井友尋、藤橋愛、新開史崇、河合佑季、渡辺徹志：1-Nitropyrene に対する緑茶中の抗遺伝毒性物質の検索. 日本環境変異原学会第 43 回大会(東京), 2014.12.

その他

- 1) 渡辺徹志：平成 25 年度 地球規模保健課題推進研究事業（国際医学協力研究事業）「環境ゲノミックス・疾病専門部会」研究発表会. 国立がん研究センター(東京), 2014.2.
- 2) 渡辺徹志：タクスフォー「第 75 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」.立命館大学(草津), 2014.11
- 3) 渡辺徹志：薬学共用試験 OSCE 評価者. 同志社女子大学(京都), 2014.12.

論文

- 1) Mochizuki Y, Suzuki T, Oka N, Zhang Y, Hayashi Y, Hayashi N, Gotoh N, and Ohashi Y. *Pseudomonas aeruginosa* MucD protease mediate keratitis by inhibiting of neutrophil recruitment and promoting bacterial survival. *Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.*, **55**, 240-246 (2014).
- 2) Okuda J, Hanabusa A, and Gotoh N. ExoS of *Pseudomonas aeruginosa* binds to a human KIF7 to induce cytotoxicity in cultured human bronchial epithelial cells. *J. Infect. Chemother.*, **20**, 121-127 (2014).
- 3) Higuchi S, Shikata M, Chiba M, Hoshino K, and Gotoh N. Characteristics of antibiotic resistance and sequence type of *Acinetobacter baumannii* clinical isolates in Japan and the antibacterial activity of DS-8587. *J. Infect. Chemother.*, **20**, 256-261 (2014).
- 4) Iguchi A, Nagaya Y, Pradel E, Ooka T, Ogura Y, Katsura K, Kurokawa K, Oshima K, Hattori M, Parkhill J, Sebahia M, Coulthurst SJ, Gotoh N, Thomson NR, Ewbank JJ, and Hayashi T. Genome evolution and plasticity of *Serratia marcescens*, an important multidrug-resistant nosocomial pathogen. *Genome Biol. Evol.*, **6**, 2096-2110 (2014).

プロシーディングス

- 1) 後藤直正: 排出システムを切り口に緑膿菌の生態を考える. 第48回緑膿菌感染症研究会講演記録, pp. 2 (2014).
- 2) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌のIV型線毛を介した上皮細胞層透過機構の解析. 第48回緑膿菌感染症研究会講演記録, pp. 45-49 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌のIV型線毛を介した上皮細胞層透過機構の解析. 第48回緑膿菌感染症研究会 (長崎), 2014.1.
- 2) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌のIII型エフェクターExoSの上皮細胞内注入におけるIV型線毛の必要性. 第87回日本細菌学会総会 (東京), 2014.3.

- 3) 扇田隆司、林直樹、後藤直正、小暮健太郎: べん毛との類似性に基づいた緑膿菌 3 型分泌装置の機能メカニズムの解析. 第 87 回日本細菌学会総会 (東京), 2014.3.
- 4) 林直樹、西澤英之、北尾聖哉、出口桜子、中村貴乃、藤本祥代、後藤直正: 緑膿菌による上皮細胞タイトジャンクション破綻における IV 型線毛の必要性. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 成宮久美、林直樹、米子佳希、後藤直正: 緑膿菌の上皮細胞層透過における鞭毛の役割. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 占部湖太郎、古曾志まり子、吉田奈緒美、林直樹、後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* の付着における上皮細胞種特異性の解析. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 7) 藤本祥代、林直樹、中村貴乃、西澤英之、北尾聖哉、後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* による III 型エフェクター ExoS の注入における IV 型線毛の必要性. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 8) 石畑菜亜子、松本ゆき子、後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* は elastase を産生することで自己溶菌する. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 9) 扇田隆司、林直樹、後藤直正、小暮健太郎: 細菌 III 型分泌装置の回転運動-エフェクター分泌相関に対する高粘性環境の物理化学的影響. 日本膜学会第 36 年会 (東京), 2014.5.
- 10) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌の IV 型線毛は III 型エフェクター ExoS の上皮細胞内への注入のための必須因子である. 平成 26 年度 近畿腸管微生物研究会総会・研究発表会. (大阪), 2014.6.
- 11) 林直樹、後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* による上皮細胞タイトジャンクション破綻における IV 型線毛の必要性. 第 88 回日本感染症学会学術講演会 第 62 回日本化学療法学会総会 合同学会 (福岡), 2014.6.
- 12) Ohgita T, Hayashi N, Gotoh N, and Kogure K : Analysis of bacterial type III effector secretion mechanism based on the observation of rotation of type III secretion apparatus. IUPAB international biophysics congress 2014 (Brisbane), 2014. 8
- 13) 林直樹、中村貴乃、藤本祥代、四方基嗣、後藤直正: III 型エフェクター ExoS の上皮細胞内注入における緑膿菌の IV 型線毛 *pilT* 遺伝子の必要性. 第 26 回微生物シンポジウム (東京), 2014.9.
- 14) Ohgita T, Hayashi N, Gotoh N, and Kogure K : Evaluation of physicochemical effect of viscous polymers toward rotation and effector secretion of bacterial type III secretion apparatus. 第 52 回日本生物物理学会

年会 (北海道), 2014. 9.

- 15) 矢淵慈子、監物寛紀、辻本明日香、眞鍋諒子、林直樹、後藤直正: 黄色ブドウ球菌の glucose 代謝産物による緑膿菌の増殖抑制. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 16) 上原加預、松尾悠美、田口晃弘、後藤直正: 黄色ブドウ球菌による緑膿菌増殖抑制への NADH 代謝の関与. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 17) 小畑志保、石山彩奈、東川祥子、四方基嗣、林直樹、後藤直正: IV 型線毛に着目した緑膿菌による Caco-2 細胞モノレイヤ透過の解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 18) 田村優実、葭江真己、占部湖太郎、四方基嗣、林直樹、後藤直正: IV 型線毛と asialo-GM1 の結合を介した緑膿菌の付着機構の解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 19) 藤澤彰宏、成宮久美、林直樹、後藤直正: 緑膿菌の宿主ムチン分解プロテアーゼの探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 20) 福西千晶、山本昌美、古曾志まり子、森田眞由、林直樹、後藤直正: 緑膿菌の上皮細胞への走化シグナルの解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 21) 松井直之、前川結、中村貴乃、藤本祥代、出口桜子、林直樹、後藤直正: 上皮細胞内への III 型エフェクター ExoS 注入における緑膿菌の *pilT* 遺伝子の必要性. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 22) 扇田隆司、林直樹、後藤直正、小暮健太郎: 高粘性環境が細菌 III 型分泌装置の回転運動-エフェクター分泌相関に及ぼす影響の検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 23) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌による III 型エフェクター ExoS の注入における IV 型線毛モータータンパク質をコードする *pilT* 遺伝子の必要性. 第 62 回日本化学療法学会西日本支部総会 第 57 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第 84 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 3 学会合同学会 (岡山), 2014.10.
- 24) 林直樹、後藤直正: III 型エフェクター ExoS の上皮細胞内注入における緑膿菌の IV 型線毛 *pilA* および *pilT* 遺伝子の必要性. 第 67 回日本細菌学会関西支部総会 (兵庫), 2014.11.
- 25) 扇田隆司、林直樹、後藤直正、小暮健太郎: 細胞膜を足場とする細胞 III 型分泌装置の回転運動の観察とこれに基づいたエフェクター分泌機構の検討. 膜シンポジウム 2014 (神戸), 2014.11.

- 26) 林直樹、中村貴乃、藤本祥代、藤澤彰宏、古曾志まり子、森田眞由、後藤直正: 緑膿菌による上皮細胞層透過機構を基盤に新たな標的指向型 DDS シーズを探索する. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 27) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎: 高粘性環境が細菌Ⅲ型エフェクター分泌に及ぼす物理化学的影響の評価. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 28) 林直樹、中村貴乃、藤本祥代、藤澤彰宏、古曾志まり子、森田眞由、後藤直正: 緑膿菌による上皮細胞層透過機構の解析. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.
- 29) 扇田隆司、林 直樹、後藤直正、小暮健太郎: 細菌Ⅲ型分泌装置の回転運動観察に基づくエフェクター分泌機構の検討. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.

講演等

- 1) 後藤直正: 排出システムを切り口に緑膿菌の生態を考える. 第 48 回緑膿菌感染症研究会 (長崎), 2014.1.
- 2) 林直樹、後藤直正: 緑膿菌の III 型エフェクター ExoS の上皮細胞内注入における IV 型線毛の必要性: 第 62 回日本化学療法学会西日本支部総会 第 57 回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第 84 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 3 学会合同学会 (岡山), 2014.10.

その他

- 1) 林直樹: 参加. 関西地区 FD 連絡協議会共催事業「授業の基本」+「成績評価」ワークショップ (神戸薬科大学), (神戸), 2014.8.

論文

- 1) Nobunao Wakabayashi, John J. Skoko, Dionysios V. Chartoumpekis, Shoko Kimura, Stephen L. Slocum, Kentaro Noda, Dushani L. Palliyaguru, Masahiro Fujimuro, Patricia A. Boley, Yugo Tanaka, Norihisa Shigemura, Shyam Biswal, Masayuki Yamamoto and Thomas W. Kensler : Notch-Nrf2 axis: Regulation of Nrf2 gene expression and cytoprotection by Notch signaling. *Mol. Cell. Biol.* **34**, 653-663 (2014).
- 2) Kazufumi Wakao, Tadashi Watanabe, Tadatoshi Takadama, Sadaharu Ui, Zenpei Shigemi, Hiroki Kagawa, Chizuka Higashi, Rie Ohga, Takahiro Taira, Masahiro Fujimuro : Sangivamycin induces apoptosis by suppressing Erk signaling in primary effusion lymphoma cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **444**, 135-140 (2014).
- 3) Tadashi Watanabe, Shigeo Nakamura, Toshiya Ono, Sadaharu Ui, Syota Yagi, Hiroki Kagawa, Hisami Watanabe, Tomoyuki Ohe, Tadahiko Mashino, Masahiro Fujimuro : Pyrrolidinium fullerene induces apoptosis by activation of procaspase-9 via suppression of Akt in primary effusion lymphoma. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **451**, 93-100 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 名原奈津紀、渡部匡史、荒木麻由、渡部久実、小林潤、賀川裕貴、藤室雅弘：ラオス国サバナケット県におけるHIV-1遺伝子型および薬剤耐性変異に関する分子疫学解析．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 2) 松廣淳平、池田茉莉那、渡部匡史、賀川裕貴、藤室雅弘：ヒト単純ヘルペスウイルス(HSV)感染におけるユビキチン化修飾とUBL化修飾．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 3) 渡部匡史、中村成夫、大江知之、増野匡彦、賀川裕貴、藤室雅弘：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス誘導性リンパ腫を標的とした化学療法の探索．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 4) 石裏悠希、渡部匡史、梅山遥、賀川裕貴、真鍋和樹、藤室雅弘：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV)感染B細胞性リンパ腫に対するスルフォラファン抗腫瘍活性．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.

- 5) 柳本洋美、下松谷輝、富岡明絵、八木将太、渡部匡史、賀川裕貴、藤室雅弘、寺松剛、寺島朝子、小口敏夫：腎移植患者 TDM 検体を用いたヒトヘルペスウイルス再活性化の挙動解析．日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 6) 富岡明絵、渡部匡史、柳本洋美、下松谷輝、八木将太、賀川祐貴、寺松剛、寺島朝子、小口敏夫、藤室雅弘：再生不良性貧血患者TDM残血をもちいたヒトヘルペスウイルス再活性化についての症例検討．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 7) 八木将太、渡部匡史、柳本洋美、下松谷輝、富岡明恵、賀川裕貴、寺松剛、寺島朝子、小口敏夫、藤室雅弘：敗血症患者における抗菌薬と β 、 γ 亜科ヘルペスウイルス再活性化との関連について．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 8) 重見善平、馬場悠輔、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスは小胞体ストレス応答 (UPR) を抑制する．日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 9) 賀川裕貴、藤田康平、南雪也、重見善平、渡部匡史、川原裕之、藤室雅弘：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV)感染細胞間では、Sonic hedgehog(Shh)シグナルを介して、溶解感染移行を調節している．第66回日本細胞生物学会大会 (奈良), 2014.6.
- 10) 渡部匡史、八木将太、名原奈津紀、山中崇裕、栗山和志、賀川裕貴、藤室雅弘：KSHV溶解感染時におけるHsp90 β 切断機構の解析．第11回EBウイルス研究会 (東京), 2014.6.
- 11) Tadashi Watanabe, Hiroki Kagawa, Masahiro Fujimuro : Hsp90 is cleaved during KSHV lytic replication. The 39th Annual International Herpesvirus Workshop (Kobe), 2014.7.
- 12) 賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘、竹内正彦、沖山忠：株式会社ジェイ・エム・エス製抗がん剤用クローズドシステム「ネオシールド®」を用いた曝露防止効果の評価．第24回日本医療薬学会年会 (名古屋), 2014.9.
- 13) 竹内正彦、賀川裕貴、沖山忠、渡部匡史、藤室雅弘：様々な抗がん剤用閉鎖システムを用いた曝露防止効果の評価．第2回看護理工学会学術集会(大阪), 2014.10.
- 14) 松井宏樹、重見善平、渡部匡史、賀川裕貴、中曾一裕、藤室雅弘：Dopamine 処理による神経細胞内タンパク質分解系への影響．第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.

- 15) 梅山遥、重見善平、渡部匡史、賀川裕貴、藤室雅弘：K⁺イオノフォア Nigericin はカポジ肉腫関連ヘルペスウイルス感染リンパ腫細胞の Wnt シグナルを抑制しアポトーシスを誘導する。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 16) 松廣淳平、池田茉莉那、渡部匡史、賀川裕貴、藤室雅弘：単純ヘルペスウイルス感染におけるユビキチン化修飾の挙動解析。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 17) 渡部匡史、八木将太、山中崇裕、栗山和志、名原奈津紀、賀川裕貴、藤室雅弘：ヒトがんウイルス感染細胞におけるHsp90 の挙動解析。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 18) 賀川裕貴、渡部匡史、野口裕祐、竹内正彦、沖山忠、藤室雅弘：エンドキサン調製時における、様々な抗がん剤用閉鎖システムを用いた曝露防止効果の非臨床評価。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 19) 倉田俊一、福西菜穂子、藤室雅弘、加藤伊陽子：p63(TP63)によるWnt標的遺伝子の正と負の制御。第87回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.
- 20) 重見善平、古川喜規、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘：Diallyl trisulfideのNF- κ Bシグナル抑制を介した抗腫瘍効果。第87回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.
- 21) 渡部匡史、名原奈津紀、荒木麻由、石崎有澄美、Phongmany Panom、Sopraseutha Vatsana、賀川裕貴、小林潤、渡部久実、市村宏、藤室雅弘：ラオス国におけるHIV-1 の遺伝子型および薬剤耐性変異の分子疫学解析。第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会 合同大会 (東京), 2014.11.
- 22) 渡部匡史、山中崇裕、栗山和志、名原奈津紀、賀川裕貴、藤室雅弘：Hsp90 β 切断によるKSHV 複製機構への影響。第62回日本ウイルス学会学術集会 (横浜), 2014.11.
- 23) 重見善平、細川晃平、古川喜規、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘：ヒトがんウイルスによる小胞体ストレス応答 (UPR) 抑制機構。第37回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.
- 24) 松井宏樹、中曾一裕、重見善平、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘：Dopamine処理による神経細胞のプロテアソーム系およびオートファジー系への影響。第37回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.

- 25) 梅山遥、重見善平、原尚子、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘：K⁺/H⁺イオノフォアである Nigericin は癌ウイルス感染リンパ腫の Wnt シグナルを抑制する．第 37 回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.
- 26) 藤田康平、賀川裕貴、渡部匡史、川原裕之、藤室雅弘：Epstein-Barrウイルスの溶解感染移行時における Sonic hedgehogシグナルの関与．第37回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.
- 27) 名原奈津紀、渡部匡史、荒木真由、石崎有澄美、賀川裕貴、小林潤、渡部久実、市村宏、藤室雅弘：ラオス国におけるHIV-1遺伝子型および薬剤耐性変異解析．第28回日本エイズ学会学術集会・総会 (大阪), 2014.12.

論文 (*Corresponding author)

- 1) Shoichi Kubota, Yasunori Fukumoto, Kenichi Ishibashi, Shuhei Soeda, Sho Kubota, Ryuzaburo Yuki, Yuji Nakayama, Kazumasa Aoyama, Noritaka Yamaguchi, *Naoto Yamaguchi. Activation of the prereplication complex is blocked by mimosine through reactive oxygen species-activated ataxia telangiectasia mutated (ATM) protein without DNA damage. *J. Biol. Chem.* **289**, 5730-5746 (2014).
- 2) *Yuji Nakayama, Youhei Saito, Shuhei Soeda, Erika Iwamoto, Sayuri Ogawa, Nobuyuki Yamagishi, Takahisa Kuga, Naoto Yamaguchi. Genistein induces cytokinesis failure through RhoA delocalization and anaphase chromosome bridging. *J. Cell. Biochem.* **115**, 763-771 (2014).
- 3) Hideaki Kume, Satoshi Muraoka, Takahisa Kuga, Jun Adachi, Ryohei Narumi, Shio Watanabe, Masayoshi Kuwano, Yoshio Kodera, Kazuyuki Matsushita, Junya Fukuoka, Takeshi Masuda, Yasushi Ishihama, Hisahiro Matsubara, Fumio Nomura, *Takeshi Tomonaga. Discovery of colorectal cancer biomarker candidates by membrane proteomic analysis and subsequent verification using selected reaction monitoring (SRM) and tissue microarray (TMA) analysis. *Mol. Cell. Proteomics* **13**, 1471-1484 (2014).
- 4) Takahisa Kuga, Hua Nie, Takahiro Kazami, Mamoru Satoh, Kazuyuki Matsushita, Fumio Nomura, Kazuhiro Maeshima, Yuji Nakayama, *Takeshi Tomonaga. Lamin B2 prevents chromosome instability by ensuring proper mitotic chromosome segregation. *Oncogenesis* **3**, e94 (2014).
- 5) *Yasunori Fukumoto, Mariko Morii, Takahito Miura, Sho Kubota, Kenichi Ishibashi, Takuya Honda, Aya Okamoto, Noritaka Yamaguchi, Atsushi Iwama, Yuji Nakayama, Naoto Yamaguchi. Src family kinases promote silencing of ATR-Chk1 signaling in termination of DNA damage checkpoint. *J. Biol. Chem.* **289**, 12313-12329 (2014).
- 6) *Nobuyuki Yamagishi, Ryota Nakao, Rumi Kondo, Mai Nishitsuji, Youhei Saito, Takahisa Kuga, Takumi Hatayama, and Yuji Nakayama. Increased expression of sorcin is associated with multidrug resistance in leukemia cells via up-regulation of MDR1 expression through cAMP response element-binding protein. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **448**, 430-436 (2014).
- 7) *Yasunori Fukumoto, Takahito Miura, Mariko Morii, Sho Kubota, Takuya Honda, Shoichi Kubota, Takao Morinaga, Noritaka Yamaguchi, Yuji Nakayama, *Naoto Yamaguchi. v-Src inhibits the interaction between Rad17 and Rad9 and induces replication fork collapse. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **450**, 885-890 (2014).
- 8) *Youhei Saito, Akihisa Yukawa, Masashi Matozaki, Hiroki Mikami, Tomohiro Yamagami, Nobuyuki Yamagishi, Takahisa Kuga, Takumi Hatayama, *Yuji Nakayama. Nmi interacts with Hsp105 β and enhances the Hsp105 β -mediated Hsp70 expression. *Exp. Cell Res.* **327**, 163-170 (2014).

- 9) *Yasunori Fukumoto, Kazumasa Kuki, Mariko Morii, Takahito Miura, Takuya Honda, Kenichi Ishibashi, Hitomi Hasegawa, Sho Kubota, Yudai Ide, Noritaka Yamaguchi, Yuji Nakayama, *Naoto Yamaguchi. Lyn tyrosine kinase promotes silencing of ATM-dependent checkpoint signaling during recovery from DNA double-strand breaks. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **452**, 542-547 (2014).
- 10) Takao Morinaga, Kohei Abe, Yuji Nakayama, Noritaka Yamaguchi, *Naoto Yamaguchi. Activation of Lyn tyrosine kinase through decreased membrane cholesterol levels during a change in its membrane distribution upon cell detachment. *J. Biol. Chem.* **289**, 26327-26343 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 武田祐美、中山祐治、岡本麻衣、長谷川智津、米谷詩織、青山和正、久保田翔、阿部紘平、山口憲孝、久家貴寿、橋本裕希、朝長 毅、山口直人: Fyn チロシンキナーゼによる分裂期 spindle の安定化: spindle 精製法を用いた基質探索. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 2) 久保田翔、福本泰典、青山和正、石橋賢一、幸 龍三郎、盛永敬郎、本田拓也、森井真理子、山口憲孝、久家貴寿、朝長 毅、山口直人: KPA1 のチロシンリン酸化による HP1 α のヘテロクロマチン領域への結合阻害. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 3) 齊藤洋平、中村嘉亜、並河智美、中川喬統、柿花采那、岡本育志郎、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: 核内低分子リボ核タンパク質 SNRPE による Hsp70 の発現亢進. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 4) 青山和正、久保田翔、幸 龍三郎、山口憲孝、森井真理子、阿部紘平、本田拓也、長谷川仁美、久保田将一、武田祐美、富岡貴久、久家貴寿、橋本裕希、朝長 毅、山口直人: 核内 c-Ab1 による核内 F-actin bundle 形成と HDAC を介したクロマチン構造変換. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 柿花采那、久家貴寿、齊藤洋平、中山祐治: 細胞分裂制御における Hsp105 ノックダウンの影響. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 本田拓也、中山祐治、添田修平、阿部紘平、森井真理子、山口千尋、久保田翔、青山和正、山口憲孝、山口直人: v-Src チロシンキナーゼ誘導発現による細胞周期進行異常. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 7) 福本泰典、九鬼和雅、森井真理子、三浦崇仁、本田拓也、石橋賢一、長谷川仁美、久保田翔、井出雄大、山口憲孝、中山祐治、山口直人: Src 型チロシンキナーゼによる ATM 依存的 DNA 損傷チェックポイントからのリカバリー促進. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 8) 三上大貴、齊藤洋平、久家貴寿、中山祐治: 塩化コバルトによる熱ショックタンパク質 Hsp105 の発現誘導. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.

- 9) 久家貴寿、朝長 毅、齊藤洋平、三上俊成、武田泰典、中山祐治: FAM83H 遺伝子変異に起因するエナメル質形成不全症の発症メカニズム解析. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 10) 多田円香、齊藤洋平、湯川明久、的崎雅史、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治: AG490 による熱ショックタンパク質 Hsp70 の発現抑制. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 11) 池内正剛、岩本絵里香、抱 恵子、本田拓也、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、山口直人、中山祐治: v-Src 発現による chromosome bridge 形成メカニズムの解明. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 12) 柿花采那、齊藤洋平、山根鉄平、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治: Hsp105 ノックダウンによる細胞分裂促進. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 13) 海堀祐一郎、山岸伸行、畑 信二、中島由利恵、久家貴寿、齊藤洋平、中山祐治: 小胞体分子シャペロン GRP78 による伸長ポリグルタミン鎖含有タンパク質の凝集抑制. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 14) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: アドリアマイシンによる熱ショックタンパク質 Hsp105 の核局在化. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 15) 三上大貴、齊藤洋平、柳澤匡寛、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: HSF-1 α による熱ショックタンパク質 Hsp105 の核局在. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 16) 大槻拓也、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: 新規細胞分裂制御機構の解明を目的とする熱ショックタンパク質 Hsp105 結合タンパク質の探索. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 17) 岡田美咲、岩本絵里香、久家貴寿、山岸伸行、齊藤洋平、中山祐治: 細胞分裂期におけるチロシンリン酸化シグナルの解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 18) 岩本絵里香、岡田美咲、大槻拓也、久家貴寿、齊藤洋平、山岸伸行、中山祐治: MEK 阻害剤 U0126 による染色体整列の異常. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 19) 抱 恵子、池内正剛、岩本絵里香、植 貴俊、本田拓也、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、山口直人、中山祐治: v-Src による多核細胞形成の経時的解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 20) 植 貴俊、三上大貴、久家貴寿、齊藤洋平、山岸伸行、中山祐治: Src 活性の異常亢進における細胞分裂異常. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 21) 本田拓也、中山祐治、添田修平、阿部紘平、森井真理子、山口千尋、久保田翔、青山和正、山口憲孝、山口直人: v-Src によるチロシンリン酸化で引き起こされる細胞周期進行異常. 第 87 回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.

- 22) 福本泰典、三浦崇仁、森井真理子、久保田翔、本田拓也、久保田将一、盛永敬郎、山口憲孝、中山祐治、山口直人: v-Src による Rad17-Rad9 相互作用の阻害と DNA 複製フォーク崩壊の誘導. 第 87 回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.
- 23) 柿花采那、齊藤洋平、山根鉄平、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治: Hsp105 による分裂期進行の調節. 第 87 回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.
- 24) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: 熱ショックタンパク質 Hsp105 のアドリアマイシンによる核局在化メカニズム. 第 37 回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.
- 25) 齊藤洋平、湯川明久、的崎雅史、三上大貴、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治: Nmi enhances the Hsp105 β -mediated Hsp70 expression through the Stat signaling pathway. 第 37 回日本分子生物学会年会 (横浜), 2014.11.
- 26) Takahisa Kuga, Youhei Saito, Nobuyuki Yamagishi, Takeshi Tomonaga, Yuji Nakayama: FAM83H regulates organization of the keratin cytoskeleton in colorectal cancer cells. The 2014 ASCB/IFCB Meeting (Philadelphia,USA), 2014.12.

その他

- 1) 中山祐治: 協力 (タスクフォース) 第 75 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ in 近畿) (滋賀), 2014.11.
- 2) 池内正剛、岩本絵里香、抱 恵子、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: v-Src 発現による DNA 損傷応答を介した chromosome bridge 形成. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
- 3) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: 抗がん剤による熱ショックタンパク質 Hsp105 α の核局在. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
- 4) 三上大貴、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治: 腫瘍組織における熱ショックタンパク質 Hsp105 の異常発現とその調節メカニズム. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 5) 柿花采那、齊藤洋平、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治: 熱ショックタンパク質 Hsp105 による細胞分裂制御. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.
- 6) 中山祐治: 評価者. 大阪薬科大学 OSCE (大阪), 2014.12.

論文

- 1) Hisayusu Yao, Yasuo Miura, Satoshi Yoshioka, Masako Miura, Yoshihiro Hayashi, Akihiro Tamura, Masaki Iwasa, Atsushi Sato, Terutoshi Hishita, Yayoi Higashi, Hitomi Kaneko, Eishi Ashihara, Tatsuo Ichinohe, Hideyo Hirai, and Taira Maekawa: Parathyroid hormone enhances hematopoietic expansion via upregulation of cadherin-11 in bone marrow mesenchymal stromal cells. *Stem Cells.*, **32**,2245-2255 (2014).
- 2) Junta Yamamichi, Tetsunori Ojima, Mie Iida, Kimiko Yurugi, Takeshi Imamura, Eishi Ashihara, Shinya Kimura, and Taira Maekawa: Surface chemical approach to single-step measurement of antibody in human serum using localized surface plasmon resonance biosensor on microtiter plate system. *Anal Bioanal Chem.*, **406**, 4527-4533 (2014).
- 3) Ryo Saito, Masayuki Kaneko, Yoshihisa Kitamura, Kazuyuki Takata, Koichi Kawada, Yasunobu Okuma, and Yasuyuki Nomura: Effects of Oxidative Stress on the Solubility of HRD1, a Ubiquitin Ligase Implicated in Alzheimer's Disease. *PLoS One* **9**(5): e94576 (2014).
- 4) Natsuka Tashiro, Kaneyasu Nishimura, Kanako Daido, Tomoe Oka, Mio Todo, Asami Toshikawa, Jun Tsushima, Kazuyuki Takata, Eishi Ashihara, Kanji Yoshimoto, Kiyokazu Agata, and Yoshihisa Kitamura: Pharmacological assessment of methamphetamine-induced behavioral hyperactivity mediated by dopaminergic transmission in planarian *Dugesia japonica*. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **449**,412-418 (2014).

総説

- 1) Wataru Fujii, Eishi Ashihara, and Yutaka Kawahito: Myeloid-derived suppressor cells in autoimmune diseases. *Inflammation and Regeneration*, **34**, 124-128 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 北村佳久、高田和幸、下濱 俊、芦原英司: パーキンソン病モデルマウスにおけるヒト由来幹細胞の神経保護用. 第13回日本再生医療学会総会 (京都), 2014.3.
- 2) 杜氏裕美子、高田和幸、河西翔平、高田哲也、北村佳久、芦原英司: アルツハイマー病の細胞治療法開発に向けた骨髄由来細胞の A β 貪食機能と内在性ミクログリアへの作用解析. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.

- 3) 戸田侑紀、高田和幸、中川由布子、川上光、藤岡周助、小林数也、服部恭尚、北村佳久、赤路健一、芦原英司: がん細胞へ効率的に取り込まれる神経膠芽腫由来エクソソームとその膜脂質組成. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 4) Wataru Fujii, Eishi Ashihara, Hidetake Nagahara, Yuji Kukida, Risa Ishigaki, Akiko Kasahara, Tomoya Sagawa, Takahiro Seno, Aihiro Yamamoto, Masataka Kohno, Ryo Oda, Daisaku Tokunaga, Toshikazu Kubo, and Yutaka Kawahito: Monocarboxylate transporter (MCT)-4, associated with the decrease of synovial fluid pH, is a novel therapeutic target of rheumatoid arthritis. Annual European Congress of Rheumatology 2014 (Paris, France), 2014. 6.
- 5) 戸田侑紀、高田和幸、中川由布子、川上光、藤岡周助、小林数也、服部恭尚、北村佳久、赤路健一、芦原英司: がん細胞選択的ドラッグデリバリー応用を目的としたエクソソームの脂質組成解析. 第 6 回日本 RNAi 研究会 (広島), 2014.8.
- 6) Yuki Toda, Kazuyuki Takata, Yuko Nakagawa, Hikaru Kawakami, Shusuke Fujioka, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, Yoshihisa Kitamura, Kenichi Akaji, and Eishi Ashihara: Cancer cell tropism of glioblastoma-derived exosomes regulated by their lipid components. FEBS EMBO 2014. (Paris, France), 2014. 8.
- 7) 山吉麻子、岸本祐典、田村理恵、村松千愛、小堀哲生、芦原英司、村上 章: フラグメント化抗体結合型核酸ドラッグの開発と機能評価. アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム 2014(東京), 2014.9.
- 8) Yuki Toda, Kazuyuki Takata, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji, and Eishi Ashihara: The unique lipid components of glioblastoma-derived exosomes for their effective incorporation into cancer cells. The 73rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. (Yokohama), 2014.9.
- 9) Donovan Low, Kazuyuki Takata, Shawn Lim, Paola Squarzoni, Sonia Garel, Jerry Chan, Tara Huber and Florent Ginhoux: Understanding the development of Microglia: Implications for new therapy of neurodegenerative diseases. A*STAR Scientific Conference 2014 (Singapore), 2014.9.
- 10) 戸田侑紀、高田和幸、中川由布子、川上光、藤岡周助、小林数也、服部恭尚、北村佳久、赤路健一、芦原英司: 由来がん細胞へホーミングする glioblastoma 由来エクソソームの解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 11) 河西翔平、高田和幸、黒田絵莉子、杉野友紀、北村佳久、芦原英司: アルツハイマー病の細胞治療法の開発を目指した、骨髄由来細胞、ミクログリアおよびマクロファージの定性・機能解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.

- 12) 若林亮介、高田和幸、中村誠宏、大矢博己、菅 倫子、川幡尚平、福田浩紀、赤路健一、松田久司、北村佳久、芦原英司: Wnt/ β -catenin 経路阻害化合物のスクリーニング系の構築. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 13) 高田哲也、高田和幸、北村佳久、芦原英司: 神経膠芽腫幹細胞におけるイオン輸送体や関連酵素の発現量解析. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 14) 高田哲也、高田和幸、北村佳久、芦原英司: 神経膠芽腫細胞を用いたがん幹細胞と非幹細胞性がん細胞におけるイオン輸送体関連分子の発現量比較. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム. (京都), 2014.11.
- 15) Wataru Fujii, Yutaka Kawahito, Kazuki Fujioka, Takahiro Senoo, Ryo Oda, and Eishi Ashihara: Monocarboxylate transporter 4 is associated with the acidification of synovial fluid and synovial fibroblast proliferation in rheumatoid arthritis. The 43th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. (Kyoto), 2014.12.

講演等

- 1) 藤井 渉、芦原英司、川人 豊: 自己免疫疾患における骨髄由来抑制細胞の機能解析. 第 24 回日本サイトメトリー学会学術集会 (大阪), 2014.6.
- 2) Kazuyuki Takata: Microglia as a therapeutic target for Alzheimer's disease. Monthly Neuroscience Seminar in Faculty of Medicine & Health Science, University Putra Malaysia (Serdang, Malaysia), 2014.10.

その他

- 1) 芦原英司、高田和幸、北村佳久: 脳アミロイドーシスの細胞治療法の開発を目指した骨髄由来ミクログリア様細胞の機能ならびに脳移行性の解析. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 アミロイドーシスに関する研究班 平成 25 年度研究報告会. (東京), 2014.1.
- 2) 北村佳久、高田和幸、芦原英司: 神経変性疾患時におけるニコチン受容体をターゲットとした創薬研究. 喫煙科学研究財団第 29 回平成 25 年度助成研究発表会. (東京), 2014.7.
- 3) 北村佳久、高田和幸、芦原英司: アルツハイマー病とミクログリア. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
- 4) 河西翔平、高田和幸、黒田絵莉子、杉野友紀、北村佳久、芦原英司: 骨髄由来細胞を利用したアルツハイマー病の細胞治療戦略の開発. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.

- 5) 黒田絵莉子、高田和幸、河西翔平、杉野友紀、北村佳久、芦原英司: 骨髄由来細胞を利用したアルツハイマー病の新規治療法の開発. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会. (京都), 2014.11.
- 6) 宇田紗央里、北村佳久、高田和幸、芦原英司: パーキンソン病モデルマウスの D2/D39 受容体アゴニスト投与によるドパミン神経保護作用の解析. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会. (京都), 2014.11.
- 7) 北村佳久: OSCE (評価者). 立命館大学 (京都), 2014.12.

論文

- 1) Dong Ju Son, Satoshi Akiba, Jin Tae Hong, Yeo Pyo Yun, Seock Yeon Hwang, Young Hyun Park, and Sung Eun Lee: Piperine inhibits the activities of platelet cytosolic phospholipase A₂ and thromboxane A₂ synthase without affecting cyclooxygenase-1 activity: different mechanisms of action are involved in the inhibition of platelet aggregation and macrophage inflammatory response. *Nutrients*, **6**, 3336-3352 (2014).
- 2) Keiichi Ishihara, Shiho Kanai, Haruhiko Sago, Kazuhiro Yamakawa, and Satoshi Akiba: Comparative proteomic profiling reveals aberrant cell proliferation in the brain of embryonic Ts1Cje, a mouse model of Down syndrome. *Neuroscience*, **281**, 1-15 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 伊藤悠樹、金井志帆、石原慶一、友尾敏幸、永平和広、林 靖浩、秋葉 聡：肝線維化進展および薬剤誘発性肝障害に対する新規経口 IVA 型 phospholipase A₂ 阻害剤の抑制効果。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 2) 金井志帆、西尾佳奈、石原慶一、厚味徹一、秋葉 聡：動脈硬化症において IVA 型ホスホリパーゼ A₂ は M2 マクロファージへの極性を制御する。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 3) 森田貴弘、石原慶一、金井志帆、秋葉 聡：薬剤性急性肝障害における IVA 型 phospholipase A₂ の関与。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 4) 古川琴詠、石原慶一、金井志帆、山川和弘、左合治彦、秋葉 聡：ダウン症モデルマウス胎児脳において変動する分子の検索。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 別府梨沙、石原慶一、Niall P. Murphy、金井志帆、山川和弘、左合治彦、秋葉 聡：ダウン症モデルマウス成体脳における神経伝達物質の代謝異常。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 金井志帆、倉井悠貴、古庄由佳、西川瑞稀、石原慶一、秋葉 聡：脂肪肝形成に対する経口性 IVA 型ホスホリパーゼ A₂ 阻害剤の抑制効果。第 61 回日本生化学会近畿支部例会 (京都), 2014.5.
- 7) 別府梨沙、石原慶一、谷口麻実、金井志帆、左合治彦、山川和弘、秋葉 聡：ダウン症モデルマウス胎児脳における抑制性ニューロン新生異常。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 8) 竹腰良輔、石原慶一、山本美帆、金井志帆、左合治彦、山川和弘、秋葉 聡：ダウン症モデルマウスの脳プロテオミクス解析による発現変動タンパク質の同定。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.

- 9) 清水涼平、山本美帆、金井志帆、左合治彦、山川和弘、秋葉 聡、石原慶一：ダウン症モデルマウスの胎児脳および成体海馬のトランスクリプトーム解析。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 10) 松岡秀明、大西健太、石原慶一、金井志帆、秋葉 聡：肝線維化誘発 IVA 型 Phospholipase A₂ 欠損マウスにおける脾臓肥大。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 11) 和田尚子、金井志帆、石原慶一、秋葉 聡：IVA 型 Phospholipase A₂ 欠損による薬剤誘発性肝障害の抑制。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 12) Shiho Kanai, Keiichi Ishihara, and Satoshi Akiba: Suppressive effects of group IVA phospholipase A₂-deficiency on the liver injury and hepatic fibrosis induced by oxidative stress in mice. The Liver Meeting 2014 (Boston, MA, USA), 2014.11.
- 13) Keiichi Ishihara, Shiho Kanai, Haruhiko Sago, Kazuhiro Yamakawa, and Satoshi Akiba: Comparative proteomic profiling reveals aberrant cell proliferation in the embryonic brain of Ts1Cje, a mouse model for Down syndrome. Neuroscience 2014 (Washington, D.C., USA), 2014.11.
- 14) 竹腰良輔、石原慶一、金井志帆、左合治彦、山川和弘、秋葉 聡：ダウン症モデルマウス脳のメタロミクス解析。2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.

講演等

- 1) 石原慶一：講演「オミクス解析を利用したダウン症マウスモデルの胎児および成体脳での病態関連分子の同定」第 5 回 KPU シンポジウム (京都), 2014.4.
- 2) 石原慶一：学部・学科説明会講義。滝川高等学校 (神戸), 2014.7.

その他

- 1) 秋葉 聡：参加。2013 年度第 3 回京都 FDer 塾。キャンパスプラザ京都 (京都), 2014.1.
- 2) 秋葉 聡：参加。第 19 回 FD フォーラム。龍谷大学 (京都), 2014.2.
- 3) 秋葉 聡：評価者。摂南大学薬学部 OSCE。摂南大学 (枚方), 2014.12.

論文

- 1) Kikuko Amagase, Nahoko Izumi, Yuka Takahira, Tomoko Wada, Koji Takeuchi. Importance of cyclooxygenase-1/prostacyclin in modulating gastric mucosal integrity under stress conditions. *J. Gastroenterol. Hepatol.* 29(S4), 3-10 (2014).
- 2) Kenjiro Matsumoto, Takuji Hosoya, Eriko Ishikawa, Kimihito Tashima, Kikuko Amagase, Shinichi Kato, Toshihiko Murayama and Syunji Horie : Distribution of transient receptor potential cation channel subfamily V member 1-expressing nerve fibers in mouse esophagus. *Histochem Cell Biol.*, **142**, 635-644 (2014).
- 3) Shusaku Hayashi, Naoto Kurata, Aya Yamaguchi, Kikuko Amagase, and Koji Takeuchi : Lubiprostone prevents nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small intestinal damage by suppressing the expression of inflammatory mediators via EP4 receptors. *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, **349**, 470-479 (2014).
- 4) Kikuko Amagase, Yuki Kimura, Akimitsu Wada, Tohru Yukishige, Toshiko Murakami, Eiji Nakamura and Koji Takeuchi : Prophylactic effect of monosodium glutamate on NSAID-induced enteropathy in rats. *Curr Pharm Des.*, **20**, 2783-2790 (2014).
- 5) Koji Takeuchi, Shinichi Takayama, Erika Hashimoto, Misaki Itayama, Kikuko Amagase, Chitose Izuhara. Effect of rebamipide on gastric bleeding and ulcerogenic responses induced by aspirin plus clopidogrel under stimulation of acid secretion in rats. *J. Gastroenterol. Hepatol.* 29(S4), 37-46 (2014).
- 6) Koji Takeuchi, Chitose Izuhara, Shinichi Takayama Takumi Momode, Masahiro Kojo, Daisuke Hara, and Kikuko Amagase: Animal models of gastric bleeding induced by dual antiplatelet therapy using aspirin and clopidogrel-Prophylactic effect of antiulcer drugs-. *Curr Pharm Des.*, **20**, 1139-1148 (2014).
- 7) Hiroshi Satoh, Kikuko Amagase, and Koji Takeuchi: Mucosal protective agents prevent exacerbation of NSAID-induced small intestinal lesions caused by antisecretory drugs in rats. *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, **348**, 227-235 (2014).
- 8) 天ヶ瀬紀久子、村上季子、今里彩乃、竹本春亮、田中里穂、加藤伸一、竹内孝治: ロキソプロフェン誘起小腸傷害に対するプロバイオティクス製剤の効果. *J. Pharmacol. Ther.*, **42**, 581-589 (2014).
- 9) Hiroyasu Sakai, Atsunobu Sagara, Kenjiro Matsumoto, Ara Jo, Akiko Hirosaki, Kazuhide Takase, Ryoto Sugiyama, Ken Sato, Daigo Ikegami, Syunji Horie, Motohiro Matoba, and Minoru Narita : Neutrophil recruitment is critical for 5-fluorouracil-induced diarrhea and the decrease in aquaporins in the colon. *Pharmacol. Res.*, **87**, 71-79 (2014).

- 10) Hiroko Ono, Atsushi Nakamura, Kenjiro Matsumoto, Syunji Horie, Gaku Sakaguchi, and Toshiyuki Kanemasa : Circular muscle contraction in the mice rectum plays a key role in morphine-induced constipation. *Neurogastroenterol. Motil.*, **26**, 1396-1407 (2014).
- 11) Takuji Hosoya, Kenjiro Matsumoto, Kimihito Tashima, Hiroyuki Nakamura, Hiromichi Fujino, Toshihiko Murayama, and Syunji Horie : TRPM8 has a key role in experimental colitis-induced visceral hyperalgesia in mice. *Neurogastroenterol. Motil.*, **26**, 1112-1121 (2014).

プロシーディングス

- 1) 天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、加藤伸一: NSAID 誘起小腸障害に対する乳酸菌プロバイオティクスの有用性. *潰瘍*, **41**, 66-70 (2014).

解説、報告書等

- 1) 天ヶ瀬紀久子: ビスフォスフォネート系薬剤と抗血栓薬の併用が胃粘膜に及ぼす影響. 骨粗鬆症をめぐる最新のトピックス 第 15 回日本骨粗鬆症学会, pp. 8 (2014).
- 2) 加藤伸一: 私の潰瘍学. 潰瘍学 -過去、現在、未来- 第 41 回日本潰瘍学会 記念誌, pp. 131-134 (2014).
- 3) 天ヶ瀬紀久子: 潰瘍学会と私. 潰瘍学 -過去、現在、未来- 第41回日本潰瘍学会 記念誌, pp. 135-137 (2014).
- 4) 竹内孝治、天ヶ瀬紀久子: 貧血治療時の鉄剤投与による胃粘膜傷害対策. *Pharma Medica* **32(suppl. 1)**, 65-68 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 大塚 凌、内海大知、横田 遙、柴田潤一郎、天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、加藤伸一: デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態における内因性セロトニンおよび 5-HT₃ 受容体の関与. 第 10 回日本消化管学会総会学術集会 (福島), 2014.2.
- 2) 上田伸幸、横田 遙、田中佑哉、岩田和実、天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、矢部千尋、加藤伸一: トリニトロベンゼンスルホン酸 (TNBS) 誘起大腸炎の病態における NADPH oxidase 1 (NOX1) の役割. 第 10 回日本消化管学会総会学術集会 (福島), 2014.2.
- 3) 堀 美沙緒、竹本春亮、今里彩乃、天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、加藤伸一: ロキソプロフェン誘起小

腸傷害に対する乳酸菌製剤の有用性. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.

- 4) 岸本悠希、長澤紅葉、柴田潤一郎、大塚 凌、林 周作、天ヶ瀬紀久子、門脇 真、加藤伸一: 5-フルオロウラシル(5-FU)誘起腸炎に対する紫苓湯の効果:小腸腺窩におけるアポトーシス誘導の抑制. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 天ヶ瀬紀久子、中村英志、加藤伸一、竹内孝治: グルタミン酸の消化管粘膜保護薬としての可能性. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 6) Koji Takeuchi, Kikuko Amagase, and Tomoya Hara: Effect of celecoxib, a COX-2 selective inhibitor, on duodenal HCO₃⁻ and ulcerogenic responses caused by mucosal acidification in rats. Experimental Biology 2014 (San Diego, USA), 2014.4.
- 7) Koji Takeuchi, Shusaku Hayashi, Kikuko Amagase and Naoto Kurata: Lubiprostone prevents NSAID-induced small intestinal damage via prostaglandin EP4 receptors. Experimental Biology 2014 (San Diego, USA), 2014.4.
- 8) Koji Takeuchi, and Kikuko Amagase: Etodolac, a racemic nonsteroidal anti-inflammatory drug, exhibits low gastrointestinal toxicity: relation to the effects of the enantiomers. Experimental Biology 2014 (San Diego, USA), 2014.4.
- 9) Kenjiro Matsumoto, Kimihito Tashima, Shinichi Kato and Syunji Horie: Role of transient receptor potential melastatin 2 (TRPM2) channels in visceral pain and hypersensitivity in rats. American Gastroenterological Association (Chicago, USA), 2014.5.
- 10) Koji Takeuchi, Kikuko Amagase, and Hiroshi Satoh: Effect of celecoxib, a selective cyclooxygenase-2 inhibitor, on acid- induced HCO₃⁻ and ulcerogenic responses in rat duodenum; a comparative study with conventional non- steroidal anti- inflammatory drugs. American Gastroenterological Association (Chicago, USA), 2014.5.
- 11) Kikuko Amagase, Toshiko Murakami, Riho Tanaka, Koji Takeuchi and Shinichi Kato: Probiotic preparation "BIOFERMIN POWDER" prevents NSAID-induced small intestinal lesions in rats. American Gastroenterological Association (Chicago, USA), 2014.5.
- 12) Ludmila Filaretova, Dora Zelena, Olga Morozova, Kikuko Amagase, Tatiana Bagaeva, and Koji Takeuchi: Enterobacterial invasion occurred in association with indomethacin-induced enteropathy may trigger adverse cardiovascular events with consequent survival impairment in rats. American Gastroenterological Association (Chicago, USA), 2014.5.
- 13) Haruka Yokota, Daichi Utsumi, Hiroyo Nakajima, Riho Tanaka, Mari Yamada, Yuya Tanaka, Kikuko Amagase and Shinichi Kato: NADPH Oxidase 1 (NOX1) expressed in colonic macrophages plays a crucial

role in trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)- induced colonic inflammation in mice. American Gastroenterological Association (Chicago, USA), 2014.5.

- 14) 松本健次郎、細谷拓司、田嶋公人、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一、堀江俊治: 炎症性腸疾患モデル動物の内臓痛覚過敏状態における TRPM8 チャンネルの機能. 第 10 回 TRP チャンネル研究会 (岡崎), 2014.6.
- 15) 内海大知、大橋将人、田中佑哉、小城正大、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態における内因性セロトニン/5-HT₃ 受容体の役割. 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山), 2014.6.
- 16) 長澤紅葉、岸本悠希、柴田潤一郎、大塚 凌、林 周作、天ヶ瀬紀久子、門脇 真、加藤伸一: 5-フルオロウラシル誘起腸炎に対する紫苓湯の効果: 小腸腺窩アポトーシス誘導の抑制. 第 125 回日本薬理学会近畿部会 (岡山), 2014.6.
- 17) 天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、加藤伸一: 薬剤起因性消化管傷害の発生と治癒に関する研究. 生体機能と創薬シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 18) 今井梓嗟、上田伸幸、横田 遥、岩田和実、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、矢部千尋、加藤伸一: トリニトロベンゼンスルホン酸(TNBS)誘起大腸炎の病態における NADPH oxidase1 (NOX1) の役割. 生体機能と創薬シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 19) 橋本和樹、田嶋公人、今井 拓、松本健次郎、堀江俊治: ワサビ辛味成分アリルイソチオシアネートを用いた薬効評価可能な胃運動減弱モデルマウスの確立. 生体機能と創薬シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 20) 辻可菜子、青野仁美、西 俊明、長澤紅葉、高月康成、林 周作、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、門脇 真、加藤伸一: 柴苓湯の 5-フルオロウラシルによる小腸腺窩のアポトーシス誘導阻害を介した腸炎抑制効果. 生体機能と創薬シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 21) 内海大知、諸頭温奈、山田麻里、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態におけるセロトニン/5-HT₃ 受容体およびサブスタンス P/NK1 受容体の関与. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 22) 青野仁美、長澤紅葉、高月康成、林 周作、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、門脇 真、加藤伸一: 5-フルオロウラシル誘起腸炎に対する柴苓湯(サイレイトウ)の効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.
- 23) 大橋将人、田中佑哉、島田祐規、河原彩子、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: DSS 誘起大腸炎に対する NK1 受容体拮抗薬の効果. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2014 (大阪), 2014.8.

- 24) 中島寛予、桑田紗弓、上田伸幸、今井梓嗟、横田 遥、岩田和実、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、矢部千尋、加藤伸一: トリニトロベンゼンスルホン酸誘起大腸炎の病態における NADPH oxidase 1 (NOX1)の役割. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 25) 西 俊明、辻可菜子、長澤紅葉、高月康成、林 周作、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、門脇 真、加藤伸一: 5-フルオロウラシル誘起腸炎に対する柴苓湯の効果-小腸腺窩におけるアポトーシス誘導阻害との関連. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 26) 播磨弘樹、富永 藍、今里彩乃、竹本春亮、田中里穂、村上季子、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: 非ステロイド性抗炎症薬誘起小腸傷害に対する乳酸菌製剤の保護効果. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 27) 内海大知、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態におけるセロトニン/5-HT₃ 受容体の関与. 第 42 回日本潰瘍学会 (東京), 2014.10.
- 28) 松本健次郎、田嶋公人、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一、堀江俊治: 大腸炎モデルラットの臓痛覚過敏状態における Transient Receptor Potential Melastatin 2 チャネルの関与. 第 42 回日本潰瘍学会 (東京), 2014.10.

その他

- 1) 松本健次郎: 炎症性腸疾患モデル動物における温度感受性受容体の臓痛への関与. 第 167 回京都消化器病研究会 (京都), 2014.2.
- 2) 加藤伸一: 抗がん剤起因性腸炎に対する大建中湯、柴苓湯および関連方剤の効果に関する研究. 和漢薬の科学基盤形成拠点平成 25 年度共同研究報告セミナー (富山), 2014.3.
- 3) 天ヶ瀬紀久子、泉本由加里、岡 美里、金沙由理、小田垣真衣、内海大知、松本健次郎、安井裕之、加藤伸一: ビスホスホネート系薬剤による消化管傷害における生体内微量金属とのキレート形成との関連. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 4) 宮脇 愛、小田垣真衣、天ヶ瀬紀久子、竹内孝治、加藤伸一: ビスホスホネート系薬剤の胃粘膜に及ぼす影響. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 5) 諸頭温奈、内海大知、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態における内因性セロトニン/5-HT₃ 受容体の関与. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.

- 6) 山羽里歩、中島潤一、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: 炎症性腸性疾患モデルマウスにおける温度感受性 TRPV4 チャンネルの病態への関与. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム(京都府立大学), (京都), 2014.12.

論文

- 1) Lisandra E. de Castro Brás, Hiroe Toba, Catalin F. Baicu, Michael R. Zile, Susan T. Weintraub, Merry L. Lindsey, and Amy D. Bradshaw: Age and SPARC change the extracellular matrix composition of the left ventricle. *Biomed. Res. Int.*, **2014**, Article ID 810562, 7 pages (2014).
- 2) Andriy Yabluchanskiy, Yonggang Ma, Ying Ann Chiao, Elizabeth F. Lopez, Andrew P. Voorhees, Hiroe Toba, Michael E. Hall, Hai-Chao Han, Merry L. Lindsey, and Yu-Fang Jin: Cardiac aging is initiated by matrix metalloproteinase-9-mediated endothelial dysfunction. *Am. J. Physiol. Heart. Circ. Physiol.*, **306**, H1398-H1407 (2014).
- 3) Yonggang Ma, Lisandra E. de Castro Brás, Hiroe Toba, Rugmani Padmanabhan Iyer, Michael E. Hall, Michael D. Winniford, Richard A. Lange, Suresh C. Tyagi, Merry L. Lindsey: Myofibroblasts and the extracellular matrix network in post-myocardial infarction cardiac remodeling. *Pflugers. Arch-Eur. J. Physiol.*, **466**, 1133-1127 (2014).

総説

- 1) Hiroe Toba, Dolores Cortez, Merry L. Lindsey, Robert J. Chilton: Applications of miRNA technology for atherosclerosis. *Curr. Atheroscler. Rep.*, **16**, 386 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) Makoto Ohigashi, Miyuki Kobara, Tamotsu Takahashi, Hiroe Toba, Takehiko Wada, and Tetsuo Nakata: Pitavastatin suppresses hyperglycemia-induced podocyte injury via bone morphogenetic protein-7 preservation. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (東京), 2014. 3.
- 2) Miyuki Kobara, Makoto Ohigashi, Hiroe Toba, and Tetsuo Nakata: Glucagon-like peptide 1 analogue mediates mitochondrial quality control factors and attenuates hypoxia-reoxygenation injury in cultured myocytes. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (東京), 2014. 3.
- 3) Hiroe Toba, L. E. de Castro Brás, S. T. Weintraub, Y-F. Jin, A. D. Bradshaw, and M. L. Lindsey: Age and SPARC dependent cardiac collagen changes. Experimental Biology 2014 (San Diego, USA), 2014. 4.

- 4) Miyuki Kobara, Akiko Furumori, Makoto Ohigashi, Hiroe Toba, and Tetsuo Nakata: Short-term caloric restriction mediates cardiac redox state and improves diastolic function in pressure overload hypertrophy. ESC Congress 2014 (Barcelona, Spain), 2014. 8.
- 5) 瀬尾文菜、片山ちさ、加藤麻里、野口智也、大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸、中田徹男: rebamipide は食塩負荷腎障害モデルラットにおいて腎保護効果を示す。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014. 10.
- 6) 前村真里奈、小原 幸、石神拓郎、大東 誠、鳥羽裕恵、中田徹男: 培養心筋細胞における虚血誘発性オートファジーに対する腫瘍壊死因子 α の影響。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014. 10.
- 7) 中森 愛、黒川智美、長谷部晃、大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸、中田徹男: 高尿酸血症モデルラットにおける臓器障害に関する検討。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都), 2014. 10.
- 8) 瀬尾文菜、加藤麻里、大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸、中田徹男: rebamipide は食塩負荷腎障害モデルラットにおいて腎保護作用を示す。第37回日本高血圧学会総会(横浜), 2014. 10.
- 9) 大鹿沙季、小原 幸、天野寿洋、大東 誠、中田徹男: 心筋虚血性不整脈に対するニコランジルの保護効果～心筋カテコラミン遊離に対する影響～。第126回日本薬理学会近畿部会(和歌山), 2014. 10.
- 10) Hiroe Toba, Lisandra E. de Castro Brás, Catalin F. Baicu, Michael R. Zile, Merry L. Lindsey, and Amy D. Bradshaw: SPARC deletion suppresses age-related cardiac inflammation. American Heart Association Scientific Sessions 2014 (Chicago, USA), 2014. 11.
- 11) 大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸、中田徹男: HMG-CoA還元酵素阻害薬 pitavastatin の podocyte 保護効果と BMP-7 の関与及びその機序について。第24回日本循環薬理学会(山形), 2014. 12.

講演等

- 1) 中田徹男: 講演「新しい高血圧治療指針について」。2014年度卒後教育講座(京都), 2014. 6.
- 2) 中田徹男: 講座「臨床薬理学」。(財)ルイ・パストゥール医学研究センター・バイオ・ソサエティ主催2014年度医学入門講座(京都), 2014. 8.
- 3) 中田徹男: 講演「高血圧の管理指針が変わりました」。第5回 Home Coming Day(京都), 2014. 11.

その他

- 1) 五代寛人、大林美香、小林誠也、橋本 大、大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸、中田徹男: DOCA-salt 高血圧モデルラットでは血圧上昇と腎障害の悪化とともに脳、腎における TGF- β 発現に影響を及ぼす. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 2.
- 2) 小原 幸: 模擬講義「心臓病とお魚」. 私立東山高等学校 (京都), 2014. 10.
- 3) 高 茂輝、泉麻衣子、小原 幸、前村真里奈、大東 誠、中田徹男: 虚血心における TNF α のオートファジーに対する影響. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.
- 4) 尾形俊介、小原 幸、古森暁子、大東 誠、中田徹男: 圧負荷心肥大モデルマウスに対する短期間カロリー制限の心不全および酸化障害抑制効果. 2014 年度京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014. 11.
- 5) 井上麻美、小原 幸、大東 誠、中田徹男: 心筋虚血性不整脈に対するニコランジルの保護効果～心筋カテコラミン遊離に対する影響～. 第4回 4大学連携研究フォーラム (京都), 2014. 12.
- 6) 中田徹男: 評価者. 同志社女子大学薬学部共用試験 OSCE (京都), 2014. 12.
- 7) 小原 幸: 評価者. 大阪薬科大学共用試験 OSCE (大阪), 2014. 12.

薬理学

論文

- 1) Sayo Matsuba, Satomi Niwa, Katsuhiko Muraki, Saki Kanatsuka, Yurika Nakazono, Noriyuki Hatano, Masanori Fujii, Peng Zhan, Takayoshi Suzuki, Susumu Ohya. Downregulation of Ca²⁺-activated Cl⁻ channel TMEM16A by the inhibition of histone deacetylase in TMEM16A- expressing cancer cells. *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, **351**, 510-518 (2014).
- 2) Susumu Ohya, Yuka Fukuyo, Hiroaki Kito, Rina Shibaoka, Miki Matsui, Hiroki Niguma, Yasuhiro Maeda, Hisao Yamamura, Masanori Fujii, Kazunori Kimura, Yuji Imaizumi. Upregulation of K_{Ca}3.1 K⁺ channel in mesenteric lymph node CD4⁺ T lymphocytes from a mouse model of dextran sodium sulfate-induced inflammatory bowel disease. *Am. J. Physiol. Gastrointest. Liver Physiol.*, **306**, G873-G885 (2014).
- 3) Hiroya Mizutani, Hisao Yamamura, Makoto Muramatsu, Keiko Kiyota, Kaori Nishimura, Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Yuji Imaizumi. Spontaneous and nicotine-induced Ca²⁺ oscillations mediated by Ca²⁺ influx in rat pinealocytes. *Am. J. Physiol. Cell Physiol.*, **306**, C1008-C1016 (2014).
- 4) Hiroaki Kito, Hisao Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Kiyofumi Asai, Yuji Imaizumi. Membrane hyperpolarization induced by endoplasmic reticulum stress facilitates Ca²⁺ influx to regulate cell cycle progression in brain capillary endothelial cells. *J. Pharmacol. Sci.*, **125**, 227-232 (2014).
- 5) Nobuaki Mizutani, Takeshi Nabe, and Shin Yoshino: IL-17A promotes the exacerbation of IL-33-induced airway hyperresponsiveness by enhancing neutrophilic inflammation via CXCR2 signaling in mice. *J. Immunol.*, **192**, 1372-1384 (2014).

総説

- 1) Susumu Ohya, Yuji Imaizumi. Intermediate-conductance Ca²⁺-activated K⁺ channel K_{Ca}3.1 and its related molecules in T-lymphocytes. *Inflamm. Cell Signal.*, **1**, e327 (2014).

解説、報告書等

- 1) 大矢 進: カリウムチャネル新規阻害機構の解明. 公益財団法人 上原記念生命科学財団 研究報告集. **28**, 105 (2014), 公益財団法人 上原記念生命科学財団, 2014.12.

学会発表等

学会発表

- 1) 丹羽里実、大矢 進: 前立腺肥大症の創薬標的としてのカルシウム活性化カリウムチャネル. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.2.
- 2) 松葉紗代、丹羽里実、波多野紀行、村木克彦、鈴木孝禎、藤井正徳、大矢 進: ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるカルシウム活性化クロライドチャネル発現・活性調節. 第2回創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.2.
- 3) 藤井正徳、島崎裕貴、多留木崇志、田中美奈子、林 和加子、三宅真太郎、奈邊 健、大矢 進: ヘアレスマウスにおける食餌誘発性皮膚バリア機能障害および掻痒様行動: アトピー性皮膚炎研究におけるユニークなツール. 第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.

- 4) 山村寿男、William C. Cole、喜多紗斗美、堀田真吾、村田秀道、鈴木良明、大矢 進、岩本隆宏、今泉祐治：膀胱平滑筋 $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換系の逆回転促進によって起こる過活動膀胱。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 5) 松木克仁、竹本将士、鈴木良明、大矢 進、竹島 浩、今泉祐治：マウス非妊娠・妊娠子宮平滑筋における細胞内 Ca^{2+} 制御機構機能解析。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 6) 栗田 卓、鈴木良明、山村寿男、大矢 進、今泉祐治：ヒト由来軟骨肉腫細胞株(OUMS-27)における Cl^- チャンネルの分子実体の解明。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 7) 鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢 進、浅井清文、今泉祐治：脳血管内皮細胞におけるCRACチャンネルを介した細胞周期制御機構の解明。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 8) 大城隼也、佐伯尚紀、山村寿男、鈴木良明、大矢 進、今泉祐治：マウス門脈において機能発現するTMEM16Aスプライスバリエント体の特性。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 9) 鈴木良明、大矢 進、山村寿男、今泉祐治：新規 $\text{BK}\alpha$ スプライスバリエント体によるBKチャンネル機能修飾機構の解析。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 10) 大羽輝弥、澤田英士、鈴木良明、山村寿男、大矢 進、今泉祐治：蛍光ビーズを用いた気道クリアランス評価系の開発。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 11) 服部美波、丸山史登、鈴木良明、山村寿男、大矢 進、今泉祐治：腎血管性高血圧モデルマウスにおける腸間膜動脈の血管張力に対する内向き整流性 K^+ チャンネル (Kir2.1) の関与。第 87 回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 12) Regis Azizieh、大野晃稔、大矢 進、鈴木良明、山村寿男、今泉祐治：男性ホルモンによる大コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャンネル発現制御機構。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 13) 西口愛弓、滝口杏奈、喜田遥香、若森裕生、矢野智大、水谷暢明、吉野 伸、大矢 進、奈邊 健：単回および反復の抗原惹起によるマウス喘息肺からのインターロイキン-33産生、ならびにこれらに及ぼすデキサメサゾンの影響。第87回日本薬理学会年会 (仙台), 2014.3.
- 14) 奈邊 健：花粉症治療薬の創薬ターゲットとしてのキマーゼの可能性。日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 15) 山村寿男、William C. Cole、喜多紗斗美、堀田真吾、村田秀道、鈴木良明、大矢 進、岩本隆宏、今泉祐治： $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換体の逆回転亢進によって生じる過活動膀胱。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 16) 黒川なつ美、遠藤京子、石井瑞紀、中倉佐和、藤井正徳、奈邊 健、大矢 進：選択的スプライシングによる酸感受性カリウムチャンネルTASK2活性制御。日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 17) 松葉紗代、丹羽里実、四辻健人、藤井正徳、波多野紀行、村木克彦、鈴木孝禎、大矢 進：ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるカルシウム活性化クロライドチャンネル TMEM16A 転写・活性の抑制。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 18) 鈴木良明、山村 寿男、大矢 進、今泉祐治： $\text{BK}_{\text{Ca}}\text{-Ca}_v1.2$ 複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオラの寄与。日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 19) 鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢 進、浅井清文、今泉祐治：脳血管内皮細胞の細胞周期進行に対する CRAC チャンネルの役割。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.

- 20) 柴岡里奈、松井未来、福与由香、仁熊宏樹、藤井正徳、山村寿男、今泉祐治、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウス腸間膜リンパ節CD4⁺陽性リンパ球のカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}3.1活性化機構における機能制御分子の役割. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 21) 石井瑞紀、中倉佐和、松葉紗代、藤井正徳、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスの脾臓CD4陽性リンパ球におけるtwo-pore型カリウムチャネルTASK2(K_{2p}5.1)のup-regulation. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 22) 松田将也、藤飯慎也、貴島真貴、黒田郁江、棚橋 優、大矢 進、水谷暢明、吉野伸、奈邊 健：アトピー疾患の制御を指向したIL-10産生性Tr1細胞のin vitro誘導に関する研究. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 23) 鬼頭宏彰、山村寿男、鈴木良明、大矢 進、浅井清文、今泉祐治：ストレス負荷脳血管内皮細胞におけるKir2.1チャネルを介した細胞死制御機構の解明. 第125回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2014.6.
- 24) 藤井正徳、浅野絵里香、大神彩佳、奈邊 健、大矢 進：アトピー性皮膚炎モデルマウスにおけるアロプレグナロン投与による掻痒様行動の増強. 第125回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2014.6.
- 25) 棚橋 優、松田将也、黒田郁江、藤飯慎也、貴島真貴、水谷暢明、吉野 伸、大矢 進、奈邊 健：アトピー疾患の治療を指向したTr1細胞による新規免疫療法の基礎的検討. 第125回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2014.6.
- 26) 仁熊宏樹、柴岡里奈、松井未来、丹羽里実、藤井正徳、奈邊 健、今泉祐治、大矢 進：炎症性腸疾患モデルのCD4陽性リンパ球におけるCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1活性化因子NDPK-B発現亢進とNDPK-B阻害剤エラグ酸による炎症改善効果. 第125回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2014.6.
- 27) 中倉佐和、石井瑞紀、佐藤 綾、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスのCD4陽性リンパ球におけるtwo-pore型カリウムチャネルTASK2(K_{2p}5.1)の発現・機能亢進. 第125回日本薬理学会近畿部会(岡山), 2014.6.
- 28) Hiroaki Kito, Hisao Yamamura, Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Kiyofumi Asai, Yuji Imaizumi. Contribution of Orai2 to store-operated Ca²⁺ entry and the cell cycle progression in bovine brain capillary endothelial cells. 17th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology (WCP2014) (Cape Town, South Africa), 2014.7.
- 29) Yoshiaki Suzuki, Susumu Ohya, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi. A novel BK splice variant modulates BK channel expression on plasma membrane. 17th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology (WCP2014) (Cape Town, South Africa), 2014.7.
- 30) Yuji Imaizumi, Munenori Inayama, Yoshiaki Suzuki, Taku Kurita, Susumu Ohya, Wayne R. Giles, Hisao Yamamura. Orai1-Orai2-STIM1 complex induces store-operated calcium entry in chondrocytes. 17th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology (WCP2014) (Cape Town, South Africa), 2014.7.
- 31) 松本芳樹、藤井正徳、松井利江子、山田由芽香、奈邊 健、大矢 進：HR-1系ヘアレスマウスにおける皮膚中肥満細胞の増加要因. 生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪), 2014.8.
- 32) 松井未来、仁熊宏樹、柴岡里奈、村岸沙也加、村瀬実希、藤井正徳、奈邊 健、今泉祐治、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスの腸間膜リンパ節CD4陽性T細胞におけるCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1活性化因子NDPK-Bリン酸化酵素の役割. 生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪), 2014.8.
- 33) 松葉紗代、金塚早希、中園裕利華、丹羽里実、村木克彦、波多野紀行、藤井正徳、鈴木孝禎、大矢 進：ヒト乳がん細胞株におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるCa²⁺活性化Cl⁻チャネルTMEM16A発現・活性抑制. 生体機能と創薬シンポジウム2014(大阪), 2014.8.

- 34) 金塚早希、中園裕利華、松葉紗代、丹羽里実、藤井正徳、鈴木孝禎、大矢 進：ヒト乳がん細胞株におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるCa²⁺活性化K⁺チャンネルK_{Ca}3.1発現・活性制御。次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 (大阪), 2014.8.
- 35) 浅野絵里香、藤井正徳、大神彩佳、奈邊 健、大矢 進：アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたアロプレグナロン投与による掻痒様行動におけるGABA_A受容体の関与。次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 (大阪), 2014.8.
- 36) 中倉佐和、石井瑞紀、佐藤 綾、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスのCD4陽性T細胞におけるtwo-pore型 K⁺チャンネルTASK2の役割。次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 (大阪), 2014.8.
- 37) 松田将也、黒田郁江、棚橋 優、大矢 進、奈邊 健：アトピー疾患の免疫療法に利用可能な誘導型制御性T細胞 (Tr1細胞) の抗原特異的IL-10産生。次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 (大阪), 2014.8.
- 38) 鈴木良明、大矢 進、山村寿男、今泉祐治：BK_{Ca}-Cav1.2複合体形成及び血管平滑筋細胞機能に対するカベオリン1 /カベオラの寄与。心血管膜輸送研究会 2014 「心血管膜輸送分子の構造・機能・病態の統合的研究戦略」(愛知), 2014.9.
- 39) 奈邊 健、西口愛弓、矢野智大、湯浅梨乃、木戸仁美、喜田遥香、滝口杏奈、若森裕生、大矢 進、水谷暢明、吉野 伸：気管支喘息における肺でのインターロイキン (IL) -33産生細胞の解析。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 40) 佐藤 綾、中倉佐和、石井瑞紀、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスの脾臓由来CD4陽性T細胞におけるアルカリpH活性化K⁺チャンネルTASK2の役割。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 41) 村岸沙也加、村瀬実希、松井未来、仁熊宏樹、柴岡里奈、奈邊 健、今泉祐治、大矢 進：炎症性腸疾患モデルマウスTリンパ球におけるCa²⁺活性化K⁺チャンネルK_{Ca}3.1活性化因子nucleoside diphosphate kinase-B (NDPK-B) の役割。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 42) 中園裕利華、松葉紗代、金塚早希、丹羽里実、村木克彦、波多野紀行、藤井正徳、鈴木孝禎、大矢 進：HDAC阻害によるCa²⁺活性化Cl⁻チャンネル転写抑制と抗がん作用。第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 43) 大矢 進、松葉紗代、丹羽里実、村木克彦、金塚早希、中園裕利華、波多野紀行、藤井正徳、Peng Zhan、鈴木孝禎：ヒストン脱アセチル化酵素阻害によるがん細胞カルシウム活性化クロライドチャンネルTMEM16Aの発現抑制。第87回日本生化学会大会 (京都), 2014.10.
- 44) Masanori Fujii, Erika Asano, Sayaka Ohgami, Takeshi Nabe, Susumu Ohya. Possible involvement of the neurosteroid allopregnanolone in itch in atopic dermatitis mouse model. 24th International Symposium of Itch (Tokyo), 2014.10.
- 45) 栗田 卓、鈴木良明、山村寿男、大矢 進、今泉祐治、Wayne Giles：ヒト由来軟骨肉腫細胞株(OUMS-27)におけるCLC7機能解析。第126回日本薬理学会近畿部会 (和歌山), 2014.10.
- 46) 松葉紗代、金塚早希、中園裕利華、丹羽里美、藤井正徳、鈴木孝禎、大矢 進：ヒト乳がん細胞株におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害によるCa²⁺活性化Cl⁻チャンネルTMEM16A発現調節機構。第126回日本薬理学会近畿部会 (和歌山), 2014.10.

- 47) 藤井正徳、浅野絵里香、大神彩佳、奈邊 健、大矢 進：アトピー性皮膚炎モデルマウスのバルビツール酸系薬剤による搔痒行動の増強におけるGABAA受容体とL型電位依存性カルシウムチャネルの関与. 第126回日本薬理学会近畿部会 (和歌山), 2014.10.
- 48) 大矢 進：炎症性腸疾患の創薬標的としてのカリウムチャネル. 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
- 49) 遠藤京子、黒川なつみ、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：pH感受性 K⁺チャネル TASK-2 の選択的スプライシング体の分子同定と機能解析. 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.11.
- 50) 藤井正徳、松尾未希、石原慶一、安井裕之、大矢 進：アトピー性皮膚炎モデルマウス皮膚のメタロキクス解析.私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 51) 中倉佐和、佐藤 綾、石井瑞紀、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：炎症性腸疾患モデル由来 CD4陽性 T細胞における two-pore 型 K⁺チャネル TASK-2 の発現・活性亢進. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 52) Sayo Matsuba, Satomi Niwa, Saki Kanatsuka, Yurika Nakazono, Katsuhiko Muraki, Noriyuki Hatano, Masanori Fujii, Peng Zhan, Takayoshi Suzuki, Susumu Ohya. Down-regulation of Ca²⁺-activated Cl channel TMEM16A by the inhibition of histone deacetylase in TMEM16A-expressing breast cancer cells. The 45th NIPS International Symposium (Aichi), 2014.11.
- 53) Kyoko Endo, Natsumi Kurokawa, Sawa Nakakura, Mizuki Ishii, Masanori Fujii, Susumu Ohya. Role of the dominant-negative splice variant of pH-sensitive, two-pore domain K⁺ channel K_{2p}5.1. The 45th NIPS International Symposium (Aichi), 2014.11.
- 54) Yoshiaki Suzuki, Munenori Inayama, Satoshi Yamada, Takashi Kurita, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Wayne R. Giles, Yuji Imaizumi. Orai1-Orai2 complex is involved in store-operated calcium entry in chondrocyte cell lines. The 45th NIPS International Symposium (Aichi), 2014.11.
- 55) 黒川なつ美、遠藤京子、中倉佐和、佐藤 綾、石井瑞紀、鬼頭宏彰、丹羽里実、藤井正徳、大矢 進：Two-pore 型 K⁺チャネル TASK2 の選択的スプライシング体のドミナントネガティブ効果. 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.
- 56) Masanori Fujii, Fumiko Endo-Okuno, Asuka Iwai, Keisuke Doi, Yoshiki Matsumoto, Reiko Matsui, Yumeka Yamada, Naoki Inagaki, Takeshi Nabe, Susumu Ohya. The role of the hairless (*hr*) gene in the development of atopic dermatitis-like pruritus caused by feeding a special diet to mice. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (Osaka), 2014.12.

その他

- 1) 大矢 進：タスクフォース、「第 75 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿」(滋賀), 2014.11.

論文

- 1) Hideaki Iwaki, Susumu Kageyama, Tatsuhiko Yoshiki. Upregulation of tissue and urinary uroplakin mRNA in patients with vesicoureteral reflux. *Int. J. Urol.*, 21 : 347-350, 2014.
- 2) Hiroyuki Koike, Rie Ouchi, Yasuharu Ueno, Susumu Nakata, Yuta Obana, Keisuke Sekine, Yun-Wen Zheng, Takanori Takebe, Kyoichi Isono, Haruhiko Koseki, Hideki Taniguchi. Polycomb Group Protein Ezh2 Regulates Hepatic Progenitor Cell Proliferation and Differentiation in Murine Embryonic Liver. *PLoS One*, 9 : e104776-1-13, 2014.
- 3) Susumu Nakata, Harunari Tanaka, Yuichi Ito, Masayasu Hara, Mitsugu Fujita, Eisaku Kondo, Yukihide Kanemitsu, Yasushi Yatabe, Hayao Nakanishi. Deficient HER3 expression in poorly-differentiated colorectal cancer cells enhances gefitinib sensitivity. *Int. J. Oncol.*, 45 : 1583-1593, 2014.
- 4) Hiroyuki Koike, Yasuharu Ueno, Takako Naito, Tomoya Shiina, Susumu Nakata, Rie Ouchi, Yuta Obana, Keisuke Sekine, Yun-Wen Zheng, Takanori Takebe, Kyo-ichi Isono, Haruhiko Koseki, Hideki Taniguchi. Ring1B Promotes Hepatic Stem/Progenitor Cell Expansion Through Simultaneous Suppression of Cdkn1a and Cdkn2a in Mice. *Hepatology*, 60: 323–333, 2014.
- 5) I. Made Winarsa Ruma, Endy Widya Putranto, Eisaku Kondo, Risayo Watanabe, Ken Saito, Yusuke Inoue, Ken-Ichi Yamamoto, Susumu Nakata, Masaji Kaihata, Hitoshi Murata, Masakiyo Sakaguchi. Extract of *Cordyceps militaris* inhibits angiogenesis and suppresses tumor growth of human malignant melanoma cells. *Int. J. Oncol.*, 45:209-218, 2014.

総説

- 1) Susumu Nakata, Emma Phillips, Violaine Goidts. Emerging role for leucine-rich repeat-containing G-protein-coupled receptors LGR5 and LGR4 in cancer stem cells. *Cancer Management and Research*, 6 : 171-180, 2014.

学会発表等

学会発表

- 1) 塚本めぐみ, 佐竹一紘, 田島靖浩, 中田晋, 石川智久, 中川 大: ヒト ABCG2 が細胞に賦与するタキサン系抗がん剤耐性は、ABCG2 遺伝子上に存在する非同義一塩基多型によって異なる. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.

- 2) 松村健吾, 大谷祐基, 大村友博, 米澤淳, 津田真弘, 吉貴達寛, 松原和夫 : LC/QTOF-MS による G-CSF バイオ後続品の定性分析. 第 24 回日本医療薬学会年会 (名古屋) 2014. 9.
- 3) 松村健吾, 飯居宏美, 花田英紀, 影山進, 吉貴達寛: Down-regulation of C7orf24 repressed cancer cell growth and revealed synergistic effects with anti-cancer drugs. 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜) 2014. 9.
- 4) 飯居宏美, 上西潤一, 吉貴達寛: Novel aromatic aldehyde *N,N'*-bisamide compounds induce apoptosis. 第 73 回日本癌学会学術総会 (横浜) 2014. 9.
- 5) 中田晋, 伊藤友一, 金光幸秀, 近藤英作, 中西速夫: 低分化型大腸癌細胞の HER3 低発現は gefitinib 感受性に影響を与える. 第 73 回 日本癌学会学術総会 (横浜), 2014. 9.
- 6) 古橋惟乃, 飯居宏美, 吉貴達寛 : ELISA 法を用いた各種がん細胞株での Calreticulin 発現量の比較. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都) 2014. 10.
- 7) 山内菜多理, 石野良, 飯居宏美, 吉貴達寛 : ELISA 法を用いた各種がん細胞株での Mac-2 binding protein 発現量の比較. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都) 2014. 10.
- 8) 谷口恵香, 佐々木豊, 吉矢拓, 西内祐二, 日高興士, 津田裕子, 川崎敬太, 上西潤一, 飯居宏美, 吉貴達寛: γ - Glutamylcyclotransferase (C7orf24)を標的とした新規抗がん剤の開発. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都) 2014. 10.
- 9) 松村健吾, 飯居宏美, 吉貴達寛 : 正常細胞とがん細胞における C7orf24 発現量の比較および C7orf24 ノックダウン細胞における細胞増殖抑制. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都) 2014. 10.
- 10) 飯居宏美, 狩野智, 花田英紀, 影山進, 吉貴達寛 : C7orf24 阻害による新規細胞死機構の検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都) 2014. 10.
- 11) 飯居宏美, 古橋惟乃, 羽田捷悟, 田村有加, 平野祐和, 上西潤一, 吉貴達寛 : 新規 *N,N'* -bisamide 化合物が誘起するアポトーシス経路. 2014 年度創薬科学フロンティア学内シンポジウム (京都), 2014.11.

その他

- 1) 飯居宏美 : OSCE 外部評価者. 京都大学 (京都) 2014.1.
- 2) 吉貴達寛 : OSCE 外部評価者. 同志社女子大学 (京都) 2014.12.

薬剤学

著 書

- 1) 山本 昌: 第 8 章 ペプチド、タンパク、抗体製剤の評価 8.1 ペプチド・タンパク性医薬品の吸収性および安定性の評価. *薬剤学実験法必携マニュアル—Pharmaceutical Scientist のために—II*, 日本薬剤学会出版委員会編, pp. 280-292, 南江堂 (2014).
- 2) 勝見英正、山本 昌: 第 2 章 2 マイクロニードルを用いたペプチド・タンパク性医薬品の次世代型経皮吸収製剤の開発. *次世代ペプチド医薬創製*, 赤路健一編, pp. 73-79, メディカルドゥ (2014).
- 3) 勝見英正、山本 昌: 第 1 章 第 3 節 マイクロニードルと製剤開発 [1] 溶解型マイクロニードルを用いた難吸収性薬物の経皮吸収改善. *注射剤・経口製剤に代わる新しい薬剤投与デバイスの開発*, pp. 37-40, 技術情報協会 (2014).

論 文

- 1) Shu Liu, Mei-na Jin, Ying-shu Quan, Fumio Kamiyama, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Transdermal delivery of relatively high molecular weight drugs using novel self-dissolving microneedle arrays fabricated from hyaluronic acid and their characteristics and safety after application to the skin. *Eur. J. Pharm. Biopharm.*, **86**, 267-276 (2014).
- 2) Hidemasa Katsumi, Makiya Nishikawa, Kazushi Nishiyama, Rikiya Hirosaki, Narumi Nagamine, Haruka Okamoto, Hironori Mizuguchi, Kosuke Kusamori, Hiroyuki Yasui, Fumiyoshi Yamashita, Mitsuru Hashida, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Development of PEGylated serum albumin with multiple reduced thiols as a long-circulating scavenger of reactive oxygen species for the treatment of fulminant hepatic failure in mice. *Free Radic. Biol. Med.*, **69**, 318-323 (2014).
- 3) Hidemasa Katsumi, Kentaro Fukui, Kanako Sato, Shoko Maruyama, Shugo Yamashita, Erika Mizumoto, Kosuke Kusamori, Munetaka Oyama, Masataka Sano, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Pharmacokinetics and preventive effects of platinum nanoparticles as reactive oxygen species scavengers on hepatic ischemia/reperfusion injury in mice. *Metallomics*, **6**, 1050-1056 (2014).
- 4) Dan Wu, Yutaro Tanaka, Yong-ri Jin, Kunio Yoneto, Tammam Alama, Ying-shu Quan, Fumio Kamiyama, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Development of a novel transdermal patch containing sumatriptan succinate for the treatment of migraine: *in vitro* and *in vivo* characterization. *J. Drug Del. Sci. Technol.*, **24**, 695-701 (2014).

- 5) Kosuke Kusamori, Makiya Nishikawa, Narumi Mizuno, Tomoko Nishikawa, Akira Masuzawa, Kazunori Shimizu, Satoshi Konishi, Yuki Takahashi, Yoshinobu Takakura. Transplantation of insulin-secreting multicellular spheroids for the treatment of type 1 diabetes in mice. *J. Control. Release*, **173**, 119-124 (2014).
- 6) Heidie L. Frisco-Cabanos, Mizuki Watanabe, Naoki Okumura, Kosuke Kusamori, Naohiro Takemoto, Junichiro Takaya, Shin-ichi Sato, Sayumi Yamazoe, Yoshinobu Takakura, Shigeru Kinoshita, Makiya Nishikawa, Noriko Koizumi, Motonari Uesugi. Synthetic molecules that protect cells from anoikis and their use in cell transplantation. *Angew. Chem. Int. Ed.*, **53**, 11208-11213 (2014).
- 7) Hailong Zhang, Jie Mi, Yayu Huo, Xiaoyan Huang, Jianfeng Xing, Akira Yamamoto, Yang Gao. Absorption enhancing effects of chitosan oligomers on the intestinal absorption of low molecular weight heparin in rats. *Int. J. Pharm.*, **466**, 156-162 (2014).

総 説

- 1) 山本 昌: ペプチド・タンパク性医薬品の経粘膜透過促進. *薬剂学*, **74**, 19-26 (2014).
- 2) 山本 昌: 新規経口及び経粘膜投与 drug delivery systems (DDS) 製剤の開発. *薬学雑誌*, **134**, 45-46 (2014).
- 3) 山本 昌、勝見英正、草森浩輔、坂根稔康. 難吸収性薬物の消化管吸収性に及ぼす各種ショ糖脂肪酸エステルの影響. *薬学雑誌*, **134**, 47-53 (2014).
- 4) 勝見英正、権 英淑、神山文男、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌. マイクロニードルを用いたペプチド・タンパク性医薬品の次世代型経皮吸収製剤の開発. *薬学雑誌*, **134**, 63-67 (2014).
- 5) 勝見英正: 親水性パッチ及びマイクロニードルを用いた骨粗鬆症治療薬アレンドロネートの新規経皮吸収製剤の開発. *薬学雑誌*, **134**, 427-431 (2014).

プロシーディングス

- 1) Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Shu Liu, Yutaro Tanaka, Kaori Hitomi, Rie Hayashi, Yuka Hirai, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Development of a novel self-dissolving microneedle array of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress, Abstracts, WE-19-03 (2014).

- 2) Shunsuke Kimura, Sachika Kasatani, Megumi Tanaka, Kaeko Araki, Masakazu Enomura, Kei Moriyama, Tomoyuki Furubayashi, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Absorption and transepithelial transport of poorly soluble drugs: the dispersion of the solid particle and dissolved drugs. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress, Abstracts, PD-101 (2014).
- 3) Tomotaka Shingaki, Yumiko Katayama, Takashi Okauchi, Emi Hayashinaka, Yasuhiro Wada, Tomoyuki Furubayashi, Yilong Cui, Toshiyasu Sakane, Yasuyoshi Watanabe. The analysis on nasal drug absorption using positron emission tomography: the pharmacokinetic investigation and the possibility of the direct drug transport to the brain. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress, Abstract, TU-28-05 (2014).
- 4) Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, Ken-ichi Ogawara, Toshihiro Kimura, Kazutaka Higaki, Hidemasa Katumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto, Toshiro Niwa. Development of a new pharmacokinetic model incorporating nasal physiologic function to predict nasal drug absorption. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress, Abstract, WE-21-06 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 勝見英正、山本 昌：優れた活性酸素種消去能を有するプラチナナノ粒子を用いた酸化ストレス疾患治療戦略。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 2) 中矢有華、高屋麻由、日夏優太、勝山麻美、加藤夢可、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：難吸収性薬物の消化管吸収性に及ぼす *N*-アシルアミノ酸塩の影響ならびにその吸収促進機構の解析。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 3) 濱名 温志、勝見英正、中島千鶴、権 英淑、神山文男、山田圭吾、角田俊一郎、岸 和正、橋羽克典、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌：先端部搭載型マイクロニードルを用いたインターフェロンの次世代型経皮吸収剤の開発。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 4) 木村峻輔、田中愛美、笠谷早千巴、佐々木寛朗、森山 圭、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：薬物の細胞層透過性に対する分子の分散状態の重要性。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 笠谷早千巴、木村峻輔、田中愛美、荒木加永子、榎村眞一、森山 圭、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：難溶解性薬物の吸収性改善：薬物分子の分散状態との関係。日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.

- 6) Tomotaka Shingaki, Yumiko Katayama, Takashi Okauchi, Emi Hayashinaka, Yasuhiro Wada, Tomoyuki Furubayashi, Yilong Cui, Toshiyasu Sakane, Yasuyoshi Watanabe. The analysis on nasal drug absorption using positron emission tomography: the pharmacokinetic investigation and the possibility of the direct drug transport to the brain. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia), 2014.4.
- 7) Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, Ken-ichi Ogawara, Toshihiro Kimura, Kazutaka Higaki, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto, Toshiro Niwa. Development of a new pharmacokinetic model incorporating nasal physiologic function to predict nasal drug absorption. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia), 2014.4.
- 8) Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Shu Liu, Yutaro Tanaka, Kaori Hitomi, Rie Hayashi, Yuka Hirai, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Development of a novel self-dissolving microneedle array of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia), 2014.4.
- 9) Shunsuke Kimura, Sachika Kasatani, Megumi Tanaka, Kaeko Araki, Masakazu Enomura, Kei Moriyama, Tomoyuki Furubayashi, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto. Absorption and transepithelial transport of poorly soluble drugs: the dispersion of the solid particle and dissolved drugs. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (Melbourne, Australia), 2014.4.
- 10) Alama Tammam、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Absorption enhancing effects and mechanisms of Gemini surfactant on the intestinal absorption of poorly absorbable drugs in rats. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 11) 柏川紗希、草森浩輔、勝見英正、神山文男、権 英淑、坂根稔康、山本 昌: 鉄欠乏性貧血治療を目的とした鉄含有新規経皮吸収剤の創製. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 12) 堀川隆文、岩貞有紀、高崎寛子、吉田健吾、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Caco-2 細胞におけるインスリンの細胞膜透過機構に関する研究. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 13) 中矢有華、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: *N*-アシルアミノ酸塩および *N*-アシルタウリン塩による骨粗鬆症治療薬 alendronate の消化管吸収性の改善. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 14) 中島なぎさ、名城有理、羽岡秀幸、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 難吸収性薬物の消化管吸収性に及ぼす各種 *N*-アシルタウリン塩の影響. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.

- 15) 井上大輔、古林呂之、大河原賢一、木村聰城郎、檜垣和孝、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌、丹羽俊朗: 生理的機能を考慮した新規経鼻吸収予測システムを用いた経鼻吸収性評価. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 16) 山本 昌、上原左知代、中島なぎさ、名城有理、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康: 各種シクロデキストリンによる難吸収性薬物の消化管吸収改善とその吸収促進機構の解析. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 17) 趙 婉廷、山本 昌、坂根稔康、勝見英正、草森浩輔: 各種ポリオキシエチレンアルキルエーテルを用いた P-糖タンパク質の基礎となる薬物の消化管吸収性の改善. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 18) サングアングアン和子、山本 昌、坂根稔康、勝見英正、草森浩輔: ビタミン C の経皮吸収性に及ぼす各種吸収促進剤の影響. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 19) 北岡 侑、住田基樹、安井裕之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: リチウムの体内動態と消化管吸収特性. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 20) 古林呂之、井上大輔、正子裕太、遠藤友里、新垣友隆、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌、丹羽俊朗: 経鼻ルートを紹介した各種モデル薬物の頸部リンパ節移行性の比較. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 21) 田中悠太郎、水野成美、水上優哉、西川元也、西川智子、草森浩輔、清水一憲、小西 聡、高橋有己、高倉喜信: 混合細胞スフェロイドを用いた糖尿病治療効果の増強. 日本薬剤学会第 29 年会 (大宮), 2014.5.
- 22) 西川智子、西川元也、草森浩輔、水野成美、清水一憲、小西 聡、高橋有己、高倉喜信: 肝細胞スフェロイドのサイズ制御による細胞機能の最適化. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 23) 中島なぎさ、名城有理、羽岡秀幸、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 難吸収性薬物の消化管吸収性に及ぼす各種 N-アシルタウリン塩の影響. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 24) 名城有理、中島なぎさ、羽岡秀幸、草森浩輔、勝見英正: N-アシルタウリン塩の消化管吸収促進機構の解明. 第 30 回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 25) 古林呂之、遠藤友里、正子裕太、井上大輔、新垣友隆、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌、

- 丹羽俊朗: 経鼻ルートを紹介した各種モデル薬物の頸部リンパ節移行性の比較(2). 第30回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 26) 井上大輔、宮本道広、渡邊浩人、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌、丹羽俊朗: 薬物の *in vivo* 鼻粘膜透過性と *in vitro* 細胞層透過性との相関:鼻粘膜吸収評価系の構築を目指して. 第30回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 27) 趙 婉廷、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Brij と胆汁酸塩を用いた P-糖タンパク質の基質となる薬物の消化管吸収性の改善. 第30回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 28) サングアングン 和子、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 各種吸収促進剤を用いたビタミン C の経皮吸収性の改善. 第30回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 29) Mary Nour Atiah, 草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Development of a novel transdermal patch system containing sumatriptan succinate for the treatment of migraine. 第30回日本 DDS 学会学術集会 (東京), 2014.7.
- 30) 堺 香輔、草森浩輔、小嶋愛未、日比野希美、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 白金ナノ粒子による癌転移抑制メカニズムの解明. 第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 31) 松浦 悟、草森浩輔、田辺典子、高山幸也、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 間葉系幹細胞の細胞表面修飾による新規癌治療法の開発. 第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 32) Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, Ken-ichi Ogawara, Toshikiro Kimura, Kazutaka Higaki, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto, Toshiro Niwa. Estimation of nasal drug absorption using new prediction system based on pharmacokinetic model incorporating nasal physiologic function. 2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA), 2014.11.
- 33) Tomotaka Shingaki, Yumiko Katayama, Takashi Okauchi, Emi Hayashinaka, Yasuhiro Wada, Tomoyuki Furubayashi, Yilong Cui, Toshiyasu Sakane, Yasuyoshi Watanabe. Positron emission tomography study on the nasal drug absorption and drug delivery to the brain. 2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA), 2014.11.
- 34) Tomoyuki Furubayashi, Yuri Endo, Daisuke Inoue, Tomotaka Shingaki, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto, Toshiro Niwa. Comparison of the direct transport of some model drugs to cervical lymph nodes through nasal mucosa in mice II. 2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA), 2014.11.

- 35) 木村峻輔、坂根稔康、草森浩輔、勝見英正、山本 昌：難溶解性薬物の吸収改善：薬物分子の分散状態との関係. 第4回4大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.

その他

- 1) 山本 昌：製剤添加物を用いた難吸収性薬物の消化管吸収性の改善ならびにその吸収促進機構. 2013年度第2回 創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014.2.
- 2) 山本 昌：薬学とはどういう学問か？～薬学の魅力に迫る～. 四天王寺高校大学説明会 (大阪), 2014.9.
- 3) 坂根稔康：医薬品はどのように製造されるのか？～錠剤の場合～. 滋賀県立守山高等学校大学模擬講義 (滋賀), 2014.10.
- 4) 坂根稔康、北岡 侑、安井裕之、草森浩輔、勝見英正、山本 昌：リチウムの体内動態と消化管吸収. 2014年度 京都薬科大学 私立大学戦略的基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 5) 草森浩輔、堺 香輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：活性酸素消去能に優れた白金ナノ粒子の肝臓ターゲティングによる肝虚血・再灌流障害の抑制. 2014年度 京都薬科大学 私立大学戦略的基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 6) 柏川紗希、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：鉄欠乏性貧血治療を目的とした硫酸鉄含有経皮吸収剤の創製. 2014年度 京都薬科大学 私立大学戦略的基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.
- 7) 堺 香輔、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌：活性酸素が誘導する接着分子の発現に及ぼす白金ナノ粒子の影響. 2014年度 京都薬科大学 私立大学戦略的基盤形成支援事業合同成果発表会 (京都), 2014.11.

薬物動態学

著書

- 1) 柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充（監修）、栄田敏之、山崎浩史、灘井雅行（編集）：薬物動態学第2版，廣川書店，(2014).

論文

- 1) Tetsuya Minegaki, Akiko Kuwahara, Motohiro Yamamori, Tsutomu Nakamura, Tatsuya Okuno, Ikuya Miki, Hideaki Omatsu, Takao Tamura, Midori Hirai, Takeshi Azuma, Toshiyuki Sakaeda, Kohshi Nishiguchi. Genetic Polymorphisms in SLC23A2 as Predictive Biomarkers of Severe Acute Toxicities after Treatment with a Definitive 5-Fluorouracil/Cisplatin-Based Chemoradiotherapy in Japanese Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Int. J. Med. Sci.*, **11**, 321-326 (2014).
- 2) Toshiyuki Sakaeda, Kaori Kadoyama, Keiko Minami, Yasushi Okuno: Commonality of Drug-associated Adverse Events Detected by 4 Commonly Used Data Mining Algorithms. *Int. J. Med. Sci.*, **11**, 461-465 (2014).
- 3) Kyoko Seki, Yasuo Tsuduki, Takeshi Ioroi, Michiko Yamane, Hiroko Yamauchi, Yukinari Shiraishi, Tadaaki Ogawa, Izumi Nakata, Kohshi Nishiguchi, Teruhisa Matsubayashi, Yoshihide Takakubo, Motohiro Yamamori, Akiko Kuwahara, Noboru Okamura, Toshiyuki Sakaeda: Serum Lactate Dehydrogenase Levels as a Predictive Marker of Oxaliplatin-Induced Hypersensitivity Reactions in Japanese Patients with Advanced Colorectal Cancer. *Int. J. Med. Sci.*, **11**, 641-645 (2014).
- 4) Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Yutaro Takemura, Miki Aoki, Marina Haruna, Toshiyuki Sakaeda, Kanji Takada: Prolonged hypoglycemic effects obtained by two-layered dissolving microneedles containing insulin glargine. *J. Drug Del. Sci. Tech.*, **24**, 601-606 (2014).
- 5) Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Taro Hayakawa, Shota Kuwano, Akiko Baba, Kota Shinohara, Asako Nishimura, Nobuhito Shibata, and Kanji Takada: Semi-physiological pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling and simulation of 5-fluorouracil for the whole time course of alterations in leukocyte, neutrophil, and lymphocyte counts in rats. *Xenobiotica*, **44**, 804-818 (2014).
- 6) Yukako Ito, Mayu Taniguchi, Asuka Hayashi, Miku Anai, Shinya Morita, Emi Ko, Naoko Yoshimoto, Yasuhiro Yoshi, Shinji Kobuchi, Toshiyuki Sakaeda, Kanji Takada: Application of dissolving microneedles to glucose monitoring through dermal interstitial fluid. *Biol. Pharm. Bull.*, **37**, 1776-1781 (2014).
- 7) Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Taro Hayakawa, Asako Nishimura, Nobuhito Shibata, Kanji Takada, and Toshiyuki Sakaeda: Pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling and simulation of 5-fluorouracil for erythropenia in rats. *J. Pharmacol. Toxicol. Methods*, **70**, 134-144 (2014).

プロシーディングス

- 1) 谷口真優、林明日香、河渕真治、伊藤由佳子、田村孝雄、栄田敏之：5-fluorouracil の体内動態に及ぼす 5-fluorouracil 先行急速静脈内投与の影響。臨床薬理, **45**, S236 (2014).

- 2) 佐伯克久、角山香織、栄田敏之、奥野恭史：FDA 大規模有害事象自発報告システムを用いた抗悪性腫瘍薬の過敏症反応の解析. *臨床薬理*, **45**, S245 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 河渕真治、桑野翔太、馬場明子、篠原康太、西村亜佐子、早川太郎、伊藤由佳子、芝田信人、高田寛治：PK-PD モデリングによる抗がん剤投与後の血球数時間的推移予測. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3.
- 2) 稲垣勇斗、宇野智哉、谷口真優、林明日香、河渕真治、伊藤由佳子、高田寛治、栄田敏之：溶解性マイクロニードルによる細胞間質液中バンコマイシン濃度測定の TDM 代替法としての可能性. 第 24 回日本医療薬学会年会 (名古屋), 2014.9.
- 3) 井上玄太、土田希、各務栄作、中野佑也、藤田章洋、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、高田寛治：自己溶解性マイクロニードル・アレイ・チップの低分子有機化合物への応用:カプサイシン. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 4) 大坂間紀幸、穴井美玖、谷口真優、林明日香、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、高田寛治：細胞間質液を用いたグルコースモニタリングへ溶解性マイクロニードルの応用. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 5) 家田和奈、松地大輝、亀井友梨、明神知美、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、高田寛治：bFGF 含有マイクロニードル・アレイチップの臨床応用に向けた製剤化に関する検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 6) 村田梨香、櫻井紀代美、中野一樹、児玉亮二、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、高田寛治：経皮ワクチン用マイクロニードル・アレイ・チップの有効性の検討—B 型肝炎ワクチンを用いた有効性の検討—. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 7) Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Taro Hayakawa, Asako Nishimura, Nobuhito Shibata, and Toshiyuki Sakaeda : Population pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling of 5-fluorouracil (5-FU) for myelosuppression in rats: predicting the whole time course of alterations of blood cell counts after the administration of various doses of 5-FU. 19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting (San Francisco, California, USA), 2014. 10. 19-23.
- 8) Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Taro Hayakawa, Asako Nishimura, Nobuhito Shibata, and Toshiyuki Sakaeda: Pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling of 5-fluorouracil (5-FU) using hepatic dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD) activity levels for myelosuppression in rats. 19th North American ISSX and 29th JSSX Meeting (San Francisco, California, USA), 2014. 10. 19-23.
- 9) 谷口真優、林明日香、河渕真治、伊藤由佳子、田村孝雄、栄田敏之：5-fluorouracil の体内動態に及ぼす 5-fluorouracil 先行急速静脈内投与の影響. 第 35 回日本臨床薬理学会学術総会 (愛媛), 2014.12.
- 10) 佐伯克久、角山香織、栄田敏之、奥野恭史：FDA 大規模有害事象自発報告システムを用いた抗悪性腫瘍薬の過敏症反応の解析. 第 35 回日本臨床薬理学会学術総会 (愛媛), 2014.12.

講演等

- 1) 栄田敏之：招待講演「遺伝子情報に基づいた薬物療法」．第1回立命館大学薬学部薬剤師生涯学習セミナー (滋賀), 2014.10.

その他

- 1) 高田寛治、伊藤由佳子：語句説明「1. パロキセチン、2. イコサペント酸エチル、3. トファシチニブ、4. デノスマブ、5. ルビプロストン、6. 西洋ハーブ医薬品、7. 臨床研究、8. 抗酒薬／断酒補助薬、9. 陣痛促進剤、10. フルミスト、11. ガーダシル」デジタルイミダス, 2014.3.
 1. パロキセチン
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0120&uid=NULLGWDOCOMO
 2. イコサペント酸エチル
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0121&uid=NULLGWDOCOMO
 3. トファシチニブ
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0122&uid=NULLGWDOCOMO
 4. デノスマブ
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0123&uid=NULLGWDOCOMO
 5. ルビプロストン
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0124&uid=NULLGWDOCOMO
 6. 西洋ハーブ医薬品
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0125&uid=NULLGWDOCOMO
 7. 臨床研究
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0126&uid=NULLGWDOCOMO
 8. 抗酒薬／断酒補助薬
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0127&uid=NULLGWDOCOMO
 9. 陣痛促進剤
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0128&uid=NULLGWDOCOMO
 10. フルミスト
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0129&uid=NULLGWDOCOMO
 11. ガーダシル
http://111.87.73.43/genre/detail.html?article_id=F-132-0106&uid=NULLGWDOCOMO
- 2) 栄田敏之：京都府「健康情報拠点薬局設置推進事業に係る意見交換会」(京都), 2014.8.
- 3) 栄田敏之：厚生労働省「平成26年度革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品実用化促進事業にかかる補助対象機関現地調査について」(名古屋), 2014.8.
- 4) 栄田敏之：京都府「危険ドラッグの条例制定等に向けた検討会」(京都), 2014.9, 11.
- 5) 栄田敏之：評価者．立命館大学 薬学共用試験 OSCE (滋賀), 2014.12.
- 6) 伊藤由佳子：評価者．大阪薬科大学 薬学共用試験 OSCE (大阪), 2014.12.
- 7) 河津真治、伊藤由佳子、栄田敏之：5-フルオロウラシル投与後の骨髄抑制発現の予測を目的としたPK-PDモデリング．第4回4大学連携研究フォーラム (京都), 2014.12.

臨床薬学

著 書

- 1) 西口工司：医療薬学 [第6版]，堀了平、乾賢一、奥村勝彦監修，廣川書店出版（2014）。
- 2) 西口工司：シナリオ 症例解析—医療の現場で今—[第2版]，高山明絵編集，京都廣川書店出版（2014）。

論 文

- 1) 湯月翔太、峯垣哲也、伯井理恵子、藤井尚子、濱田美輝、若林未稀、坂東季布子、宮西良佳、榑井佳奈、辻本雅之、西口工司. アムロジピンベシル酸塩製剤と酸化マグネシウム製剤の同時簡易懸濁による主薬量の変動. *医療薬学* **40**, 252-257 (2014).
- 2) Hitoshi Uchiyama, Masayuki Tsujimoto, Tadakazu Shinmoto, Hitomi Ogino, Tomoko Oda, Takuya Yoshida, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Hidehisa Tachiki, Tetsuya Minegaki and Kohshi Nishiguchi. Uremic Toxins enhance statin-Induced cytotoxicity in differentiated human rhabdomyosarcoma cells. *Toxins* **6**, 2612-2625 (2014).
- 3) Masayuki Tsujimoto, Sari Sugimoto, Makiko Nagatomo, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Tetsuya Minegaki, and Kohshi Nishiguchi. Possibility of decrease in CYP1A2 function in patients with end-stage renal disease. *Ther. Apher. Dial.* **18**, 174-180 (2014).
- 4) Kyoko Seki, Yasuo Tsuduki, Takeshi Ioroi, Michiko Yamane, Hiroko Yamauchi, Yukinari Shiraishi, Tadaaki Ogawa, Izumi Nakata, Kohshi Nishiguchi, Teruhisa Matsubayashi, Yoshihide Takakubo, Motohiro Yamamori, Akiko Kuwahara, Noboru Okamura, and Toshiyuki Sakaeda. Serum lactate dehydrogenase levels as a predictive marker of oxaliplatin-induced hypersensitivity reactions in Japanese patients with advanced colorectal cancer. *Int. J. Med. Sci.* **11**, 641-645 (2014).
- 5) Tetsuya Minegaki, Akiko Kuwahara, Motohiro Yamamori, Tsutomu Nakamura, Tatsuya Okuno, Ikuya Miki, Hideaki Omatsu, Takao Tamura, Midori Hirai, Takeshi Azuma, Toshiyuki Sakaeda, and Kohshi Nishiguchi. Genetic polymorphisms in SLC23A2 as predictive biomarkers of severe acute toxicities after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Int. J. Med. Sci.* **11**, 321-326 (2014).

解説、報告書等

- 1) 西口工司：Do you know?－POCT－*日本病院薬剤師会雑誌*, **50**, 141 (2014).
- 2) 西口工司：Do you know?－Syk 阻害薬－*日本病院薬剤師会雑誌*, **50**, 900 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 松本光司、辻本雅之、吉田拓弥、住本菜摘、須本真理子、中川智加、小川佳織、神原健吾、鳥居奈央、入江裕子、川上祥代、中谷沙紀、藤岡春乃、峯垣哲也、西口工司：アリスキレンの肝消失過程に及ぼす有機アニオン輸送ポリペプチド 1B1 の影響。日本薬学会第 134 年会（熊本），2014. 3.
- 2) 筒井孝治、辻本雅之、内山仁、島田奈央美、新田彩佳、木村朱李、佐伯崇、結城絵理子、吉田拓弥、古久保拓、和泉智、山川智之、峯垣哲也、立木秀尚、西口工司：末期腎不全患者血清を長期暴露した横紋筋細胞の作製とその機能評価。日本薬学会第 134 年会（熊本），2014. 3.
- 3) 内山仁、辻本雅之、荻野仁未、小田智子、新本唯一、島田奈央美、筒井孝治、新田彩佳、吉田拓弥、古久保拓、和泉智、山川智之、峯垣哲也、立木秀尚、西口工司：ヒト横紋筋モデル細胞を用いたスタチンによる横紋筋障害への尿毒症物質の関与とその増強メカニズムの検討。日本薬学会第 134 年会（熊本），2014. 3.
- 4) 福島沙織、峯垣哲也、宇野順騎、高梨仁美、森岡千尋、辻栞、山本知志、渡邊愛梨、辻本雅之、西口工司：ヒト食道癌細胞株の増殖に及ぼすビスホスホネート系薬物の影響。日本薬学会第 134 年会（熊本），2014. 3.
- 5) 吉田拓弥、辻本雅之、住本菜摘、須本真理子、中川智加、松本光司、入江裕子、川上祥代、中谷沙紀、藤岡春乃、峯垣哲也、西口工司：消化管モデル Caco-2 細胞における尿酸とインドキシル硫酸の相互作用に関する動態学的研究。医療薬学フォーラム 2014／第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京），2014. 6.
- 6) 若林未稀、峯垣哲也、濱田美輝、信太恵理菜、中島香織、不破徹、浅井麻佑里、大西結希、藤本美沙紀、辻本雅之、西口工司：簡易懸濁法におけるジヒドロピリジン系 Ca 拮抗薬と酸化マグネシウム錠の配合変化。医療薬学フォーラム 2014／第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム（東京），2014. 6.

- 7) Masayuki Tsujimoto, Hitoshi Uchiyama, Tadakazu Shinmoto, Hitomi Ogino, Tomoko Oda, Takuya Yoshida, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Hede-hisa Tachiki, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi: Effect of uremic toxins on statin-induced cytotoxicity in patients with end-stage renal failure. 2014 Annual Meeting American College of Clinical Pharmacology (Atlanta, GA, USA), 2014.9.
- 8) 北山陽菜、辻本雅之、寺尾彩、福田智哉、川端美穂、廣川愛、山田有里子、峯垣哲也、西口工司：生体内必須微量元素量の変動が CYP3A4 機能に及ぼす影響. 第 24 回日本医療薬学会年会（名古屋），2014. 9.
- 9) 峯垣哲也、森岡千尋、福島沙織、高梨仁美、宇野順騎、辻菜、山本知志、渡邊愛梨、辻本雅之、西口工司：ビスホスホネート系薬物のヒト食道癌細胞株に対する細胞毒性メカニズムの解明. 第 24 回日本医療薬学会年会（名古屋），2014. 9.
- 10) 小出博義、辻本雅之、住本菜摘、須本真理子、中川智加、松本光司、小川佳織、神原健吾、鳥居奈央、入江裕子、川上祥代、中谷沙紀、藤岡春乃、吉田拓弥、峯垣哲也、西口工司：シクロスポリンによるアリスキレン消失遅延への有機アニオン輸送ポリペプチド 1B1 の関与に関する検討. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都），2014. 10.
- 11) 勝部友理恵、辻本雅之、落合愛、小出博義、北条亜矢子、住本菜摘、須本真理子、中川智加、松本光司、小川佳織、神原健吾、鳥居奈央、志摩大介、古久保拓、和泉智、山川智之、峯垣哲也、西口工司：イリノテカン活性代謝物 SN-38 肝取り込みに及ぼす尿毒症物質及びアルブミンの影響. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都），2014. 10.
- 12) 渡邊愛梨、峯垣哲也、辻菜、山本知志、戀木沙耶、道家雄太郎、山根千尋、辻本雅之、西口工司：5-FU 耐性ヒト乳癌細胞株の樹立とそのメカニズムの解明. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都），2014. 10. 優秀ポスター賞受賞
- 13) 棚橋真実、峯垣哲也、宮本恵輔、山本彩佳、荒木悠、稲垣恵未、林絵里、辻本雅之、西口工司：食道癌細胞株における PARP 阻害剤と細胞障害性抗癌剤との相乗的な増殖抑制効果. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会（京都），2014. 10.
- 14) 小川佳織、辻本雅之、吉田拓弥、神原健吾、鳥居奈央、峯垣哲也、西口工司：腎尿細管モデル HK-2 細胞におけるインドキシル硫酸の動態に及ぼす尿酸の影響. 第 8 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2014（大阪），2014. 10. 優秀演題賞受賞
- 15) 伊藤なつこ、辻本雅之、内山仁、小澤将一、森下智恵、古久保拓、和泉智、山川智之、立木秀尚、峯垣哲也、西口工司：ヒト大腸癌由来細胞株 LS180 細胞の抗癌剤感受性に及ぼす末期腎不全患者血

清の影響. 第 35 回日本臨床薬理学会学術総会 (松山), 2014. 12.

講演等

- 1) 辻本雅之: 特別講演「薬薬学連携によるエビデンス創製を目指して～エビデンスなき常識への挑戦～」. 第 11 回 Pharm. Café (大阪), 2014. 3.
- 2) 西口工司: シンポジウム「ジェネリック医薬品の製剤品質評価」. 日本病院薬剤師会東北ブロック第 4 回学術大会 (仙台), 2014. 5.
- 3) 西口工司: 京都薬科大学大学説明会 (名古屋), 2014. 8.
- 4) 辻本雅之: オーガナイザー 兼 演者 ワークショップ 薬学生のための基礎から学ぶ CKD 薬物療法「主旨説明～薬学部で学んだことが実臨床でどう活かせるのか?～」. 第 8 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2014 (大阪), 2014.10.

その他

- 1) 西口工司: 参加 平成 26 年度薬学共用試験 OSCE 説明会 (東京), 2014. 4.
- 2) 西口工司、辻本雅之、峯垣哲也: 体験実習「作ろう軟膏! 使おう軟膏!」. 京都薬科大学オープンキャンパス (京都), 2014. 8.
- 3) 岡崎真波、辻本雅之、小出博義、三浦有花里、峯垣哲也、西口工司: SN-38 の細胞増殖抑制効果に及ぼすコーヒー処置の影響. 第 4 回 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2014. 12.

論文

- 1) 辰巳由香理、小笹寧子、斎藤由佳、森島史佳、梅田陽子、吉田路子、鮑炳元、沼尾成晴、長澤吉則、浜崎博、木村剛. 高齢心疾患患者におけるチェア・エクササイズ的安全性と効果の検討. *心臓リハビリテーション* **19**, 95-99 (2014).
- 2) Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura, Kenji Takahashi, Hiroki Sugiura, Yuu Uchida. Effect of maximum grip strength on controlled force exertion measured by a computer-generated sinusoidal waveform in young adult males. *Sport Sciences for Health* **10**, 23-28 (2014).
- 3) Hiroe Sugimoto, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa, Masaaki Shimomura. Changes in the physical functions of pre-frail elderly women after participation in a 1-year preventative exercise program. *Geriatrics and Gerontology International* **14**, 975-982 (2014).
- 4) Hiroe Sugimoto, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa. Age and gender-related differences in physical functions of the elderly following one-year regular exercise therapy. *Health* **6**, 792-801 (2014).
- 5) Naoya Endo, Masayuki Konishi, Hyeon Ki Kim, Masaki Takahashi, Mio Nishimaki, Shigeharu Numao, Shizuo Sakamoto. The difference of the influence between acute swimming and running on cardiac fatigue in young males. *日本臨床生理学会雑誌* **44**, 77-89 (2014).
- 6) Hiroe Sugimoto, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa. Age and gender-related differences in physical functions of the elderly following 1-year regular exercise therapy: comparison with standard values. *American Journal of Sports Science and Medicine* **2**, 148-153 (2014).
- 7) 金鉉基、高橋将記、小西真幸、田端宏樹、遠藤直哉、沼尾成晴、鈴木克彦、坂本静男. 運動実施時間帯の違いが一過性持久性運動時における代謝関連指標ならびにホルモン応答に及ぼす影響. *日本臨床スポーツ医学会誌* **22**, 497-505 (2014).
- 8) Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura. Japanese women's age-related differences between controlled force exertion measured by a computer-generated sinusoidal waveform and a bar chart display. *American Journal of Sports Science and Medicine* **2**, 212-217 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 長澤吉則、出村慎一、高橋憲司、重谷将司. 発揮力量の異なる局面における筋力発揮調整能に及ぼす最大握力の影響. 日本体育測定評価学会第 13 回大会 (奈良), 2014.3.
- 2) 久保田浩史、出村慎一、長澤吉則、山田孝禎. 大学柔道選手の減量に関する調査. 日本体育測定評価学会第 13 回大会 (奈良), 2014.3.
- 3) 杉本寛恵、出村慎一、長澤吉則、松浦義昌. 維持期高齢者における性および年代別の身体機能特性：標準値との比較. 日本体育測定評価学会第 13 回大会 (奈良), 2014.3.
- 4) 杉本寛恵、長澤吉則、沼尾成晴、下村雅昭、千葉真理子. 1 年間の集団スポーツリハビリ教室に参加した心疾患維持期高齢者の身体機能の変化. 第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (京都), 2014.7.
- 5) 長澤吉則、沼尾成晴、杉本寛恵、千葉真理子、下村雅昭. 維持期心疾患高齢患者における身体機能および転倒リスクに及ぼす転倒恐怖感の影響およびその性差. 第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (京都), 2014.7.
- 6) 高橋佑介、羽田龍彦、長澤吉則、沼尾成晴. 心不全患者の再入院回数に影響を及ぼす要因の検討. 第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (京都), 2014.7.
- 7) 野口雄慶、出村慎一、吉村喜信、長澤吉則、辛 紹熙. 青年男子における腹部浅層部と深層部の筋厚の関係について. 第 62 回日本教育医学会大会 (岐阜), 2014.8.
- 8) 中田征克、出村慎一、長澤吉則、久保田浩史、杉本寛恵. 瞬発的な股関節外転筋力発揮における筋力発揮特性の検討. 第 62 回日本教育医学会大会 (岐阜), 2014.8.
- 9) 長澤吉則、出村慎一、久保田浩史、高橋憲司. 発揮力量の異なる局面における筋力発揮調整能評価変数の対応関係. 第 62 回日本教育医学会大会 (岐阜), 2014.8.
- 10) 杉本寛恵、出村慎一、長澤吉則、佐藤 進. 集団スポーツ運動療法への参加率が男性高齢者の身体機能に及ぼす影響. 日本体育学会第 65 回大会 (岩手), 2014.8.

- 11) 松浦義昌、出村慎一、長澤吉則、坪内伸司、松本直也. 女性介護労働者の健康と体力. 日本体育学会第 65 回大会 (岩手), 2014.8.
- 12) 長澤吉則、出村慎一、中田征克、久保田浩史. 発揮力量の異なる局面における筋力発揮調整能に及ぼす最大握力の影響: 若年女性を対象として. 日本体育学会第 65 回大会 (岩手), 2014.8.
- 13) 高橋憲司、出村慎一、長澤吉則、山次俊介. 伸縮性テープを用いた手関節テーピングが背屈および掌屈可動域に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会 (長崎), 2014.9.
- 14) 長澤吉則、出村慎一、久保田浩史、内田 雄、高橋憲司. 握力の優劣が発揮力量の異なる局面の筋力発揮調整能に及ぼす影響およびその性差. 第 69 回日本体力医学会大会 (長崎), 2014.9.
- 15) 久保田浩史、出村慎一、長澤吉則、内田 雄. 10 年前と現在における大学女子柔道選手の減量実態に違いはあるか?. 第 69 回日本体力医学会大会 (長崎), 2014.9.
- 16) 沼尾成晴、坂本静男. 脂質割合の異なる食事の短期間摂取が食後糖代謝に及ぼす影響. 第 35 回日本肥満学会 (宮崎), 2014.10.
- 17) 遠藤直哉、小西真幸、金鉉基、高橋将記、西牧未央、沼尾成晴、坂本静男. 水泳とランニングの漸増負荷運動中における運動強度による脂質酸化量の比較. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (東京), 2014.11.

その他

- 1) 長澤吉則: 関西地区 FD 連絡協議会事業参加 (「授業の基本」研修会: 視聴覚教材を用いる授業のために), 2014.6.27
- 2) 沼尾成晴: 2014年度筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻オープンキャンパス、OB・OGセミナー、2014.6.29
- 3) 長澤吉則: 第 62 回日本教育医学会大会役員実行委員, 2014.8.
- 4) 長澤吉則: 日本体育学会第 65 回大会「統計相談」相談員, 2014.8.

物理学

著 書

- 1) 行廣隆次、阿部一晴、有本收、大塚雄作、鈴木清巳、村上正行、山内清郎、圓月勝博、鈴木寿志、徳永寿老、世雄雄博、前田昭吾、川面きよ（公益財団法人大学コンソーシアム京都 FD 研究ワーキンググループメンバー）：まんがFD ハンドブック おしえて！FD マン【授業奮闘編】，公益財団法人大学コンソーシアム京都 (2014).

学会発表等

その他

- 1) 有本收：第 19 回 FD フォーラム 参加（京都），2014.2.
- 2) 有本收：大学コンソーシアム京都 新任教員 FD 合同研修(プログラム A) ファシリテーター（京都），2014.9.
- 3) 有本收：第 155 回応急手当普及員講習会(再講習) 受講（京都），2014.11.
- 4) 有本收：大学コンソーシアム京都 第 1 回大学教育パワーアップセミナー 参加（京都），2014.11.
- 5) 有本收：大学コンソーシアム京都 FD 執行部塾兼大学コンソーシアム京都 20 周年記念講演会 参加（京都），2014.11.
- 6) 有本收：大学コンソーシアム京都 第 2 回大学教育パワーアップセミナー 参加（京都），2014.12.

一般教育

論文

- 1) 野崎亜紀子：規範的關係論・序説. *千葉大学法学論集*, **29-1/2**, 149-174 (2014).
- 2) 坂本尚志：哲学の外へ—パレーシアの歴史を書くフーコー. *フランス語フランス文学研究*, **104**, 203-218 (2014).

解説、報告書等

- 1) 鈴木栄樹：京葉史遺聞—その5—社団法人京都独逸学会初代理事長雨森菊太郎の父巖垣月洲のこと. *京葉会誌*, **139**, 14-16 (2014).
- 2) 鈴木栄樹：山本覚馬とその門人たち. *経営ノート*, **248**, 12, 京都総合経済研究所 (2014).
- 3) 鈴木栄樹：東京遷都と小野組転籍事件. *経営ノート*, **249**, 12, 京都総合経済研究所 (2014).
- 4) 鈴木栄樹：浜岡光哲と草創期の新聞事業. *経営ノート*, **250**, 12, 京都総合経済研究所 (2014).
- 5) 鈴木栄樹：京都商工会議所の創設と浜岡光哲. *経営ノート*, **251**, 12, 京都総合経済研究所 (2014).
- 6) 鈴木栄樹：京都商工銀行の設立と浜岡光哲. *経営ノート*, **252**, 12, 京都総合経済研究所 (2014).
- 7) 野崎亜紀子：規範概念としての医学的無益 medical futility. *法の主観的価値と客観的機能について* (人文社会科学科研究科研究プロジェクト報告書 第271集). 嶋津格編, 17-24, 千葉大学大学院人文社会科学科 (2014).
- 8) 野崎亜紀子：医事法トピックス 薬事法改正. *年報 医事法学*, **29**, 208-214 (2014).
- 9) 坂本尚志：京都薬科大学におけるFD活動の現状と課題：授業評価アンケートの実施と活用を中心に. *KansaiFD News*, **11**, 4 (2014).
- 10) 坂本尚志：第10分科会 大学におけるライティング指導の諸問題. 大学コンソーシアム京都第19回FDフォーラム報告集—社会を生き抜く力を育てるために. 435-440 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) I. Shimazu, A. Nozaki, M. Hasegawa: The Most Successful and Moralistic Merchant at the Dawn of Japanese Capitalism: Shibusawa and his Confucianism. Der ehrbare Kaufmann zwischen Bescheidenheit und Risiko. Akademie für Politische Bildung Tutzing (Germany), 2014.9-10.

講演等

- 1) 鈴木栄樹：講演「明治のメディアとジャーナリスト」。ラポール学園京都労働者学校日本史講座（京都），2014.1.
- 2) 鈴木栄樹：講演「岩倉具視と京都改革」。霊山歴史館第62回維新土曜トーク（京都），2014.2.
- 3) 鈴木栄樹：講演「明治の医師と看護師」。ラポール学園京都労働者学校日本史講座（京都），2014.2.
- 4) 鈴木栄樹：講演「幕末京都の社会と災害—地震・洪水・火事・飢饉—」。京都府行政書士会第4支部定時総会研修会（京都），2014.4.
- 5) 野崎亜紀子：研究者とともにある研究倫理を考える。京都橘大学2014年度研究倫理研修会。2014.6.
- 6) 野崎亜紀子：法律家の立場からみた生殖の自己決定。2014年度信州大学および信州大学大学院合同授業・市民公開授業 生殖をめぐる生命倫理 ～生殖補助医療・出生前診断～ シンポジウム。2014.7.
- 7) 野崎亜紀子：研究者とともにある研究倫理を考える 専門職集団としての研究者が持つ規範。京都薬科大学2014年度研究倫理研修会。2014.7
- 8) 鈴木栄樹：講演「鴨川から見た江戸時代の京都—〈橋〉と〈河原〉と〈洪水〉」。京都薬科大学第20回公開講座（京都），2014.10.
- 9) 桑形広司：講演「医療関係者の姓名から見たドイツ語圏の人名の特徴」。京都薬科大学「京薬論集刊行会」主催第12回文化講演会（京都），2014.11.
- 10) 坂本尚志：講演「『思考の型』をいかに学ばせるか哲学一系科目におけるライティング指導」。ワークショップ「思考し表現する学生を育てる VI—コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導—」（京都），2014.12.

その他

- 1) 坂本尚志：コーディネーター，司会．大学におけるライティング指導の諸問題．第19回大学コンソーシアム京都FDフォーラム，2014.2.
- 2) 坂本尚志：報告，エピステモロジー・サークルのスピノザ，科研費プロジェクト「フランス・エピステモロジーの伏流としてのスピノザ」第2回研究会，大阪大学，2014.3.
- 3) 坂本尚志：通訳，ギヨーム・ルブラン教授講演会「対抗文化としての哲学」．日仏会館（東京）2014.7.
- 4) 坂本尚志：通訳（担当：ギヨーム・ルブラン、ファビエンヌ・ブルジュール両教授），ワークショップ「異議申し立ての諸形式についての倫理学的研究」第3回研究会，京都大学，2014.7.
- 5) 坂本尚志：通訳，ギヨーム・ルブラン教授講演会「対抗文化としての哲学」，通訳、大阪大学，2014.7.
- 6) 坂本尚志：通訳，ギヨーム・ルブラン教授講演会「生命倫理の考古学」，京都薬科大学，2014.7.
- 7) 坂本尚志：通訳，コメンテーター，ワークショップ「結婚の脱構築—フランス同性婚合法化以後」，西南学院大学，2014.8.
- 8) 實川真理子：特定質問者，玉川大学学術研究所人文科学研究センター公開シンポジウム「理論言語学が採用する方法論的自然主義とその実用性について」，2014.11.

薬学英语分野

解説、報告書等

- 1) F.W. Foong: 話題 薬学における科学英語のための体系的教育カリキュラム (SSTSEE システム) について. ファルマシア, 50(8), 784-788 (2014).
- 2) F.W. Foong: 薬学実践英語第 1 回 科学英語とは? 定性的、定量的、特異的および客観的要素. ファルマシア, 50(9), 900-901 (2014).
- 3) F.W. Foong: 実践英語第 2 回 若手研究者のための科学英語文法の基礎について (Part 1) ファルマシア, 50(10), 1009-1011 (2014).
- 4) F.W. Foong: 薬学実践英語第 3 回 若手研究者のための科学英語文法の基礎について (Part 2) ファルマシア, 50(11), 1137-1139 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) Foo Wah Foong, Masao Kamada, Kenichi Hibino. Correlation of written test scores and presentation ability in science English learning. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.
- 2) Hikari Matsuno, Hiroyuki Ogasawara, Ayako Noguchi, Keito Hasegawa, Rikako Wajima, Foo Wah Foong. Effective lecturer-student microphone use in a lecture room: A useful approach for teaching and learning pharmaceutical science English. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.
- 3) Yuki Higuchi, Ayana Hirai, Yuka Okazaki, Foo Wah Foong. First-time poster presentation in pharmaceutical science English: Questionnaire feedback from pharmacy students in a Japanese university. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.

- 4) Rikako Wajima, Hikari Matsuno, Keito Hasegawa, Hiroyuki Ogasawara, Foo Wah Foong. First-time oral presentation in pharmaceutical science English: Questionnaire feedback from pharmacy students in a Japanese university. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.
- 5) Hiroyuki Ogasawara, Ayako Noguchi, Keito Hasegawa, Hikari Matsuno, Rikako Wajima, Foo Wah Foong. Multiple-choice versus written test scores in science English learning: Test Correlation and comprehension through teaching. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.
- 6) Keito Hasegawa, Rikako Wajima, Hikari Matsuno, Ayako Noguchi, Hiroyuki Ogasawara, Hisao Nakai, Yuki Higuchi, Foo Wah Foong. The need of pharmacy English for pharmacy Students in Japanese universities: A perception case report. The International Conference on Education, Psychology, and Social Science (ICEPS) (Taipei) ,2014.8.

講演等

- 1) F.W. Foong: 特別講演「Part I: The Dos and Don'ts of Manuscript-Writing」 「Part II: Essentials of Oral and Poster Presentations」. 日本薬剤学会 2014 年度第 1 回西地域区英語セミナー(京都), 2014.12.

薬学教育研究センター

学会発表等

学会発表

- 1) 開 章宏、吉村 典久、高木 愛未、西村 奏咲、細井 信造、後藤 直正 : 6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合否との相関: より効果的な国家試験対策を目指して. 日本薬学会第134年会(熊本), 2014.3.
- 2) 江川ほのか、泉谷すみれ、中嶋大地、久世亜希子、高野稔来、小関 稔、岩崎宏樹、小島直人、細井信造、野出 學、山下正行: リサイクル型キラルアミンの α -置換- α , β -不飽和エステルへの不斉Michael付加反応による二連続不斉炭素の構築. 日本薬学会 第134年会 (熊本), 2014. 3.
- 3) 岡本恭輔、本光由佳梨、山下正行、小島直人、岩崎宏樹、細井信造: 誘起 CD 励起子法によるステロール類の3位水酸基の絶対配置決定. 第64回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014. 10.
- 4) 松永崇利、堀野優介、砂田優輝、高橋一朗、細井信造: フタリドと1級アミンの直接縮合による生理活性フタルイミジン誘導体の創製. 平成26年度有機合成北陸セミナー(坂井), 2014.10.
- 5) 酒井翔矢、野村麻菜、高橋一朗、細井信造: 顕在的および潜在的エノール化合物に対する水素結合型分子捕捉の検討. 平成26年度有機合成北陸セミナー(坂井), 2014.10.

その他

- 1) 吉村典久、高木愛未: 参加. SPOD フォーラム 2014 “気づき”と“振り返り”が大学を変える～成長を確かなものにするために～(高知), 2014.8.
- 2) 細井信造: モニター員. 2014 年度薬学共用試験 CBT 体験受験(同志社女子大学), 2014.9.
- 3) 開 章宏 : 参加. 第14回山形大学FD合宿セミナー「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」(山形), 2014.9.

- 4) 細井信造：誘起円二色性を基盤とした絶対配置決定法の開発と応用、第 12 回北陸化学者談話会(羽咋), 2014.9.

- 5) 岡本恭輔、本光由佳梨、山下正行、小島直人、岩崎宏樹、細井信造：ステロール類の 3 位水酸基の絶対配置決定における誘起CD励起子法の有用性について、2014年度創薬科学フロンティアシンポジウム (京都), 2014. 11.

著 書

- 1) 矢野義孝：薬学数理統計, 京都廣川書店(2014).
- 2) 今西孝至:第9章 シチュエーション別フィジカルアセスメント C.在宅でのシチュエーション scene 3 癌末期患者の疼痛緩和目的での在宅医療. 薬剤師・薬学生のためのフィジカルアセスメントハンドブック, 大井一弥, 白川晶一編, pp.242-243, 南江堂 (2014).
- 3) 高山 明、本橋秀之、矢野義孝 他：医療薬学 (第6版), 堀 了平, 奥村勝彦, 乾 賢一監修, 東京廣川書店 (2014).
- 4) 今西孝至、河野修治、高山 明、中村暢彦、松村千佳子、本橋秀之：シナリオ症例解析 -医療現場で今- 第2版, 高山 明編集, 京都廣川書店 (2014).

論 文

- 1) Takayuki Katsube, Toshihiro Wajima, Yoshinori Yamano, Yoshitaka Yano. Pharmacokinetic / Pharmacodynamic Modeling for Concentration-Dependent Bactericidal Activity of a Bicyclolide, Modithromycin. *J Pharm Sci* **103**, 1288-1297 (2014).
- 2) Takaaki Kodawara, Satohiro Masuda, Yoshitaka Yano, Kazuo Matsubara, Toshiaki Nakamura, Mikio Masada. Inhibitory effect of ciprofloxacin on β -glucuronidase-mediated deconjugation of mycophenolic acid glucuronide. *Biopharm Drug Disp* **35**, 275-283 (2014).
- 3) Yugo Chisaki, Satoshi Noda, Daiki Hira, Shin-ya Morita, Yoshitaka Yano, Tomohiro Terada. Reduction in Gastrointestinal Toxicity by Gastric Secretion Inhibitors during S-1 Monotherapy for Patients with Gastric Cancer. *Biol Pharm Bull* **37**, 1158-1161 (2014).
- 4) 山田正実、松村千佳子、地丸裕美、上野理恵、矢野義孝、高橋一栄：外来がん疼痛患者におけるオピオイド鎮痛薬導入に対する薬剤師介入の効果に関する検討. *Palliat Care Res* **9**, 151-157 (2014).

- 5) 今西孝至、南谷怜亜、中野慎治、高山 明：災害に備えた一般のおよび疾患別支援ツールの検討. *日本臨床救急医学会雑誌*, **17**, 687-692 (2014).
- 6) 今西孝至、大川裕加里、高山 明：保険薬局における服薬指導に関する患者・薬剤師間の双方向性調査. *医療薬学*, **40**, 660-664 (2014).

解説・報告書等

- 1) 矢野義孝：「Continuing Education—生涯教育ホームテスト—」*京都薬報* 4月号, 41-44 (2014)、8月号, 36-39 (2014)、12月号, 46-49 (2014).
- 2) 高山 明：「Continuing Education—生涯教育ホームテスト—」*京都薬報* 1月号, 34-39 (2014)、5月号, 44-50(2014)、9月号, 26-31 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 地丸裕美、山田正実、松村千佳子、高橋一栄：変更理由別にみるフェンタニル貼付剤への換算比の検討. 第35回日本病院薬剤師会近畿学術大会 (京都), 2014.2.
- 2) 市田彩弥、本橋秀之、北野あすか、高山 明、乾 賢一、矢野義孝：テラプレビル投与時に認められる腎機能障害とその患者背景に関する調査. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 3) 藤原早希、松村千佳子、山田正実、地寄悠吾、高橋一栄、矢野義孝：オキシコンチン錠からフェンタニル貼付剤への投与量換算比に影響を及ぼす要因の探索. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 4) 河野修治、竹川菜美子、山本千里、松林明恵、権藤直人、加藤星河、橋詰 勉、高山 明：インスリンポンプ発症患者に対する薬剤師の自己注射手技指導によって血糖コントロールが改善した一症例. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 5) 狩森裕希、今西孝至、高山 明：薬剤師の在宅医療に対する訪問介護員の意識調査. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.
- 6) 長野公美、河野修治、小山裕之、堀井雅代、津島己幸、橋詰 勉、高山 明：薬剤自動識別照合システム *Audy*[®]の有用性. 日本薬学会第134年会 (熊本), 2014.3.

- 7) 小松早恵、今西孝至、高山 明：病棟薬剤業務に対する病棟薬剤師の意識調査. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 8) 今西孝至、高山 明：薬学生のフィジカルアセスメント実習に対する意識調査－1 年次生、4 年次生、6 年次生間の比較－. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 9) 伊藤智夫、奥 直人、前田定秋、中村明弘、山口政俊、増野匡彦、伊藤 喬、石塚忠男、三田智文、出口芳春、入江徹美、木内祐二、橋詰 勉、宮崎 智、飯島史朗、松野純男、石川さと子、山元 弘：薬学共用試験－CBT/OSCE の現状と課題. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014. 3.
- 10) 入江徹美、木内祐二、橋詰 勉、野田幸裕、岡村 昇、岡崎光洋、吉富博則、木津純子、宮崎 智、奥 直人、山元 弘：薬学共用試験 OSCE の結果解析. 日本薬学会第 134 年会 (熊本), 2014.3
- 11) 山田正実、松村千佳子、地丸裕美、上野理恵、矢野義孝、高橋一栄：外来患者におけるオピオイド鎮痛薬導入に対する薬剤師介入による効果. 第 19 回日本緩和医療学会学術大会 (神戸), 2014.6.
- 12) 池野有美、本橋秀之、矢野義孝：カフェイン併用化学療法における個体差を考慮した体内動態シミュレーション. 第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム・医療薬学フォーラム 2014 (東京), 2014.6.
- 13) 平 大樹、地寄悠吾、野田哲史、宇津 貴、前川 聡、矢野義孝、森田真也、寺田智祐：高度腎機能低下患者におけるフェブキシスタットの薬物動態、治療効果の解析. 第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム・医療薬学フォーラム 2014 (東京), 2014.6.
- 14) 本橋秀之、市田彩弥、北野あすか、高山 明、乾 賢一、矢野義孝：テラプレビル投与時に認められる腎障害と患者背景に関する調査. 第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (鹿児島), 2014.7.
- 15) 古原優也、津島己幸、河野修治、橋詰 勉、高山 明：一般用医薬品の取扱いに関する登録販売者・薬剤師の意識調査. 第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (鹿児島), 2014.7.
- 16) 中村暢彦、青地翔紀、藤村有紀、谷 大輔、林 淳雄、中島研朗、金澤旭宜、小林政彦、矢野義孝、高山 明：タブレット端末を活用した抗がん剤による皮膚有害事象に関する QOL 評価の構築. 第 17 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (鹿児島), 2014.7.
- 17) 木内祐二、入江徹美、橋詰 勉、岡村 昇、木津純子、野田幸裕、吉富博則、宮崎 智、山元 弘：平成 25 年度薬学共用試験 OSCE 報告. 第 46 回日本医学教育学会大会 (和歌山), 2014.7

- 18) 地寄悠吾、中村暢彦、矢野義孝：5-HT₃ 受容体拮抗剤におけるモンテカルロシミュレーションを用いた薬剤経済評価. 第 52 回日本癌治療学会学術集会 (横浜), 2014.8.
- 19) 堀尾理紗、河野修治、津島己幸、橋詰 勉、高山 明：インスリン自己注射に対するインスリン非使用者の意識に関する研究－外食時の注射について－. 第 24 回日本医療薬学会年会 (名古屋), 2014.9.
- 20) 山田正実、松村千佳子、地丸裕美、上野理恵、矢野義孝、高橋一栄：外来がん疼痛患者のオピオイド鎮痛薬導入における薬剤師の積極的介入による多職種連携体制の構築. 第 24 回日本医療薬学会年会 (名古屋), 2014.9.
- 21) 上田伊吹、志野訓之、野村泰生、河野修治、津島己幸、橋詰 勉、高山 明：レボフロキサシンによる血糖異常について. 第 24 回日本医療薬学会年会 (名古屋), 2014.9.
- 22) 松村千佳子、高木千明、矢野義孝：誤嚥性肺炎の予防に関する文献調査と基礎疾患別薬剤選択アルゴリズムの提案. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 23) 川端崇義、今西孝至、矢野義孝、高山 明：テキストマイニングを用いた薬学生のバイタルサイン聴取に対する意識調査. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 24) 口井創太、河野修治、津島己幸、橋詰 勉、高山 明：アトピー性皮膚炎の教育プログラムと治療に対する薬剤師介入の必要性. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (京都), 2014.10.
- 25) 今西孝至、近藤純子、高山 明：一般用医薬品のインターネット販売に対する薬学部生および非医療系学部生の意識調査. 第 47 回日本薬剤師会学術大会 (山形), 2014.10.
- 26) 赤尾優輔、今西孝至、池邊晋一郎、高山 明：在宅医療における訪問薬剤師のフィジカルアセスメント実施に対する訪問医・訪問看護師の意識調査. 第 47 回日本薬剤師会学術大会 (山形), 2014.10.
- 27) 小山裕之、河野修治、長野公美、堀井雅代、津島己幸、橋詰 勉、高山 明：薬剤自動識別照合システム Audy[®]における薬種鑑査機能の検証. 第 17 回近畿薬剤師学術大会 (和歌山), 2014.11.
- 28) 矢野義孝、地寄悠吾：がん化学療法における薬学的副作用対策を考慮した費用対効果に関するモデリング&シミュレーション. 第 30 回 Population Pharmacokinetics 研究会 (神戸), 2014.11.

講演等

- 1) 今西孝至：講義「薬剤師のためのフィジカルアセスメントトレーニング」. 京都北薬剤師会勉強会 (京都), 2014. 2.
- 2) 中村暢彦：臨床系教員による癌治療現場からの意見. 第1回若手研究者セミナー(京都), 2014.4.
- 3) 高山 明：山口県薬剤師会 平成26年度実務実習に関する「大学による実習説明会」(山口), 2014.4.
- 4) 松村千佳子：講演「患者 QOL 向上を目指したがん化学療法および緩和ケア～病院と大学の連携による臨床研究～」第2回大阪市東部緩和薬物療法ステップアップセミナー (大阪), 2014.8.

その他

- 1) 今西孝至：協力 (研修運営スタッフ). 平成25年度地域医療をチームで担う人材育成研修事業 (守山), 2014. 1-3 (毎週水曜日).
- 2) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成25年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第8回研修会) (守山), 2014. 1.
- 3) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成25年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第9回研修会) (守山), 2014. 2.
- 4) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成25年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第10回研修会) (守山), 2014. 3.
- 5) 今西孝至：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (奈良), 2014.3.
- 6) 本橋秀之：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (神戸), 2014.4.
- 7) 津島美幸：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (京都), 2014.4.
- 8) 中村暢彦：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (大阪), 2014.4.
- 9) 松村千佳子：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (西宮), 2014.4.
- 10) 河野修治：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (姫路), 2014.4.

- 11) 津島美幸：参加. 近畿地区実務実習地域連絡会 (和歌山), 2014.4.
- 12) 橋詰 勉：協力 (タスクフォース). 平成 26 年度薬学生実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ (大津), 2014.
- 13) 橋詰 勉：協力 (スタッフ). 薬学共用試験センター平成 26 年度薬学共用試験 OSCE 説明会 (東京), 2014.4.
- 14) 今西孝至：協力 (研修運営スタッフ). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修事業 (守山), 2014. 4-12 (毎週水曜日).
- 15) 今西孝至：協力 (チューター). 第 29 回日本医学会総会 2015 関西 プレイベント 第 4 回医療チーム学生フォーラム (高槻), 2014. 5.
- 16) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第 1 回研修会) (守山), 2014. 6.
- 17) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第 2 回研修会) (守山), 2014. 7.
- 18) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第 3 回研修会) (守山), 2014. 8.
- 19) 橋詰 勉：協力 (タスクフォース). 日本薬学会第 4 回全国学生ワークショップ「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」(府中), 2014.8.
- 20) 橋詰 勉：協力 (タスクフォース). 薬学共用試験 OSCE に関するワークショップ(東京), 2014.9.
- 21) 矢野義孝：参加. 薬学共用試験 OSCE に関するワークショップ(東京), 2014.9.
- 22) 矢野義孝：参加. 薬学共用試験センター平成 26 年度薬学共用試験 OSCE モニター説明会 (東京), 2014.9.
- 23) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第 4 回研修会) (守山), 2014. 9.
- 24) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成 26 年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第 5 回研修会) (守山), 2014.10.

- 25) 津島美幸：協力(スタッフ). 日本医療薬学会 第2回薬物療法専門薬剤師集中講義(京都), 2014.10.
- 26) 今西孝至: 協力 (タスクフォース). 第75回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 (草津), 2014.11.
- 27) 今西孝至：協力 (ファシリテーター). 平成26年度地域医療をチームで担う人材育成研修 (第6回研修会) (守山), 2014.11.
- 28) 橋詰 勉：参加. 日本薬学会 医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ(東京), 2014.11.
- 29) 橋詰 勉：協力 (タスクフォース). 日本薬学会第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ (大阪), 2014.11.
- 30) 今西孝至：評価者. 2014年度同志社女子大学薬学部 OSCE (京田辺), 2014.12.
- 31) 今西孝至：協力 (タスクフォース). 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修 (大阪), 2014.12.
- 32) 高山 明：評価者. 2014年度摂南大学薬学部薬学共用試験 OSCE (枚方), 2014.12.
- 33) 河野修治：評価者. 2014年度摂南大学薬学部薬学共用試験 OSCE (枚方), 2014.12.
- 34) 本橋秀之：評価者. 2014年度大阪薬科大学薬学部薬学共用試験 OSCE (高槻), 2014.12.
- 35) 矢野義孝：モニター員. 2014年度大阪大学薬学部薬学共用試験 OSCE (大阪), 2014.12.
- 36) 「京都薬科大学模擬患者の会」運営

情報処理教育研究センター

その他

- 1) 藤原洋一：協力(講師)．第1回研究支援セミナー「臨床研究に役立つデータ解析技能～表計算ソフト Excel の活用からレポート作成まで～」．京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都)，2014. 8.
- 2) 石川誠司：協力(タスクフォース)．第1回研究支援セミナー「臨床研究に役立つデータ解析技能～表計算ソフト Excel の活用からレポート作成まで～」．京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都)，2014. 8.
- 3) 石川誠司、藤原洋一：協力(タスクフォース)．第3回研究支援セミナー「臨床研究に役立つデータ解析技能～統計計算手法の習得と結果の解釈～」．京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都)，2014. 9.
- 4) 藤原 洋一：第154回応急手当普及員講習会(再講習)(京都)，2014. 10.
- 5) 藤原洋一：評価者．2014年度摂南大学薬学部 薬学共用試験 OSCE(枚方)，2014. 12.
- 6) 石川誠司：評価者．2014年度大阪薬科大学 薬学共用試験 OSCE(高槻)，2014. 12.

学生実習支援センター

学会発表等

学会発表

- 1) 河野享子、平山恵津子、若槻 徹、北出達也: 6年制薬学における初年次実験実習教育への取り組み. 初年次教育学会第7回大会(奈良), 2014.9.

その他

- 1) 河野享子: 応急手当普及員再講習会(京都), 2014.5.
- 2) 河野享子: 滋賀県立大学主催・関西地区FD連絡協議会共催イベント: 「授業の基本」研修会 ― 視聴覚教材を用いる授業のために ― 参加(滋賀), 2014.6.
- 3) 河野享子: 神戸薬科大学主催・関西地区FD連絡協議会共催イベント: 「授業の基本」+ 「成績評価」ワークショップ 参加(兵庫), 2014.8.
- 4) 高尾郁子、小関 稔、河野享子、大谷有佳、竹島繁雄、平山恵津子、北出達也: 理科教室「身近な夏の不思議体験2014 イン 山科: イクラのようでイクラでない: 人工イクラを作ってみよう!, 水を吸う不思議な粉: 芳香剤も作ってみよう!」。山科“きずな”支援事業補助金交付対象事業, 山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会共催, (京都薬科大学), 2014.8.
- 5) 河野享子: 関西地区FD連絡協議会主催イベント: 思考し表現する学生を育てる VI ― コピペではなく自分の頭で考えさせるためのライティング指導 ― 参加(京都), 2014.12.
- 6) 高尾郁子: 薬学共用試験(OSCE) 評価者(大阪薬科大学), 2014.12.
- 7) 木村 徹: 薬学共用試験(OSCE) 評価者(同志社女子大学), 2014.12.

薬用植物園

学会発表等

学会発表

- 1) 森信之介、大石雅典、(故) 福井宏至、(故) 後藤勝実、月岡淳子、佐久間正幸、平井伸博：花粉に含まれる蛍光物質の化学生態学. 日本農芸化学会 2014 年度大会 (東京), 2014.3.
- 2) 増田晃秀、土田貴志、月岡淳子、後藤勝実：山梔子の基原及び品質に関わる研究 (第 3 報) —クチナシの形態的特徴及び成分分析—. 日本生薬学会第 61 回年会 (福岡), 2014.9.
- 3) 藤原道郎、前田晋作：地域資源としての海岸域および海岸林. 平成 26 年度日本海岸林学会田原大会 (愛知), 2014.10.
- 4) 森信之介、大石雅典、川上真理、(故) 福井宏至、(故) 後藤勝実、月岡淳子、佐久間正幸、平井伸博：花粉に含まれる蛍光物質の化学生態学 (第 2 報). 植物化学調節学会第 49 回大会 (京都), 2014.10.

その他

- 1) 月岡淳子、前田晋作：植物解説. NVR 友の会 (栗東自然観察の森ボランティア) 見学 (薬用植物園), 2014.5.
- 2) 月岡淳子：植物解説. 奈良花写真の会見学 (薬用植物園), 2014.5.
- 3) 月岡淳子：植物解説. Daigo もちもち (京都市伏見保健センター醍醐支所) 見学 (薬用植物園), 2014.5.
- 4) 月岡淳子、前田晋作：植物解説. 京都科学読み物研究会見学 (薬用植物園), 2014.6.
- 5) 月岡淳子：講師. 公益財団法人日本薬剤師研修センター主催平成 26 年度漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修 (京都), 2014.6.
- 6) 松田久司、前田晋作、月岡淳子：植物解説. 京都薬科大学オープンキャンパス (薬用植物園補助園), 2014.6.
- 7) 松田久司、前田晋作：植物解説. 第 24 期京都漢方錬成講座 (薬用植物園補助園), 2014.6.
- 8) 松田久司、前田晋作、月岡淳子：植物解説. 一般社団法人日本セカンドライフ協会見学 (薬用植物園補助園), 2014.7.

- 9) 月岡淳子、前田晋作：植物解説. 塩野義製薬植物同好会見学（薬用植物園），2014.7.
- 10) 月岡淳子、前田晋作：植物解説. 伝統漢方研究会見学（薬用植物園），2014.7.
- 11) 前田晋作：植物解説. 京都文教高校見学（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園補助園），2014.7.
- 12) 月岡淳子：講師. 京都薬科大学附属薬用植物園公開講座「第23回日野けしのみ塾」（京都），2014.9.
- 13) 前田晋作：植物解説. 滋賀県立石山高校見学（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園補助園），2014.9.
- 14) 松田久司、前田晋作：植物解説. 第24期京都漢方錬成講座（薬用植物園補助園），2014.9.
- 15) 月岡淳子：講演「染料に利用された植物」. 高知県田野町教育委員会主催「土佐の自然環境と健康を考えるフォーラム」（高知）2014.9.
- 16) 月岡淳子：講師. 京都薬科大学附属薬用植物園公開講座「第24回日野けしのみ塾」（京都），2014.9.
- 17) 月岡淳子：講師. 公益財団法人日本薬剤師研修センター主催平成26年度漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修（京都），2014.10.
- 18) 松田久司、前田晋作、月岡淳子：展示協力、薬用植物園補助園における植物解説. 第20回京都薬科大学公開講座（京都），2014.10.
- 19) 月岡淳子：講師. 公益財団法人京都YMCA ワイルドベリーチームプログラム「薬草を知ろう」（薬用植物園），2014.10.
- 20) 前田晋作：植物解説. 日本ハーブ療法研究会第2回学術集会（薬用植物園補助園），2014.10.

論文

- 1) Youhei Saito, Akihisa Yukawa, Masashi Matozaki, Hiroki Mikami, Tomohiro Yamagami, Nobuyuki Yamagishi, Takahisa Kuga, Takumi Hatayama, Yuji Nakayama. Nmi interacts with Hsp105 β and enhances the HSP105 β -mediated Hsp70 expression. *Exp Cell Res* **327**, 163-170 (2014).
- 2) Nobuyuki Yamagishi, Ryota Nakao, Rumi Kondo, Mai Nishitsuji, Youhei Saito, Takahisa Kuga, Takumi Hatayama, Yuji Nakayama. Increased expression of sorcin is associated with multidrug resistance in leukemia cells via up-regulation of MDR1 expression through cAMP response element-binding protein. *Biochem Biophys Res Commun* **448**, 430-436 (2014).
- 3) Yuji Nakayama, Youhei Saito, Shuhei Soeda, Erika Iwamoto, Sayuri Ogawa, Nobuyuki Yamagishi, Takahisa Kuga, Naoto Yamaguchi. Genistein induces cytokinesis failure through RhoA delocalization and anaphase chromosome bridging. *J Cell Biochem* **115**, 763-771 (2014).

学会発表等

学会発表

- 1) 齊藤洋平、中村嘉亜、並河智美、中川喬統、柿花采那、岡本育志郎、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：核内低分子リボ核タンパク質 SNRPE による Hsp70 の発現亢進。日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 2) 多田円香、齊藤洋平、湯川明久、的崎雅史、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治：AG490 による熱ショックタンパク質 Hsp70 の発現抑制。日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 3) 山岸伸行、中尾亮太、齊藤洋平、久家貴寿、中山祐治、畑山巧：Sorcin は CREB-1 の活性化を介して MDR1 遺伝子発現を増強する。日本薬学会第 134 年会(熊本), 2014.3.
- 4) 池内正剛、岩本絵里香、抱恵子、本田拓也、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、山口直人、中山祐治：v-Src 発現による chromosome bridge 形成メカニズムの解明。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 5) 柿花采那、齊藤洋平、山根鉄平、山岸伸行、久家貴寿、中山祐治：Hsp105 ノックダウンによる細胞分裂促進－M 期チェックポイント制御－。第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京

都),2014.10.

- 6) 海堀祐一郎、山岸伸行、畑信二、中島由利恵、久家貴寿、齊藤洋平、中山祐治：小胞体分子シャペロン GRP78 による伸長ポリグルタミン鎖含有タンパク質の凝集抑制. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 7) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：アドリアマイシンによる熱ショックタンパク質 Hsp105 の核局在化. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 8) 三上大貴、齊藤洋平、柳澤匡寛、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：HIF-1 α による熱ショックタンパク質 Hsp105 の核局在. 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都),2014.10.
- 9) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：熱ショックタンパク質 Hsp105 のアドリアマイシンによる核局在化メカニズム. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜),2014.11.
- 10) Youhei Saito, Akihisa Yukawa, Masashi Matozaki, Hiroki Mikami, Nobuyuki Yamagishi, Takahisa Kuga, Yuji Nakayama : Nmi enhances the Hsp105 β -mediated Hsp70 expression through the Stat signaling pathway. 第 37 回日本分子生物学会年会(横浜),2014.11.

その他

- 1) 山岸伸行：協力（タスクフォース）。「第 71 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」（大阪）, 2014.3.
- 2) 山岸伸行：「放射性取扱主任者のための登録定期講習会（密封・非密封線源、放射線発生装置）参加(大阪), 2014.5.
- 3) 山岸伸行：「国際規制物資の使用に関する申請及び報告の記載要領講習会」参加(大阪), 2014.6.
- 4) 山岸伸行：「平成 26 年度大学等における放射線安全管理研修会」参加(東京), 2014.8.
- 5) 山岸伸行：「平成 26 年度放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修」参加（大阪）, 2014.11.
- 6) 山岸伸行：協力（タスクフォース）。「第 75 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショ

ップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」（滋賀）,2014.11.

- 7) 池内正剛、岩本絵里香、抱恵子、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：v-Src 発現による DNA 損傷応答を介した chromosome bridge 形成. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム(京都),2014.11.
- 8) 山根鉄平、齊藤洋平、島田雅史、加藤圭穂、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：抗がん剤による熱ショックタンパク質 Hsp105 α の核局在. 2014 年度創薬科学フロンティアシンポジウム(京都),2014.11.
- 9) 山岸伸行：平成 26 年度第 4 回分子イメージングに関する教育研修プログラム参加(宮城),2014.11.
- 10) 三上大貴、齊藤洋平、久家貴寿、山岸伸行、中山祐治：腫瘍組織における熱ショックタンパク質 Hsp105 の異常発現とその調節メカニズム. 2014 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業合同成果発表会(京都),2014.11.

バイオサイエンス研究センター

解説、報告書等

- 1) 西川 哲：新たに竣工した京都薬科大学バイオサイエンス研究センターの紹介. *岡山実験動物研究会報*, **30**, 46-49 (2014).

共同利用機器センター

学会発表等

その他

- 1) 小川俊次郎：評価者．2014年度 摂南大学 薬学部 薬学共用試験 OSCE（大阪），2014. 12.

補 遺

第 3 2 集

(2 0 1 3)

<補遺>

一般教育

論文

- 1) 桑形広司：数字らしき名字の真相. *京葉論集*, **20**, 39-48 (2013).
- 2) 野崎亜紀子：法的正義を考える；生命倫理学と法学の架橋の前に[研究ノート]. *京葉論集*, **20**, 31-37 (2013).
- 3) 坂本尚志：フーコーとヘーゲル—歴史の問題をめぐって. *京葉論集*, **20**, 5-15 (2013).

京都薬科大学教育研究業績録第 33 集 (2014)

印刷発行	2015年8月
編 集	企画・広報課
発 行	京都薬科大学
	〒607-8414
	京都市山科区御陵中内町5
	TEL 075-595-4691
	FAX 075-595-4750